

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第720集

しもむら  
**下村遺跡発掘調査報告書**

村道拡幅（黒崎地区）事業関連遺跡発掘調査

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第720集

下村遺跡発掘調査報告書

2020

(公財) 岩手県文化振興事業団  
村

2020

普代村  
(公財) 岩手県文化振興事業団

# 下村遺跡発掘調査報告書

村道拡幅（黒崎地区）事業関連遺跡発掘調査



## 序

岩手県には、一万箇所を超す貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。これらは地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、岩手県の歴史や文化、伝統を深く理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、これらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会资本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、自然環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、設立以来岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、村道拡幅（黒崎地区）事業に関連して、平成30年度に発掘調査した普代村下村遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、縄文時代中期の資料を得ることができました。本報告書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました普代村建設水産課、普代村教育委員会をはじめとする関係各位に対し深く感謝の意を表します。

令和2年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 高橋嘉行

## 例　　言

- 1 本報告書は、岩手県下閉伊郡普代村第3地割字黒崎 18番地 1 ほかに所在する下村遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、村道拡幅（黒崎地区）事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は普代村建設水産課と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、普代村の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号と今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。  
遺跡番号：JG93-2158　　遺跡略号：SM-18
- 4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。  
調査期間：平成30年8月1日～10月5日  
調査対象面積：869m<sup>2</sup>  
担当者：八木勝枝・戦場由裕・松渡耕己
- 5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。  
整理期間：平成30年10月1日～平成31年3月31日  
担当者：八木勝枝・戦場由裕
- 6 本報告書の執筆は、第Ⅰ章を普代村建設水産課、第Ⅱ・Ⅲ章を八木、第Ⅳ章を八木・戦場、第Ⅴ・Ⅵ章を八木が執筆した。
- 7 出土遺物の分析・鑑定は次の機関に委託した。  
石材・石質鑑定：花崗岩研究会  
年代測定：(株) 加速器分析研究所  
樹種同定：木炭協会
- 8 石器実測は株式会社ラングに委託した。
- 9 基準点測量は(株)スズマ測量設計に委託した。
- 10 発掘調査及び資料整理にあたり、以下の方々から指導・助言をいただいた。(敬称略・五十音順)  
菅野紀子、児玉準、小林克
- 11 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 12 調査成果は、既に当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、記載が異なる場合は本報告書の報告が全てに優先する。

## 凡 例

- 1 遺構実測図の縮尺は以下のとおりである。
  - 住居跡：1/60
  - 住居跡の炉：1/30
  - 土坑：1/50
- 2 層位は基本層序にはローマ数字を、遺構の覆土にはアラビア数字を用いた。
- 3 各遺物の縮尺は原則以下のとおりである。なお、紙幅の制約上、これに依らないものについては個々に示した。
  - 土器・礫石器：1/3
  - 剥片石器：2/3
  - 土製品：2/3
- 4 遺構図版及び遺物図版中に網掛けをしている場合は、個々に凡例を付している。
- 5 国土地理院発行の地形図を掲載したものには、図中に図幅名と縮尺を付した。
- 6 本書本文中では、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書と「岩埋文報」と省略する。

# 目 次

I 調査に至る経過 .....	1
II 立地と環境 .....	1
1 遺跡の位置と立地 .....	1
2 周辺の地形 .....	3
3 周辺の遺跡 .....	3
III 調査・整理の方法 .....	8
1 野外調査 .....	8
(1) 試掘・表土除去 .....	8
(2) 調査区区割り設定 .....	8
(3) 遺構検出と精査 .....	8
(4) 写真撮影 .....	8
2 室内整理 .....	8
(1) 遺構図版の整理 .....	8
(2) 遺物の整理 .....	9
(3) 写真撮影と整理 .....	9
IV 検出された遺構 .....	10
1 調査の概要 .....	10
(1) 調査経過 .....	10
(2) 基本層序 .....	10
2 検出遺構 .....	10
(1) 住居跡 .....	10
(2) 土坑 .....	18
(3) 陥し穴状遺構 .....	24
(4) 柱穴状小土坑 .....	24
V 出土遺物 .....	41
1 土器 .....	41
2 土製品 .....	41
3 石器 .....	41
VI 自然科学分析 .....	72
放射性炭素年代 (AMS測定) .....	72
VII 総括 .....	75
1 住居跡 .....	75
2 土坑 .....	75
3 土器 .....	78
4 まとめ .....	78
報告書抄録 .....	117

## 図 版 目 次

第 1 図 遺跡位置図 .....	2	第 27 図 7・8号住居跡出土土器 .....	47
第 2 図 地形分類図 .....	4	第 28 図 8・10・11号住居跡出土土器 .....	48
第 3 図 調査区位置図 .....	5	第 29 図 12・13号住居跡、1~5号土坑出土土器 .....	49
第 4 図 周辺の遺跡 .....	7	第 30 図 6号土坑出土土器(1) .....	50
第 5 図 遺構配置図 .....	9	第 31 図 6号土坑出土土器(2) .....	51
第 6 図 基本土層 .....	10	第 32 図 7・8・11・13・14号土坑出土土器 .....	52
第 7 図 1号住居跡 .....	25	第 33 図 15・19・21号土坑、2号陥し穴状遺構出土 土器 .....	53
第 8 図 2・3号住居跡(1) .....	26	第 34 図 遺構外出土土器、陶磁器、土製品 .....	54
第 9 図 2・3号住居跡(2) .....	27	第 35 図 1・2号住居跡出土石器 .....	55
第 10 図 4号住居跡(1) .....	28	第 36 図 2号住居跡出土石器 .....	56
第 11 図 4号住居跡(2)・5号住居跡 .....	29	第 37 図 2・3号住居跡出土石器 .....	57
第 12 図 6号住居跡、7号住居跡(1) .....	30	第 38 図 4~6号住居跡出土石器 .....	58
第 13 図 7号住居跡(2) .....	31	第 39 図 7・8号住居跡出土石器 .....	59
第 14 図 8号住居跡(1) .....	32	第 40 図 8・9・11号住居跡出土石器 .....	60
第 15 図 8号住居跡(2)・9・10号住居跡 .....	33	第 41 図 11~13号住居跡、2号土坑出土石器 .....	61
第 16 図 11~13号住居跡 .....	34	第 42 図 2~4・6・7号土坑出土石器 .....	62
第 17 図 1~5号土坑 .....	35	第 43 図 7・9・11・13・15号土坑出土石器 .....	63
第 18 図 6~8号土坑 .....	36	第 44 図 15号土坑出土石器 .....	64
第 19 図 9・11~13号土坑 .....	37	第 45 図 19号土坑、ピット1、遺構外出土土器 .....	65
第 20 図 14~17号土坑 .....	38	第 46 図 住居跡集成図 .....	76
第 21 図 18~21号土坑・ピット1 .....	39	第 47 図 土坑集成図 .....	77
第 22 図 1・2号陥し穴状遺構 .....	40	第 48 図 遺構内出土土器集成図(1) .....	79
第 23 図 1・2号住居跡出土土器 .....	43	第 49 図 遺構内出土土器集成図(2) .....	80
第 24 図 2号住居跡出土土器 .....	44	第 50 図 遺構配置概念図 .....	81
第 25 図 2・4号住居跡出土土器 .....	45		
第 26 図 4~7号住居跡出土土器 .....	46		

## 表 目 次

第 1 表 周辺遺跡一覧 .....	7	第 5 表 石器観察表 .....	69
第 2 表 出土地点別石器数 .....	42	第 6 表 土製品観察表 .....	71
第 3 表 石器器種別石材 .....	42	第 7 表 コハク・骨観察表 .....	71
第 4 表 土器・陶器観察表 .....	66		

## 写真図版目次

写真図版 1 航空写真	84	写真図版 18 19～21号土坑、基本土層	101
写真図版 2 出土遺物	85	写真図版 19 1・2号住居跡出土土器	102
写真図版 3 1号住居跡	86	写真図版 20 2号住居跡出土土器	103
写真図版 4 2・3号住居跡(1)	87	写真図版 21 2・4号住居跡出土土器	104
写真図版 5 2・3号住居跡(2)	88	写真図版 22 4～7号住居跡出土土器	105
写真図版 6 4号住居跡(1)	89	写真図版 23 7・8号住居跡出土土器	106
写真図版 7 4号住居跡(2)	90	写真図版 24 8・10～13号住居跡、1・2号土坑 出土土器	107
写真図版 8 5・6号住居跡	91	写真図版 25 3～6号土坑出土土器	108
写真図版 9 7号住居跡(1)	92	写真図版 26 6～8・11号土坑出土土器	109
写真図版 10 7号住居跡(2)	93	写真図版 27 13～15号土坑出土土器	110
写真図版 11 8号住居跡(1)	94	写真図版 28 19・21号土坑、2号竪穴状遺構、遺 構外出土土器、陶磁器、土製品	111
写真図版 12 8号住居跡(2)、9号住居跡・10号 住居跡(1)	95	写真図版 29 1・2号住居跡出土石器	112
写真図版 13 10号住居跡(2)、11号住居跡、12号 住居跡(1)	96	写真図版 30 2～7号住居跡出土石器	113
写真図版 14 12号住居跡(2)、13号住居跡、陥し 穴状遺構、ピット1	97	写真図版 31 7～9・11～13号住居跡出土石器	114
写真図版 15 1～6号土坑	98	写真図版 32 2～4・6・7・9・11・13・15号土 坑出土石器	115
写真図版 16 7～9・11～13号土坑	99	写真図版 33 15・19号土坑、ピット1、遺構外出土 石器・コハク・骨	116
写真図版 17 13・14・16～18号土坑	100		

## I 調査に至る経過

下村遺跡は、村道黒崎港線道路改良工事の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

村道黒崎港線は、本村の主産業である水産業を営む方が多く居住しており本村の水産業の拠点となっている地区の1つであり、水産会社及び水産業経営者のトラックの運行が多い路線となっている。

また、当該地区的公民館へ繋がる道路であり、介護施設や地区的運動施設へのアクセス道路の一部でもあることから、地域の住民だけではなく、各種施設利用者にとっても重要な役割を担っている。

当該区間は幅員狭小であり見通しも悪く事故等が発生していることから、改良工事により十分な車道幅員を確保し、生活道路としての機能向上を図るものである。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成28年5月18日付けにより、普代村長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成28年5月24日に試掘調査を行い、平成28年6月1日付け教生第1367号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成30年8月1日付けで公益財團法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(普代村建設水産課)

## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置と立地

下村遺跡が所在する普代村は、岩手県沿岸部最北端に位置し、南は田野畠村、西は岩泉町、北は野田村に隣接する。明治4年(1871年)に下閉伊郡普代村が成立し、総面積は69.69km<sup>2</sup>、平成31年1月31日時点の総人口は2,713人である。

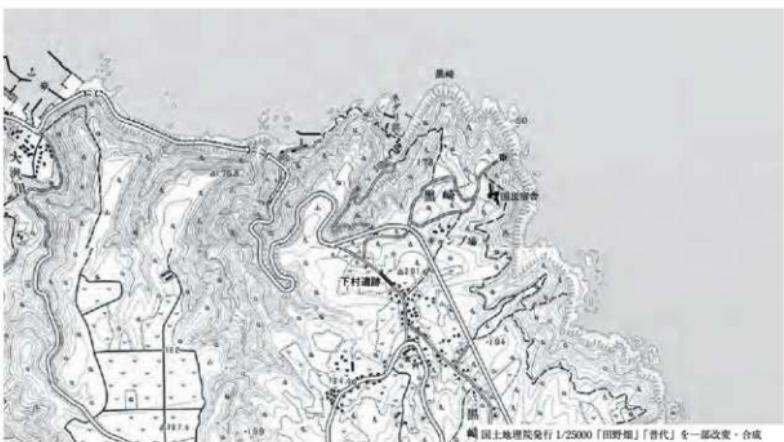
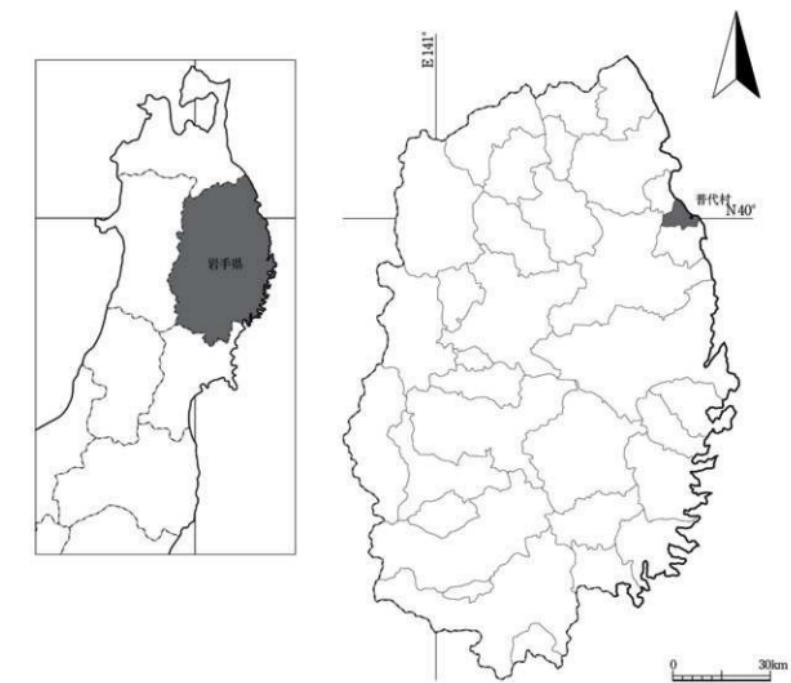
下村遺跡は、三陸鉄道北リアス線普代駅から東方向に約3.6km、黒崎灯台から南西方向に約870mの地点にあり、海岸段丘頂部付近の標高196m前後に位置する。黒崎から北山崎を経て弁天崎までは総延長約8kmで、北山崎や鵜の巣断崖などの標高50~200mの海食崖と段丘面の海成段丘からなる景勝地が連なっている。これらの海岸部は、昭和30年5月2日に陸中海岸国立公園に指定された範囲にあたり、平成25年5月24日には三陸復興国立公園として範囲拡大されている。

調査地点は、北緯40°0'05.1"、東経141°55'43.5"付近に位置する。地図上では、国土地理院発行2万5千分の1地形図「田野畠」NJ-54-13-1-1に含まれる。

### 2 周辺の地形

前述のとおり、本遺跡が立地する黒崎地区は南北に広く連続する隆起海岸で、海成段丘が発達している。海成段丘面(九戸段丘)の高度分布はおよそ100~200mで黒崎地区が最も高く、北山崎などの南部に向かって高度が下がっている。黒崎地区の海岸はほとんどが海食崖地形であるが、最も近い海岸線は約700m北に位置するネダリ浜で、遺跡周辺から北流する沢によって形成された砂浜海岸を

2. 周辺の地形



第1図　遺跡位置図

呈している。海成段丘（九戸段丘）には目立った河川はないものの、小規模の谷が複雑に開析されており、下村遺跡は最も広い高位面上に立地している。

### 参考文献

- 岩手県企画開発室（北上山系開発）1974『北上山系開発地域土地分類基本調査 野田』
- 岩手県企画開発室（北上山系開発）1974『北上山系開発地域土地分類基本調査 岩泉』
- 岩手県企画開発室（北上山系開発）1975『北上山系開発地域土地分類基本調査 岩泉（別冊）』

### 3 周辺の遺跡

平成 29 年度岩手県遺跡台帳に登録されている普代村の遺跡は 60 箇所で、机遺跡・堀内遺跡・蝦夷森遺跡・力持遺跡・普代遺跡が集落跡に分類されている。また、50 箇所で縄文土器の散布状況が確認されており、下村遺跡の位置する黒崎地区には遺跡が密集している。

黒崎地区的縄文時代遺跡発掘調査事例は、平成 13 年 3 月 5 ~ 7 日に実施された下村遺跡・下村 I 遺跡の発掘調査がある。農業用水道管敷設に伴って細長い範囲が調査されており、本報告書の平成 30 年調査区内農業用水道部分に相当する。なお、平成 13 年度報告では、平成 30 年調査 8 号住居跡あたりから南を下村遺跡、4 号住居跡あたりから北を下村 I 遺跡として発掘調査が行われている。平成 13 年調査で検出された遺構は、下村遺跡フ拉斯コ状土坑 1 基、下村 I 遺跡陥し穴状遺構 1 基である。下村遺跡で検出されたフ拉斯コ状土坑は平成 30 年調査 11 号住居跡の近辺だと考えられるが、平成 13 年度調査で既に全体の 4/5 が調査されている。フ拉斯コ状土坑の構造上、残る 1/5 は遺構検出面に遺構の存在が現れない。また、平成 13 年調査報告書では調査区及び遺構検出地点が不明であったため、地山面に現れない底面付近の掘り込みを予見することはできなかった。よって、平成 30 年調査では残り 1/5 を確認することができなかった。

下村 I 遺跡で半分調査された陥し穴状遺構 1 基は、遺構の構造上平成 30 年調査区でも検出されるはずである。しかし、検出が想定される地点ではフ拉斯コ状土坑しか出土していない。陥し穴状遺構の土層相は褐色シルトで構成されており、近似する堆積土を検出したのは平成 30 年調査の 4 号土坑（フ拉斯コ状土坑）である。

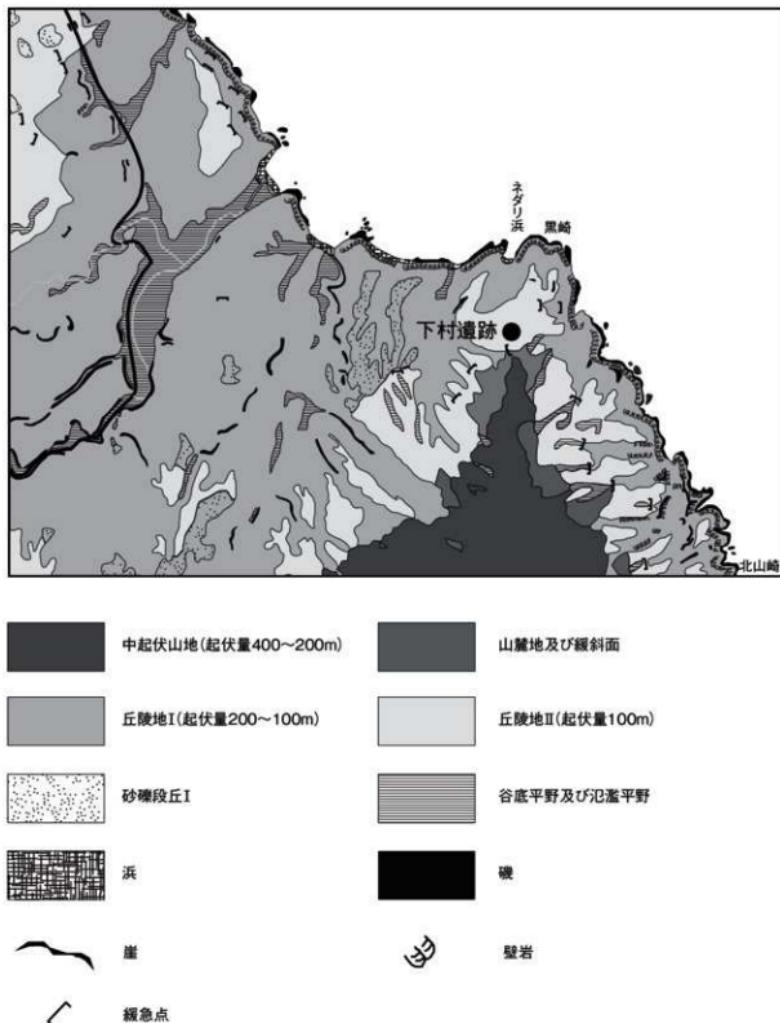
黒崎地区以外では、力持遺跡・太田名部遺跡・堀内机遺跡・長途遺跡（平成 30 年 3 月報告書刊行）で発掘調査が行われている。

力持遺跡は、普代村バイパス建設に伴って発掘調査が行われている。平成 13 年 4 月 13 日 ~ 11 月 15 日、平成 14 年 4 月 15 日 ~ 11 月 26 日、平成 14 年 4 月 10 日 ~ 11 月 19 日の 3 箇年に亘って発掘調査が行われ、縄文時代の集落遺跡であることが分かっている。

3 箇年 6,664m<sup>2</sup>の発掘調査で検出された遺構は、住居跡 195 棟、土坑 253 基、埋設土器 6 基、焼土遺構 23 気、列石・集石 20 基、掘立柱建物跡 2 棟、柱穴群 6 箇所、捨て場 1 箇所、旧沢跡 4 条である。掘立柱建物跡 2 棟は近世建物で、これ以外は全て縄文時代前期前葉～中期末葉である。力持遺跡は斜度 15 ~ 30° の傾斜地に立地している。平坦面に乏しいにも関わらず、長時期に亘って集落が営まれ、遺構の重複が著しい。特筆される遺構として、①大形住居の検出、②壁高 2 m を測る深い住居跡の検出が挙げられている。

出土遺物は、前期前葉～中期末葉の土器 700 箱、土製品 150 点、石器 7,564 点、石製品 485 点、剥片約 31 箱、黒曜石数点、動植物遺存体 1,000 点以上、琥珀約 600 g 近世陶磁器 1 点が出土し、縄文

3. 周辺の遺跡



第2図 地形分類図



第3図 調査区位置図

時代前期から中期の大規模な集落遺跡であることが報告されている。大木式土器と円筒式土器両者が出土しており、文化圏が接触する北緯 40° 上の重要遺跡である。

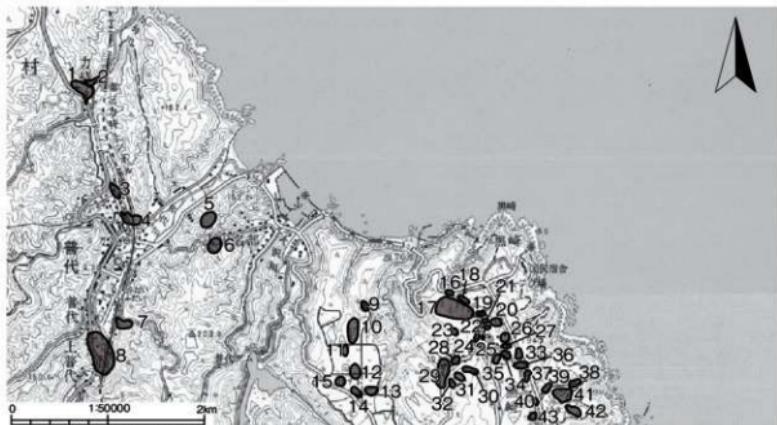
太田名部遺跡は、村営林業構造改善事業名神線開設に伴い、平成 9 年 5 月 6 日～8 月 6 日に発掘調査が行われている。遺跡は、太田名部港のある太田名部地区に所在し、高位段丘（九戸段丘）が開析された標高約 100 m の緩斜面地に立地する。発掘調査の結果、旧石器時代から平安時代までの遺構が見つかっている。

太田名部遺跡発掘調査の検出遺構は、住居跡 4 棟（縄文時代前期カ 1 棟、平安時代 2 棟、不明 1 棟）、陥し穴状遺構 7 基、土坑 4 基、埋設土器 1 基（縄文時代中期）、焚火跡 1 基（旧石器時代）である。出土遺物は、縄文時代（大木 2a 式、大木 2b 式、大木 4 式、大木 5 式、円筒上層 c 式、大木 8a 式）、統繩文時代（後北 C2-D 式、土師器カ）、石鎚、石匙、尖頭器、磨石、砥石が出土している。

堀内机遺跡は、県内貝塚内容確認調査事業として平成 9 年 9 月 27・28 日に調査が行われた。遺跡は堀内地区に所在し、野田村との村境に近い。海岸線から内陸へ 3 km の安家川右岸に位置する。

調査は 5 箇所の試掘グリッドによって行われた。調査の結果、縄文時代前期前葉～中期中葉、晚期の遺物が出土している。力持遺跡発掘調査報告書では、「遺跡は見晴らしの良い台地に立地し、この台地は全体的に平坦気味であり、大規模な集落遺跡が眠っていることを予見させる。」と現地踏査の結果が報告されている（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008「力持遺跡」）。なお、力持遺跡報告では、下村遺跡・下村 I 遺跡について、「調査区外の畠では縄文時代中期の土器（大木 8 式）を多量に表探できる。所見として、この遺跡は下村遺跡と下村 I 遺跡に区分されているが、地形の連続性からは両者の区分が難しく、一連の遺跡と判断される。そして、遺跡の中心部は調査地点の北側に展開するものと推定され、土器が多量に散在する状況からは、大規模な集落遺跡である可能性が窺える。」と記述がある（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008「力持遺跡」）。

（財）岩手県埋蔵文化財センター 1983『考古遺物資料集 第 3 集 岩手県種市町・野田村・大野村・山形村・普代村・田野畠村』  
普代村教育委員会 1998『太田名部遺跡－平成 9 年度緊急発掘調査報告書－』普代村埋蔵文化財調査報告書第 1 集  
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008『力持遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 510 集



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時代	出土遺物
1	力持	集落跡	縄文	縄文土器（前～後期）彫形土器（後期）石斧、環状耳飾、石匙
2	力持Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
3	宇留部Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
4	宇留部Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
5	昔代城	城館跡	中世	空堀、寺郭
6	太田名部	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石器
7	昔代	集落跡	縄文	注口土器、鈎手付壺、小形壺、縄文土器（後期）、石器
8	中村	散布地	縄文	縄文土器
9	和野山口	散布地	縄文	縄文土器（中期）、土器
10	和野山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
11	和野山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前期）
12	和野山Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前期）
13	和野山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
14	和野山Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
15	黒崎Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）
16	黒崎Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
17	黒崎Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
18	下村Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）、コア
19	下村	集落跡	縄文	縄文土器（後期）、石鏡、石臼、石棒、石棒
20	下村Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
21	下村Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器
22	下村Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器
23	黒崎Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器
24	黒崎Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、円筒
25	妙福寺	寺院跡	縄文・中世	縄文土器
26	下村Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
27	下村Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、土師器
28	黒崎Ⅸ	散布地	縄文	縄文土器
29	黒崎Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）
30	上村Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
31	上村Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
32	上村Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
33	上村Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器
34	下村Ⅶ	散布地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器？
35	上村Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）
36	上村Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（早期）
37	上村Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器
38	上村Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、フレーク
39	上村Ⅺ	散布地	縄文	縄文土器（早期）、貝冠文
40	上村XVI	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
41	上村X	散布地	縄文	縄文土器
42	上村XII	散布地	縄文	縄文土器
43	上村XI	散布地	縄文	縄文土器（前期）

### III 調査・整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 試掘・表土除去

調査区のほとんどが現道下であるため、発掘調査開始前にアスファルト敷きを撤去する必要があった。この作業は、岩手県教育委員会生涯学習文化財課立会の下、工事業者によって8月6日まで行われた。その後、岩手県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘削簡所に留意しながら、砂利敷下の表土除去を8月7日から8月22日まで重機を用いて行った。なお、現道下には水道管が2本埋設されていた。東側が農業用水道、西側が水道管であり、これらが埋設されている範囲を残して調査を行った。なお、農業用水道管理設前に、岩手県教育委員会によって埋設範囲の発掘調査が行われている（岩手県教委2001）。

岩手県教育委員会2001「10 農地開発事業普代地区関連調査 下村遺跡（JG93-2158）下村I遺跡（JG93-2147）」  
〔岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成12年度）〕

##### (2) 調査区区割り設定

調査区の基準点1・2及び補点1・2の平面直角座標値と標高値は以下のとおりである。

3級基準点 基 1 : X=726.145 Y=93542.344 H=197.800 m

3級基準点 基 2 : X=766.787 Y=93500.452 H=196.425 m

補点1 : X=736.000 Y=93526.000 H=197.424 m

補点2 : X=752.000 Y=93518.000 H=197.399 m

##### (3) 遺構検出と精査

遺構検出は試掘結果に基づき、重機による表土掘削後、地山面において行った。遺構精査は、住居跡は四分法、その他遺構については二分法を原則とした。しかし、調査区内を2本の水道管が通っており、掘削不可のため調査方法に制約があった。そのため、特に大きな住居跡についてはこの限りではない。個々の遺構は覆土の堆積状況・遺物出土状況、遺構全景の撮影を行い、断面図は人手で、平面図は電子平板によって記録を行った。遺構内の遺物は、遺構名・出土層位・地点を記録して取り上げ、遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

##### (4) 写真撮影

写真撮影は6×9判モノクロームフィルムカメラ（FUJI GSW690 III）1台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 6D）1台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。

#### 2 室内整理

##### (1) 遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板（株キューピック「遺構くん」システム）のデータを用いて作図し

た平面図と、調査員・野外作業員が作図した人手による断面図をデジタルデータ化して第二原図を作成した。

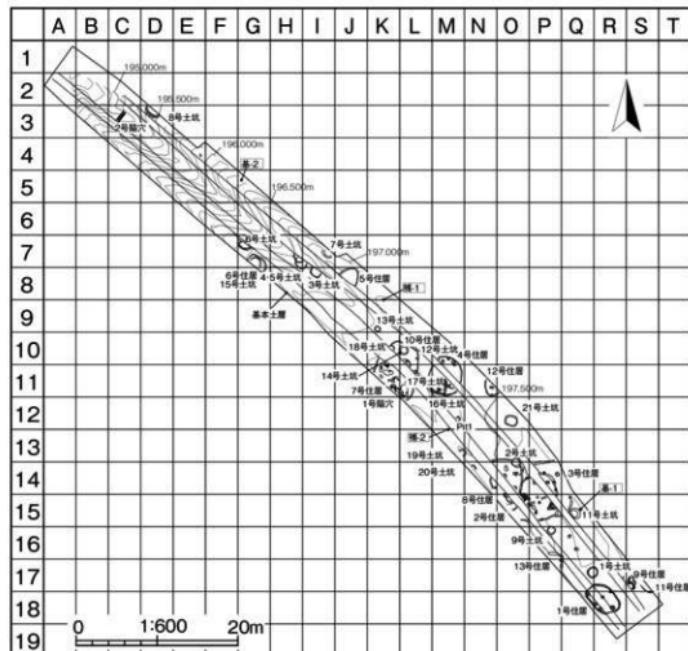
### (2) 遺物の整理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に収め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分に選別、掲載分は種別毎に仮番号を付して登録作業を行った。この後、実測・拓本・点検・修正、トレイス作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。本書への掲載は、遺構内出土遺物を優先した。

### (3) 写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等は、 $6 \times 9$  判モノクローム写真はネガとともにアルバム貼付し、デジタルカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめた。

遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフ (Canon EOS 6D) にて撮影した。



第5図 遺構配置図

## IV 検出された遺構

### 1 調査の概要

#### (1) 調査経過

平成30年8月1日に資材搬入、翌日から試掘調査を行った。重機による表土掘削は8月7日～22日を行い、併行して人力による遺構検出作業を行った。

#### (2) 基本層序

調査区のはば全域が現道下であることは先に述べた。そのため、ほとんどが後世の削平を受けていた。基本層序を確認するため、調査区中央部地境の高まりを用いた。

基本層序は次のとおりである。

I a 層	10YR2/3 黒褐色シルト	粘性弱 締疎（表土）
I b 層	10YR3/4 暗褐色シルト	粘性中 締中 褐色土粒直径5mm～1cmを20%含む（表土）
II 層	10YR3/4 暗褐色シルト	粘性中 締中 直径1cm炭粒1%含む
III a 層	10YR2/3 黒褐色シルト	粘性やや弱 締中 直径5mm炭粒1%含む
III b 層	10YR2/2 黒褐色シルト	粘性強 締やや密
IV a 層	10YR2/3 黒褐色シルト	粘性弱 締やや密 直径1～3mmの褐色土粒3%
IV b 層	10YR3/4 暗褐色シルト	粘性中 締やや密 直径1～3mmの褐色土粒3%、直径3mm炭粒1%含む
V 層	10YR4/6 褐色シルト	粘性強 締やや密
VI 層	10YR5/6 黄褐色シルト	粘性強 締密

V層以下は火山灰層と考えられるが、詳細な分析は行っていない。そのため、これまでに普代村で確認されているどの火山灰に対応するかは不明である。

### 2 検出遺構

#### (1) 住居跡

##### 1号住居跡（第7図、写真図版3）

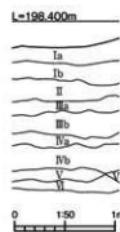
【位置・検出状況】調査区南、17Q・R、18Q・R グリッドに位置する。表土掘削後、V層上面で検出した。長軸方向に現水道の擾乱を受けている。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】楕円形を呈する。

【規模】長軸4.35m・短軸2.9m・深さ15cm

【覆土】黒褐色シルトが堆積しており、炭化物が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えら



第6図 基本土層

れる。

【床面・壁】床面はV層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は現水道搅乱を除き全周する。現道による搅乱が著しく、壁はほとんど残存していない。

【炉】2基確認した。炉1が石圓炉、炉2は地床炉である。炉1は主に板状の花崗岩を用いて60×45cmの方形に組まれた石圓炉である。炉1の石は床面から深さ16cm掘り窪めて設置されている。燃焼面は地床面から14cm深いところで検出した。炉2の焼成面確認範囲は38×30cmである。

【付属施設】柱穴状小ピット4個を確認した。配列は不規則で、主柱穴の配置は推測できない。

【出土遺物】(第23・34図、写真図版19・29)土器は1136.6g出土している。土器1はピットから出土している。石器は特殊磨石1点、敲石2点、打製石斧1点、二次加工剥片1点、礫器1点、多面体敲石2点を掲載した。

【時期】出土土器から、大木8a式期の可能性が考えられる。(八木)

#### 2号住居跡(第8・9図、写真図版4・5)

【位置・検出状況】14Oグリッドから15Pグリッドにかけて位置する。重機で表土除去を行ったところ、IVb層面に暗褐色の円形プランが確認されたため、トレチによる確認を行い、3号住居跡とともに検出した。本遺構は農業用水道管、水道管が北西方向から南東へ埋設されており、一部精査を行えなかった。また、本遺構の南西側約2mは確認できなかった。

【その他の遺構との重複】3号住居跡及び8号住居跡と重複している。

3号住居跡との重複部分では断面観察により本遺構が3号住居跡を切っていることを確認し、本遺構が新しいと判断した。

8号住居跡とは本遺構の北西部分で重複している。8号住居跡のD-D'断面では、本遺構床面より下部に8号住居跡の床面が確認できたため、本遺構が新しいものと考えられる。

【平面形】不整形と考えられる。

【規模】長軸6.0m・短軸5.1m・深さ32cm

【覆土】6層に分層した。1層の黒色シルトはⅢ層由来と考えられ、搅乱も見られる。2層の褐色シルトはIV層由来と考えられ、本遺構の床面約80%を覆っているため、2層の褐色シルトを本遺構覆土の主体部とした。3層は壁面崩落土と考えられる。4層は3号住居跡に伴う堆積土であり、5・6層は本遺構の炉2に伴う堆積土である。堆積状況は自然堆積と考えられる。

【床面・壁】床面はV層が露出した面を床面とし、概ね平坦である。壁は確認できなかった南西壁側約2mを除き、直立気味に立ち上がる。

【炉】南東側の炉を炉1、西側の炉を炉2とし、合わせて2基の石圓炉を確認した。炉1は石圓部と北側に接する被熱範囲を確認した。石圓部平面形は88×60cm、石圓炉内部の焼土は35×33cm被熱深度1cm、被熱範囲は25×15cm被熱深度8cmである。炉石による分断があるが断面(a-a')から一体のものと考えられる。炉2の平面形は確認可能範囲で106×92cm、焼土確認範囲は被熱深度8cm、38×28cm、炉底面の推定焼土範囲は79×39cmである。炉1は16cm、炉2は25cm床面を掘り下げて作られている。炉1は農業用水道管、炉2は水道管によって一部確認できなかった。

【付属施設】2号・3号住居跡の範囲内から合わせて11個の柱穴状ピットを確認した。2号住居跡に付属すると考えられるものはピット1~6と考えられ、ピットの規模(長軸×短軸×深さcm)は、P1(43×29×52)、P2(44×33×39)、P3(29×26×20)、P4(33×30×23)、P5(34×32×21)、P6(49×37×59)。なおP6は炉1石圓部の一部を掘り込んでいること、P1・2・

## 2. 検出遺構

6が炉2中軸線の延長線をはさみ対称的な位置にあることから、本遺構の最終形態として炉2とP1・2・6を作り段階が想定され、炉1は古い段階の可能性がある。配置に規則性は確認できなかったが、深さのあるP1・P2・P6が主柱穴と考えられる。

【出土遺物】(第23～25・34～37図、写真図版19～21、28～30) 覆土中より土器が出土している。まとまって出土したものは9箇所に分け、番号を振り取り上げた。南壁際の床面には密着して、47.1×22.5cmの自然礫1点が出土した。(戦場)

土器で型式判断できるのは3である。口縁部が欠けているが、口縁部下にはボタン状の貼付文に刺突によって加飾が施されている。体部には直線化したJ字状文が沈線によって描かれている。17は注口土器である。外面全体にLRが施文されている。

石器は石鏃1点、石匙1点、石錐1点、二次加工剥片2点、磨製石斧3点、打製石斧2点、磨製石斧未成品4点、多面体敲石2点、敲石2点、特殊磨石1点を掲載した。この他、磨製石斧1点、二次加工剥片2点、打製石斧7点、多面体敲石5点、敲石2点、特殊磨石1点、礫器1点、台石1点が出土している。土製品は粘土塊が3点出土しており、全点掲載した。

【時期】土器の多くは床面から少し高い位置から出土している。土器3の文様及び縄文施文の器形などから、遺構の時期は大木10式期と考えられる。(八木)

### 3号住居跡(第8・9図、写真図版4・5)

【位置・検出状況】14Oグリッドから15Qグリッドにかけて位置する。重機で表土除去したところ、IVb層面に暗褐色の円形プランが確認されたため、トレーナによる確認を行い2号住居跡とともに検出した。本遺構は農業用水道管が北西方向から南東へ埋設されており、一部精査を行えなかった。東側部分は調査区外へ及んでいる。

【その他の遺構との重複】2号住居跡と重複しており、2号住居跡により1/3程度壊されていると考えられる。

【平面形】残存する北壁が直線気味であることから全体形状は不整方形となると考えられる。

【規模】長軸6.34m・短軸4.12m(住居壁から調査区壁)・深さ11.4cm

【覆土】暗褐色シルトの単層である。堆積状況は自然堆積であると考えられる。

【床面・壁】床面はV層が露出した面を床面としており、概ね平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。

【炉】確認できず。

【付属施設】2号・3号住居跡の範囲内から合わせて11個の柱穴状ピットを確認した。3号住居跡に付属すると考えられるものはピット7～11であり、ピットの規模(長軸×短軸×深さcm)は、P7(51×49×14)、P8(32×25×8)、P9(39×31×47)、P10(26×25×14)、P11(31×28×16)である。これらのうち、深さのあるP9が主柱穴の一部であると考えられる。

【出土遺物】(第37図、写真図版30) 敲石が1点出土している。

【時期】土器の出土がなく、遺物からの時期判断が難しい。2号住居跡に切られていたため2号住居跡より古い。(戦場)

### 4号住居跡(第10・11図、写真図版6・7)

【位置・検出状況】調査区は中央、10M・11LMグリッドに位置する。表土掘削後、V層上面で検出した。短軸方向に農業用水道の擾乱を受けている。

【その他の遺構との重複】16号土坑と重複が認められ、4号住居の方が新しい。炉東側で検出した

P 1 (直径 65 × 深さ 45cm) は 4 号住居跡の柱穴としては大きく、床面で取り上げた土器が P 1 上面まで広がっていた。そのため、4 号住居跡より古い時期の土坑の可能性があるが、4 号住居跡に伴うものとして調査を行った。

〔平面形〕 楕円形を呈する。

〔規模〕 長軸 4.8 m · 短軸 4 m · 深さ 25cm

〔覆土〕 1 層黒褐色シルト、2 層褐色シルトが堆積している。褐色土粒が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

〔床面・壁〕 床面は V 層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は現農業用水道の攪乱を除き全周し、ほぼ直立する。

〔炉〕 長軸 1.8 m 短軸 0.9 m の複式炉を 1 基確認した。石の配置は散在しており現位置を保っていない可能性が考えられる。前庭部の掘り込みと前庭部の床面の硬化は著しい。炉内から遺物は多く出土していないが、中央部両脇に土器がまとまって出土している。

〔付属施設〕 柱穴状小ピット 7 個を確認した。複式炉の位置及びピットの形状・位置から、P 2 (直径 15cm × 深さ 12cm) · P 3 (25 × 68) · P 4 (38 × 20) · P 5 (30 × 36) · P 6 (35 × 35) が柱穴の可能性がある。この他、農業用水道下に 2 個残されている可能性がある。

〔出土遺物〕 (第 25・26、34、38 図、写真図版 21・22、28、30) 土器は 1732 g 出土している。石器は、多面体敲石 1 点、敲石 1 点、石皿 3 点が出土している。この他、粘土塊が 1 点出土している。

〔時期〕 土器 32 は大木 10 式期の特徴を備える。他の土器は縄文施文の土器片で、口縁部が外反している。これらの特徴から、大木 10 式期の可能性が考えられる。(八木)

#### 5 号住居跡 (第 11 図、写真図版 8)

〔位置・検出状況〕 調査区ほぼ中央、8J グリッドに位置する。表土掘削後、V 層上面で検出した。短軸方向に農業用水道の攪乱を受けている。

〔その他の遺構との重複〕 認められない。

〔平面形〕 確認範囲内では楕円形を呈する。

〔規模〕 長軸 (1.8) m · 短軸 2.95 m · 深さ 15cm

〔覆土〕 褐色シルト 1 層が堆積している。褐色粒が少量、炭粒が微量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

〔床面・壁〕 床面は V 層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は現農業用水道の攪乱を除き全周し、ほぼ直立する。

〔炉〕 調査範囲内では認められなかった。

〔付属施設〕 柱穴等の付属施設は認められなかった。

〔出土遺物〕 (第 26、38 図、写真図版 22、30) 土器は 285.1 g 出土している。石器は剥片が 1 点出土している。

〔時期〕 遺物がほとんど出土していない。土器 44 は大木 8b 式もしくは榎林式と考えられる。土器 45 は前期土器片と考えられるが、磨滅しており混入と考えられる。このことから大木 8b 式期の可能性がある。(八木)

#### 6 号住居跡 (第 12 図、写真図版 8)

〔位置・検出状況〕 調査区北側、7G · 8G グリッドに位置する。表土掘削後、IV 層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】15号土坑と重複し、6号住居跡の方が古い。

【平面形】調査範囲内では梢円形を呈する。

【規模】長軸2.5m・短軸1.35m・深さ15cm

【覆土】暗褐色シルト1層が堆積している。褐色粒が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

【床面・壁】床面はV層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は調査区外を除き全周し、ほぼ直立する。

【炉】調査範囲内では認められなかった。

【付属施設】柱穴等の付属施設は認められなかった。

【出土遺物】(第26、38図、写真図版22、30)土器は935.4g出土している。石器は二次加工剥片1点、特殊磨石1点が出土している。

【時期】出土土器は少ないが、前期前半の土器片である。それほど磨滅もしていないため、前期の可能性があるが、覆土は暗褐色土で前期前半の土とは考え難い。15号土坑は出土土器から大木8b式期と判断されることから、6号住居跡の時期は前期から大木8b式以前と考えられる。(八木)

#### 7号住居跡(第12・13図、写真図版9・10)

【位置・検出状況】調査区北側、10K・11K・Lグリッド付近に位置する。表土掘削後、V層上面で検出した。南西側は調査区外に伸びる。北東側は水道管理設があり、調査を行うことができなかった。

【その他の遺構との重複】1号炉付近で1号陥り穴状遺構と重複し、7号住居跡の方が新しい。10号住居跡とは水道管理設範囲で重複すると考えられるが、確認できなかった。なお、4号住居跡とは床面の高さが異なるため、別住居跡と考える。

【平面形】西壁が直線的で、さらに対面する東壁がほぼ平行であるため、全体の形状は方形を呈すると考えられる。

【規模】長軸5.65m・短軸(2.4)m・深さ40cm

【覆土】上層の暗褐色土1・2層と、下層の褐色土3・4層に区分される。3層は炭粒が非常に多く、上面で広範囲に炭化材を検出した。焼失住居の可能性がある。炭化材は樹種同定を行い、全てサワグルミと同定されている。また、炭化材1~3は年代測定も行った。詳細は第IV章の報告で示しているとおりであるが、炭化材1が $4,080 \pm 30$ (yrBP)、炭化材2が $4,050 \pm 30$ (yrBP)、炭化材3が $4,000 \pm 30$ (yrBP)との計測結果が提示されている。

【床面・壁】床面はV層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は調査区外を除き全周し、ほぼ直立する。

【炉】南東側調査区境に炉1、北側水道管境に炉2を検出した。炉1は石窯炉で、残存範囲の計測値は長軸76cm・短軸74cmである。床面を20cm掘り下げて礫7点を据えて作られている。石窯内部で被熱範囲を $30 \times 24$ cmの範囲で確認した。また、石4を外した下面においても $28 \times 8$ cmの範囲で被熱範囲を確認した。1号炉に用いられた石材は、炉石1頁岩(中生代・北上山地)、炉石2班岩(中生代白亜紀・北上山地)、炉石3ディサイサイト(中生代白亜紀・北上山地)、炉石4班岩(中生代白亜紀・北上山地)、炉石5細粒閃綠岩(中生代白亜紀・北上山地)、炉石6細粒花崗閃綠岩(中生代白亜紀・北上山地)、炉石7班岩(中生代白亜紀・北上山地)であり、在地石材を使用していることが分かった。炉2は床面を直径76cm×(28)cm×深さ14cm掘り下げて作られている。内部及び近辺から礫3点が出土したが、被熱の痕跡が認められず、炉2に伴う礫かは不明である。礫2はヒン岩(中生代白亜紀・

北上山地)、礫3はホルンフェルス(中生代・北上山地)である。

【付属施設】柱穴を3個確認した。P1(直径45cm×深さ65cm)、P2(30×55)、P3(30×60)である。

【出土遺物】(第26・27、39図、写真図版22・23、30・31)土器は935.4g出土している。石器は、石匙1点、石錐1点、多面体敲石9点、礫器1点、磨石1点、石皿1点が出土している。

【時期】床面から土器49・50・51・55・57・58等が出土していることから、大木10式期と考えられる。(八木)

#### 8号住居跡(第14・15図、写真図版11・12)

【位置・検出状況】13Nグリッドから15Oグリッドにかけて位置する。2号土坑断面で本遺構を確認した。

【その他の遺構との重複】2号土坑及び2号住居跡と重複している。本遺構は2号土坑よりも古い。また、本遺構南西部断面(D-D')において、床面より高い位置で2号住居跡の床面と壁が確認できたことから、本遺構のほうが2号住居跡よりも古い。

【平面形】南西部分は調査区外へと伸びているため確認できなかったが、残存する壁面は直線状に伸びているため不整形であると考えられる。

【規模】長軸6.28m・短軸3.98m・深さ21cm

【覆土】4層からなる。3層の暗褐色シルトが主体であり、1、2、3層には根擾乱も見受けられた。4層は壁面崩落土と考えられる。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

【床面・壁】床面はVI層下部と考えられる面を床面としている。床面は概ね平坦であり壁は直立気味に立ち上がる。

【炉】南側の石圓炉を炉1、北側の地床炉を炉2とした。炉1の規模は59×47深さ12cm、焼成確認範囲は28×27cm、被熱深度6cmである。炉2の焼成面は北側・南側に2分割される状態であるため、それぞれの規模を示す。北側が26×31cm、被熱深度2cm、南側が42×36cm、被熱深度4cmである。炉1は住居内土坑によって一部壊されている。

【付属施設】住居内土坑1基、柱穴状ピット5個が確認された。ピットの規模(長軸×短軸×深さcm)は、P1(20×16×19)、P2(58×30×60)、P3(59×23×63)、P4(35×30×50)、P5(25×23×35)であり、主柱穴と考えられるものはP2・P3・P4である。5個のピットのうち、ピット1~3は水道管の埋設により全容は確認できなかった。

【出土遺物】(第27・28、39・40図、写真図版23・24、31)覆土中から土器が出土している。床面直上から土器2点、礫3点を取り上げた。(戦場)

石錐2点、石匙1点、磨製石斧2点、敲石2点、礫器1点、特殊磨石1点、磨石1点が出土している。石錐は有茎・無茎各1点である。

【時期】2号住居跡より古く、67・68・73・75が出土していることから、大木8b・櫻林式期と考えられる。円筒上層d式74・77は磨滅しており、混入の可能性がある。(八木)

#### 9号住居跡(第15図、写真図版12)

【位置・検出状況】17Sグリッドに位置する。民家解撤去後、VI層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】調査範囲内では重複は認められない。

【平面形】大部分が調査区外の民家敷地内下にあると考えられる。また、民家植木保護のため北西側の調査を行えなかつたため、全体の規模を推定することができない。

【規模】調査可能範囲内の残存値は、長軸1.15m×短軸35cm×深さ38cmである。

【覆土】暗褐色土2層からなり、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

【床面・壁】床面はVI層と考えられる面を床面としている。床面は平坦であり、硬く締まっている。壁は直立気味に立ち上がる。

【炉】調査範囲内では認められなかった。

【付属施設】調査範囲内では認められなかった。

【出土遺物】(第40図、写真図版31) 覆土中から石鏃が1点出土している。先端及び基部茎部分が欠損している。

【時期】調査区境で検出したことから、遺構の大部分が調査区外に伸びる。土器の出土が認められず、詳細な時期を判断することができない。しかし、堆積土からは、縄文時代中期と判断される。(八木)

#### 10号住居跡(第15図、写真図版12・13)

【位置・検出状況】10K・Lグリッドにかけて位置する。重機による表土除去後、暗褐色土の広がりと、遺物が散在していたことから認知した。

【その他の遺構との重複】12・14・17・18号土坑と重複関係が認められる。断面の観察から、12号土坑は10号住居跡より古く、17・18号土坑は10号住居跡より新しいと考えられる。14号土坑は10号住居跡床面精査時に確認したため、10号住居跡より古い可能性があるが確定できない。

【平面形】南西部分は調査区外へと伸びているため確認できなかつたが、北東及び東壁面が直線状に伸びているため不整形の可能性が考えられる。

【規模】長軸475cm・短軸218cm・深さ10cm

【覆土】2層からなる。壁側下位に褐色土、中央上位に暗褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

【床面・壁】床面はVI層下部と考えられる面を床面としている。床面は概ね平坦であり、壁は直立気味に立ち上がる。

【炉】12号土坑上面で焼土を確認した。地床炉の可能性があるが、表土からの攪乱も多く確証はない。

【付属施設】認められない。

【出土遺物】(第28図、写真図版24) 南東壁際から土器片が出土している。

【時期】床面から少し高いところで土器片84が出土している。縄文施文のみではあるが、大木8b式期の可能性が考えられる。(八木)

#### 11号住居跡(第16図、写真図版13)

【位置・検出状況】17Sグリッドに位置する。民家解体撤去後、表土直下で確認した。解体による攪乱が著しい。【その他の遺構との重複】調査可能範囲内では認められない。

【平面形】調査区間に位置し、さらに攪乱が著しいことから全体の形状を確認することができなかつた。

【規模】長軸215cm・短軸125cm・深さ7cm

【覆土】1層からなる。褐色土が主体であり、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

【床面・壁】VI層を床面としている。床面は平坦であり、壁は直立気味に立ち上がる。

【炉】1基確認した。北側に被熱範囲、南側に一段掘り下げた部分があり、南側壁際には礫が多数設置されている。さらに南側は農業用水道管理設にかかる攪乱があり、全体の形状は不明であるが、被熱範囲と礫が出土している一段低い部分に段差が認められることから、複式炉の可能性がある。被熱範囲の大きさは85×62cm、南側の一段掘り下げた部分は95×92cm、深さ32cmである。礫は拳大の小

さいものが多い。

〔付属施設〕認められなかった。

〔出土遺物〕(第 28、40・41 図、写真図版 24、31) 炉から土器が複数出土している。長軸を打ち欠き、刃部を作出した敲石が 1 点、円形の自然礫を使用した敲石が 1 点出土している。

〔時期〕民家塀下で検出したため、遺構はかなり搅乱を受けていた。土器片は底部片が出土しているが、土器片からは縄文時代中期とまでしか判断できない。炉の形態からは複式炉の可能性が考えられ、その場合中期後半と考えることができる。(八木)

#### 12 号住居跡（第 16 図、写真図版 13・14）

〔位置・検出状況〕 11 N・O グリッドに位置する。IV b 層掘削時に検出した。

〔その他の遺構との重複〕 調査範囲内では認められない。

〔平面形〕 北東部分は調査区外へと伸びているため確認できなかったが、西壁がやや直線状に伸びているため、楕円形であると考えられる。

〔規模〕 長軸 (205) cm・短軸 (168) cm・深さ 33cm

〔覆土〕 2 層からなる。下位の 2 層は暗褐色土、上位の 1 層は黒褐色土で、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

〔床面・壁〕 VI 層と考えられる面を床面としている。床面は平坦に調整されており、壁はやや外傾しながら立ち上がる。

〔炉〕 調査範囲のほぼ中央で地床炉 1 基を確認した。被熱範囲は 185 × 19cm である。

〔付属施設〕 調査範囲内では認められない。

〔出土遺物〕(第 29、41 図、写真図版 24、31) 炉と重なる位置から土器 87・88 が出土している。また、南壁際から土器 86 が出土している。土器 1 は、倒位の状態で出土した。打製石斧 1 点、多面体敲石 1 点、礫器 1 点が出土している。

〔時期〕 復元できる土器が床面から 3 点出土しており、大木 8 b 式・櫻林式期と考えられる。(八木)

#### 13 号住居跡（第 16 図、写真図版 14）

〔位置・検出状況〕 16P・17P・Q グリッドにかけて位置する。土坑として調査を始めたが、方形の平面形が推定され、床面も平らであることから住居跡として報告する。

〔その他の遺構との重複〕 調査範囲内では認められない。

〔平面形〕 ほぼ直角の隅を検出したため、全体の形状は方形を呈すると考えられる。

〔規模〕 長軸 (220) cm・短軸 (180) cm・深さ 65cm

〔覆土〕 4 層からなる。1～3 層の暗褐色土が主体であり、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

〔床面・壁〕 VII 層と考えられる面を床面としている。床面は平坦に調整されており、壁は直立気味に立ち上がる。

〔炉〕 調査範囲内では検出していない。

〔付属施設〕 ピット 1 個を検出した。直径 22cm 深さ 52cm で、柱穴の可能性が考えられる。

〔出土遺物〕(第 29、41 図、写真図版 24、31) 覆土中から土器が出土している。石器は、敲石が 1 点出土している。

〔時期〕 遺物は少ない。土器 91 はほぼ直立する器形が推定され、大木 10 式期の可能性があるが、縄文時代中期という以上に詳細な遺構の時期判断は難しい。(八木)

## (2) 土 坑

20基検出した。調査開始時10号土坑としたものは、精査途中で住居跡と判断した。そのため、10号土坑は精査途中から13号住居跡と変更し、本報告書では10号土坑を欠番とした。

### 1号土坑（第17図、写真図版15）

【位置・検出状況】17Q・Rグリッドに位置する。V層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】楕円形を呈する。

【規模】長軸130・短軸118・深さ40cm

【覆土】5層からなる。壁際の4・5層は褐色土、1～3層は黒褐色～暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面には凹凸があり、平滑とは言えない。

【出土遺物】（第29図、写真図版24）土器片が出土している。

【時期】土器片からは縄文時代中期と考えられる。（八木）

### 2号土坑（第17図、写真図版15）

【位置・検出状況】13O・14Oグリッドに位置する。表土除去後、V層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】8号住居跡と重複する。断面観察から、2号土坑の方が古いと考えられる。

【平面形】円形を呈する。床面近くがやや広く、開口部が若干狭い。

【規模】長軸118・短軸98・深さ84cm

【覆土】7層からなる。暗褐色～黒褐色土で構成され、自然堆積と判断した。

【底面・壁】底面は平坦に調整されている。

【出土遺物】（第29、41・42図、写真図版24、32）土器95は口縁部に無文帯がある。96は纖維を多く含み、縄文圧痕による文様が描かれている。磨滅が著しい。二次加工剥片が1点、敲石破片が2点出土している。敲石破片は、敲きの際に剥落したものと考えられる。

【時期】土器片から考えられる時期は、縄文時代中期である。（八木）

### 3号土坑（第17図、写真図版15）

【位置・検出状況】8Iグリッドに位置する。農業用水道管と村水道管の間に位置し、上面はかなり削平されている。表土直下で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】円形を呈する。断面形は、底面が広く開口部が狭いフラスコ状を呈する。

【規模】開口部長軸127・短軸(80)、底面長軸210・短軸(120)・深さ108cm

【覆土】底面に黒褐色土が堆積し、上方に向けて褐色・黄褐色土と暗褐色・黒褐色土が互層をなす。周辺からの黒褐色土の流れ込みと、壁崩落土による自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は硬く、平滑に調整されている。壁はフラスコ状を呈するが、前述のとおり、元の壁面は崩落しており、当時の状況を残していない。

【出土遺物】（第29、42図、写真図版25、32）尖底土器など、前期土器破片が出土している。石錐1点、石匙1点、二次加工剥片1点、打製石斧4点、特殊磨石2点が出土している。

【時期】出土土器は前期初頭が中心であるが、覆土に中摺火山灰は含まれていない。このことから、縄文時代前期後半から中期の可能性を考えられる。(八木)

#### 4号土坑（第17図、写真図版15）

【位置・検出状況】7H・Iグリッド付近に位置する。3号土坑同様、農業用水道管と村水道管の間に位置し、上面はかなり削平されている。表土直下で検出した。

【その他の遺構との重複】5号土坑と重複し、4号土坑の方が古い。なお、平成13年度に県教育委員会生涯学習文化課が発掘調査を行った際、極近くから溝状の陥し穴状遺構が検出されている。堆積状況の類似性から、4号土坑はその遺構の一部である可能性がある。

【平面形】調査範囲内では円形を呈する。

【規模】長軸140・短軸100・深さ62cm

【覆土】底面13層は暗褐色土、9～12層は褐色土・黄褐色土で構成される。褐色土・黄褐色土は壁面の崩落の可能性が高く、自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は硬く、平滑に調整されている。

【出土遺物】（第29、42図、写真図版25、32）前期の土器片が数点出土している。打製石器が1点出土している。

【時期】5号土坑に切られているため、5号土坑より古い。遺物はごく少なく、堆積土の大部分が壁面崩落土であるため堆積土から想定することが難しい。(八木)

#### 5号土坑（第17図、写真図版15）

【位置・検出状況】7Hグリッドに位置する。3・4号土坑同様、農業用水道管と村水道管の間に位置し、上面はかなり削平されている。表土直下で検出した。

【その他の遺構との重複】4号土坑と重複し、5号土坑の方が新しい。

【平面形】円形と推測される。

【規模】開口部長軸134・短軸(58)・深さ68cm、底面長軸178・短軸(60)cmである。

【覆土】1～8層からなり、暗褐色・黒褐色土が堆積している。壁面と考えられる褐色土が認められない。

【底面・壁】底面は硬く、平滑に調整されている。壁面も硬く締まっており、本来の形状を保っていると考えられる。

【出土遺物】（第29図、写真図版25）7層付近から土器104が出土している。内面のミガキ調整は著しいが、焼成が甘くボロボロと壊れやすい。

【時期】土器104から縄文時代中期と考えられる。(八木)

#### 6号土坑（第18図、写真図版15）

【位置・検出状況】7Gグリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】調査範囲内では不整円形を呈する。

【規模】開口部長軸190・短軸80・深さ142cm、底面長軸204・短軸(138)cm。

【覆土】10～14層の黒褐色・暗褐色土が自然堆積した後、褐色土と暗褐色の互層堆積と、4・5・7層の壁面崩落土が重なって堆積している。全体的に自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁面は本来の壁面が崩落したため凹凸がある。

## 2. 検出遺構

【出土遺物】(第30・31、42図、写真図版25・26、32) 1層から土器片が多く出土している。石器は特殊磨石1点、打製石斧2点が出土している。

【時期】底面出土の土器114から、大木8b式期と考えられる。(八木)

### 7号土坑(第18図、写真図版16)

【位置・検出状況】7Iグリッドに位置する。調査区境内に位置し、さらに電柱に近接するため安全性確保のため完掘していない。底面近くの堆積土及び深さは、検土杖で確認したものである。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】調査範囲内では円形を呈する。

【規模】開口部長軸130・短軸80・深さ128cm。

【覆土】暗褐色土・黒褐色土で構成され、部分的に黄褐色土が堆積していることから、自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面まで掘削していないが、検土杖では非常に硬く縮まっていることが分かった。壁面は硬くしまっており、堆積土に黄褐色土が少なかったことからも本来の壁の形状を保持していると考えられる。

【出土遺物】(第32、42・43図、写真図版26、32) 前期土器破片・中期土器が出土している。石器は石鏃1点、石匙1点、磨製石斧1点、敲石1点が出土している。

【時期】前期土器破片は覆土上位から出土しており、流れ込みの可能性がある。土器124から、大木8b・櫛林式期と考えられる。(八木)

### 8号土坑(第18図、写真図版16)

【位置・検出状況】3Dグリッドに位置する。現道アスファルト舗装下の敷砂利を撤去し、確認した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】調査範囲内では円形を呈する。

【規模】開口部長軸185・短軸(75)・深さ198cm、底面長軸209・短軸(50)cm。

【覆土】一部壁際に褐色土が堆積しているが、大部分は暗褐色・黒褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁も非常に硬く縮まっているが、壁崩落土がほとんど認められることから鑑みても、本来の形状を保持していると考えられる。

【出土遺物】(第32図、写真図版26) 土器片1点が出土している。

【時期】土器129から、縄文時代中期と考えられる。(八木)

### 9号土坑(第19図、写真図版16)

【位置・検出状況】16Pグリッドに位置する。V層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】楕円形を呈する。

【規模】長軸102・短軸81・深さ79cm

【覆土】底面近くに壁崩落土があるが、大部分は暗褐色土が堆積した自然堆積である。

【底面・壁】底面はやや凹凸が認められる。壁はほぼ直立している。

【出土遺物】(第43図、写真図版32) 土器は出土していない。石器は二次加工剥片が1点出土している。

【時期】土器が出土していないため詳細な時期は判断できないが、縄文時代中期と考えられる。(八木)

11号土坑（第19図、写真図版16）

【位置・検出状況】15Q グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】円形を呈する。

【規模】長軸130・短軸116・深さ42cm

【覆土】3層からなる。大部分を占める1層は暗褐色土で、2・3層は土坑掘削の際に生じた土が再堆積した可能性があり、全体として自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は平ら、壁はほぼ直立する。

【出土遺物】（第32、43図、写真図版26、32）土器が出土している。石器は二次加工剥片1点、打製石斧1点が出土している。

【時期】土器130から、大木8a式期と考えられる。（八木）

12号土坑（第19図、写真図版16）

【位置・検出状況】10L・11L グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】4号住居跡と重複しており、12号土坑の方が古い。

【平面形】調査範囲内では円形を呈する。

【規模】開口部長軸136・短軸(48)・深さ134cm、底部長軸190・短軸78cm。

【覆土】3層からなる。暗褐色土と黄褐色土が互層をなしており、自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は硬く、平滑に調整されている。壁面も硬く縮まっており、本来の形状を保持していると考えられる。

【出土遺物】出土していない。

【時期】4号住居跡より古いことが言える。縄文時代中期と考えられる。（八木）

13号土坑（第19図、写真図版16・17）

【位置・検出状況】9K グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】円形を呈する。

【規模】開口部長軸77・短軸64・深さ88cm、底部長軸190・短軸(112) cm。

【覆土】褐色土で構成され、一度に堆積していると考えられる。

【底面・壁】底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁面も硬く縮まっており、本来の形状を保持していると考えられる。

【出土遺物】（第32、34、43図、写真図版27、28、32）覆土下位から土器135が出土している。二次加工剥片1点、打製石斧1点、礫器1点が出土している。この他、粘土塊が1点出土している。

【時期】土器135から考えられる時期は、大木8b式期である。（八木）

14号土坑（第20図、写真図版17）

【位置・検出状況】10L グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】10号住居跡と重複している。10号住居跡床面精査時に検出した。

【平面形】円形を呈する。

## 2. 検出遺構

【規模】長軸 120・短軸 110・深さ 39cm

【覆土】2層からなる。下位に黒褐色土、上位に褐色土が堆積している。

【底面・壁】底面はほぼ平らである。壁はほぼ直立する。

【出土遺物】(第32図、写真図版27) 土器139が出土している。口縁部に沈線による刻み文様が施されている。(八木)

【時期】土器139から考えられる時期は、櫻林式期である。

### 15号土坑(第20図)

【位置・検出状況】7G グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】6号住居跡と重複しており、15号土坑の方が新しい。

【平面形】円形を呈する。

【規模】開口部長軸 138・短軸 (72)・深さ 154cm

【覆土】暗褐色土と褐色～黄褐色土が細かな互層堆積をしている。自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁面の中位括れ部以下は特に硬く締まっており、本来の形状を保持していると考えられる。

【出土遺物】(第33、43・44図、写真図版27、32・33) 底面から土器が多く出土している。二次加工剥片1点、石錐1点、打製石斧2点、敲石1点、多面体敲石1点、礫器2点が出土している。

【時期】土器140から考えられる時期は大木8b式期である。また、円筒上層d式破片も出土しており、時期は近い。(八木)

### 16号土坑(第20図、写真図版17)

【位置・検出状況】11M グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】4号住居跡と重複しており、16号土坑の方が古い。

【平面形】円形を呈する。

【規模】長軸 106・短軸 97・深さ 58cm

【覆土】褐色土からなる。

【底面・壁】底面はやや硬く、平滑に調整されている。壁面はほぼ直立する。

【出土遺物】出土していない。

【時期】4号住居跡床面下から検出したため、大木10式期より古いことが言える。(八木)

### 17号土坑(第20図、写真図版17)

【位置・検出状況】11L グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】10号住居跡と重複しており、17号土坑の方が古い。

【平面形】調査範囲内では楕円形を呈する。

【規模】長軸 114・短軸 28・深さ 30cm

【覆土】暗褐色土を主体とする、自然堆積と考えられる。

【底面・壁】底面はやや凹凸がある。壁はオーバーハング気味に立ち上がる。

【出土遺物】出土していない。

【時期】縄文時代中期(八木)

## 18号土坑（第21図、写真図版17）

【位置・検出状況】10K グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】10号住居跡と重複し、18号土坑の方が古い。

【平面形】円形を呈する。

【規模】長軸80・短軸38・深さ50cm

【覆土】暗褐色土單層からなる。

【底面・壁】底面は平滑に調整されており、壁はほぼ直立する。

【出土遺物】出土していない。

【時期】縄文時代中期（八木）

## 19号土坑（第21図、写真図版18）

【位置・検出状況】13M グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】楕円形を呈する。

【規模】長軸92・短軸(63)・深さ24cm

【覆土】黒褐色土單層からなる。褐色土粒を含み、かなり軟らかい。

【底面・壁】底面・壁面はすり鉢状を呈する。

【出土遺物】（第33、45図、写真図版28、33）土器底部破片152が出土している。石器は打製石斧が1点出土している。

【時期】縄文土器が出土しているが、検出時遺構の輪郭が明確であったこと、また、覆土の状況から近世以降の可能性がある。（八木）

## 20号土坑（第21図、写真図版18）

【位置・検出状況】14N グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】不整円形を呈する。

【規模】長軸(78)・短軸(27)・深さ24cm

【覆土】19号土坑と同じ黒褐色土單層からなる。かなり軟らかい。

【底面・壁】底面・壁面はすり鉢状を呈する。

【出土遺物】出土していない。

【時期】検出土器の状況及び覆土は19号土坑に酷似する。近世以降の可能性がある。（八木）

## 21号土坑（第21図、写真図版18）

【位置・検出状況】12O グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】方形を呈する。

【規模】長軸158・短軸128・深さ30cm

【覆土】底面に褐色土が堆積し、大部分は暗褐色土で覆われている。暗褐色土には褐色土粒が多く混入しており、自然堆積とは考え難い。

【底面・壁】底面は凹凸なく平坦に調整されているが、硬くはない。壁は緩やかに立ち上がる。

## 2. 検出遺構

【出土遺物】(第33図、写真図版28)土器(153)が出土している。器壁が薄く、緻密な作りを呈している。口縁部がないが、胴部に施文された縄文の節は小さい。  
【時期】出土土器から、大木8b式期と考えられる。(八木)

### (3) 陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構(第22図、写真図版14)

【位置・検出状況】11K グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】7号住居跡と重複しており、断面観察から、1号陥し穴状遺構の方が古いと判断した。

【平面形】溝状を呈する。

【規模】長軸(104)・短軸60・深さ100cm

【覆土】褐色土が堆積している。

【底面・壁】長軸の壁は僅かにオーバーハングする。短軸壁は直立気味に立ち上がる。

【出土遺物】出土していない。

【時期】出土遺物はないが、断面観察から7号住居跡より古いと考えられるため、中期後葉以前の可能性がある。(八木)

2号陥し穴状遺構(第22図、写真図版14)

【位置・検出状況】3C グリッドに位置する。調査区北側は水道管による搅乱が著しく、地表面から深さ50cm程度まで削平されていた。検出面はVI層である。

【その他の遺構との重複】重複は認められない。

【平面形】溝状を呈する。

【規模】長軸(180)・短軸40・深さ100cm

【覆土】黒褐色土が堆積している。

【底面・壁】長軸の壁は水道管下に伸びるため、未確認である。短軸壁は直立気味に立ち上がる。

【出土遺物】(第33図、写真図版28)土器片が1点出土している。

【時期】土器及び堆積土から縄文時代中期の可能性がある。(八木)

### (4) 柱穴状小土坑

ピット1(第21図、写真図版14)

【位置・検出状況】12M グリッドに位置する。

【その他の遺構との重複】重複は認められない。

【平面形】円形を呈する。

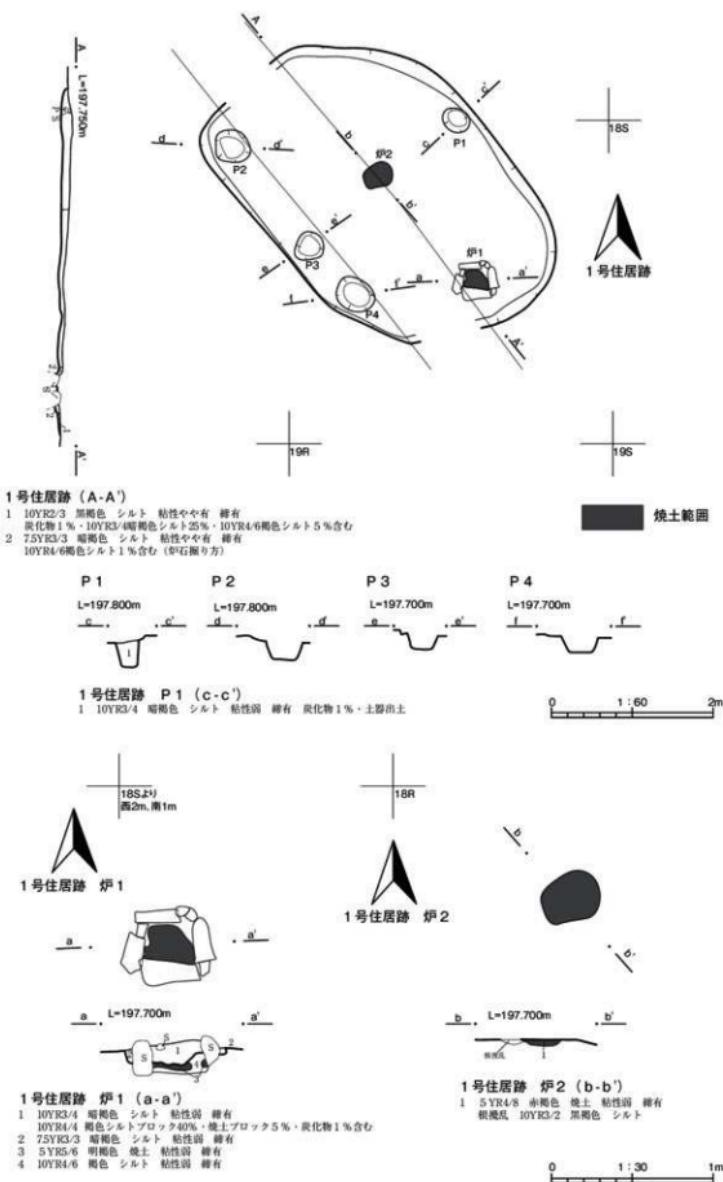
【規模】長軸58・短軸(40)・深さ40cm

【覆土】暗褐色・褐色土が堆積している。柱穴痕は認められない。

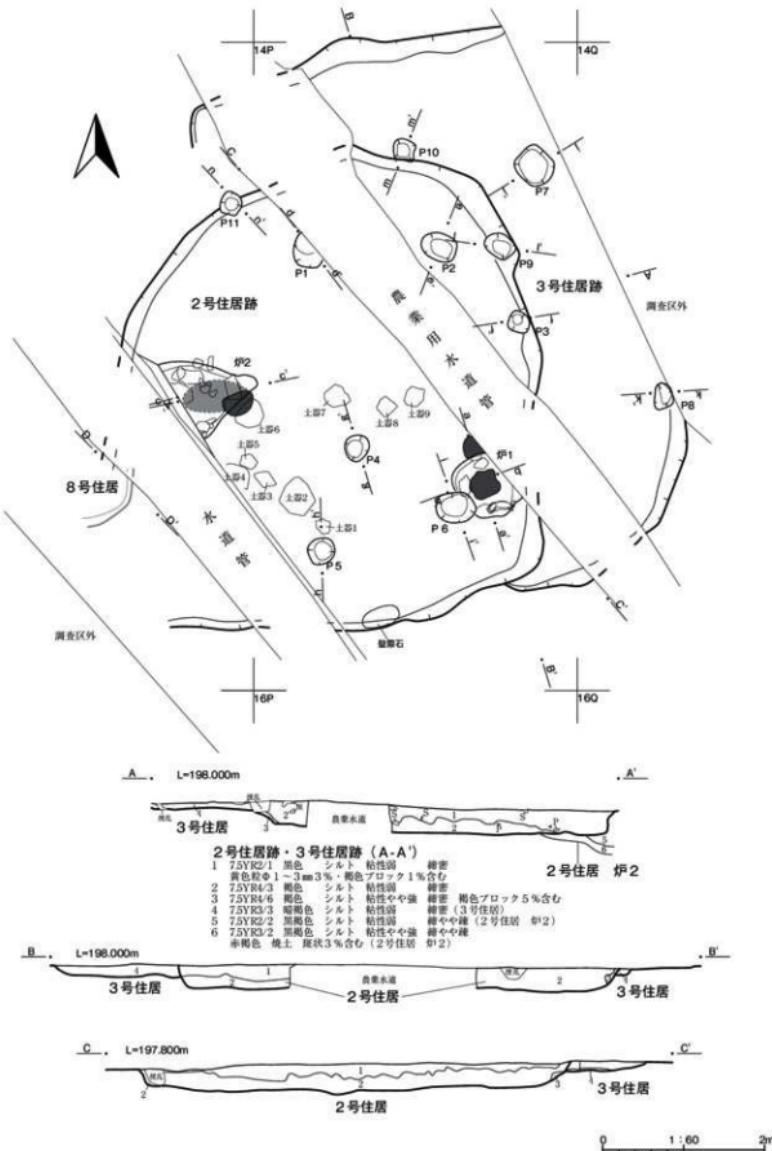
【底面・壁】底面は平滑ではない。壁は僅かにオーバーハングする。

【出土遺物】(第45図、写真図版33)敲打痕が著しい石器が1点出土している。

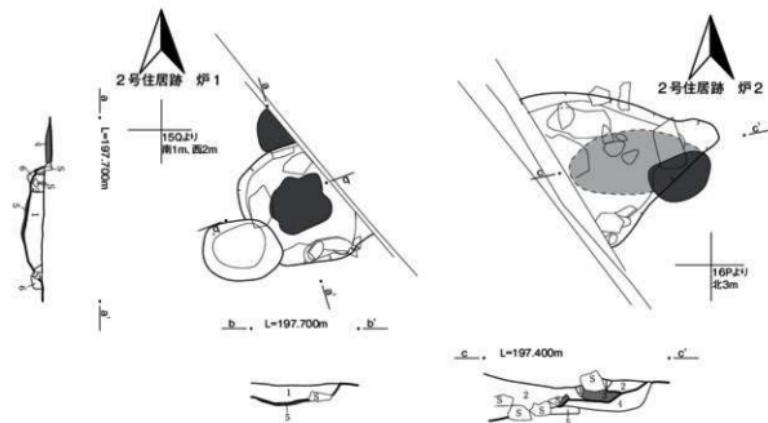
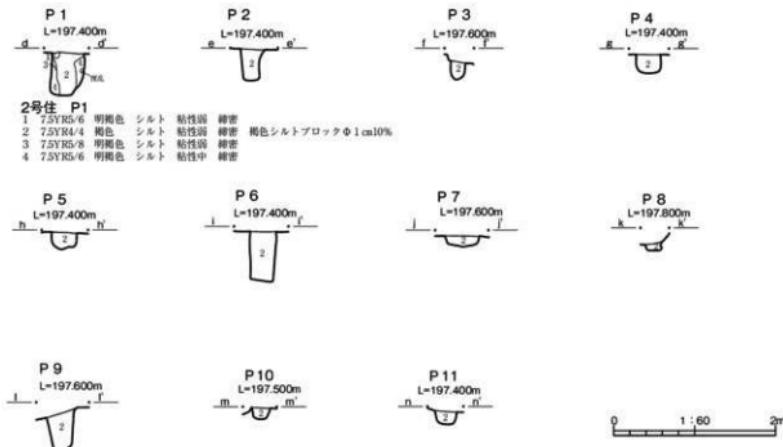
【時期】土器が出土していないが、堆積土からは縄文時代中期の可能性が考えられる。(八木)



第7図 1号住居跡

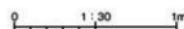


第8図 2・3号住居路 (1)

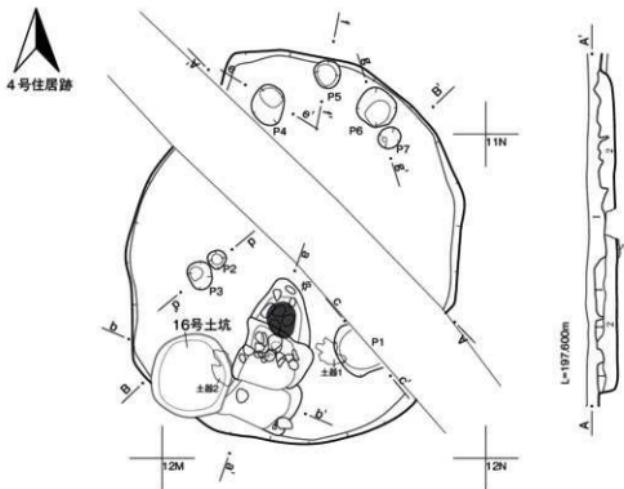


- 2号住居跡 炉1 (A-A'・B-B')**
- 7.5YR2/3 明褐色 シルト 粘性やや弱 緩密 褐色ブロックΦ 2cm 3%含む
  - 7.5YR2/3 黄褐色、シルト 粘性やや弱 緩密
  - 7.5YR2/2 黒褐色 粘性やや弱 緩やや密
  - 2.5YR5/8 明赤褐色、強土 粘性弱 緩密
  - 7.5YR4/6 明褐色、焼土 粘性弱 緩やや密
  - 7.5YR5/8 明褐色 シルト 粘性やや弱 緩やや密

- 2号住居跡 炉2 (C-C')**
- 7.5YR2/3 明褐色 シルト 粘性やや弱 緩密
  - 7.5YR4/6 黄褐色、シルト 粘性やや弱 緩密
  - 7.5YR2/2 黑褐色 土粒3~5mm・炭化木1mm含む
  - 2.5YR4/8 赤褐色、強土 粘性弱 緩密
  - 7.5YR5/6 明褐色 シルト 粘性弱 緩密
  - 7.5YR5/8 明褐色 シルト 粘性やや強 緩やや密

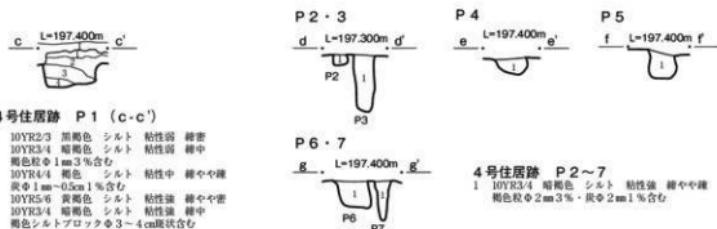


第9図 2・3号住居跡 (2)



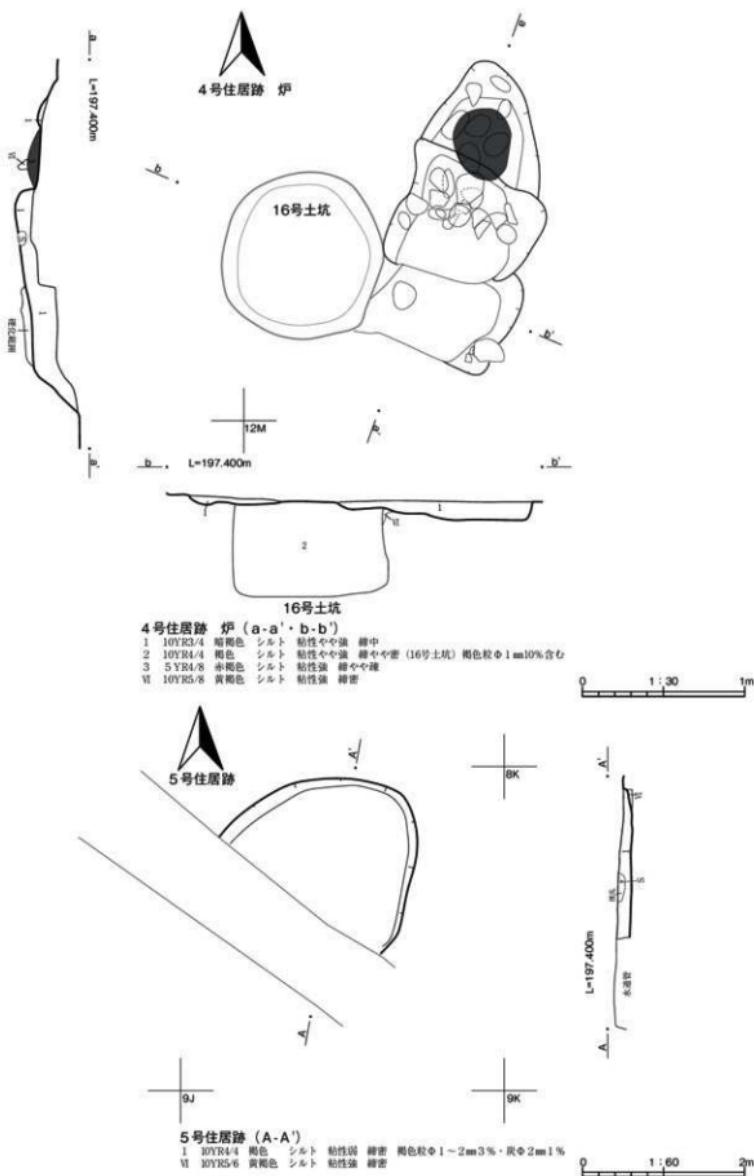
4号住居跡 (A-A'・B-B')

- 1 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱 疏密 稀利含む (木造管埋設上)
- 1 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性やや強 疏密 黑色粒φ1~2mm3%含む
- 2 10YR4/4 黄褐色 シルト 粘性中 疏密 黑色粒φ2mm3%含む
- 3 10YR5/8 黄褐色 シルト 粘性強 疏密 均質 (地山)

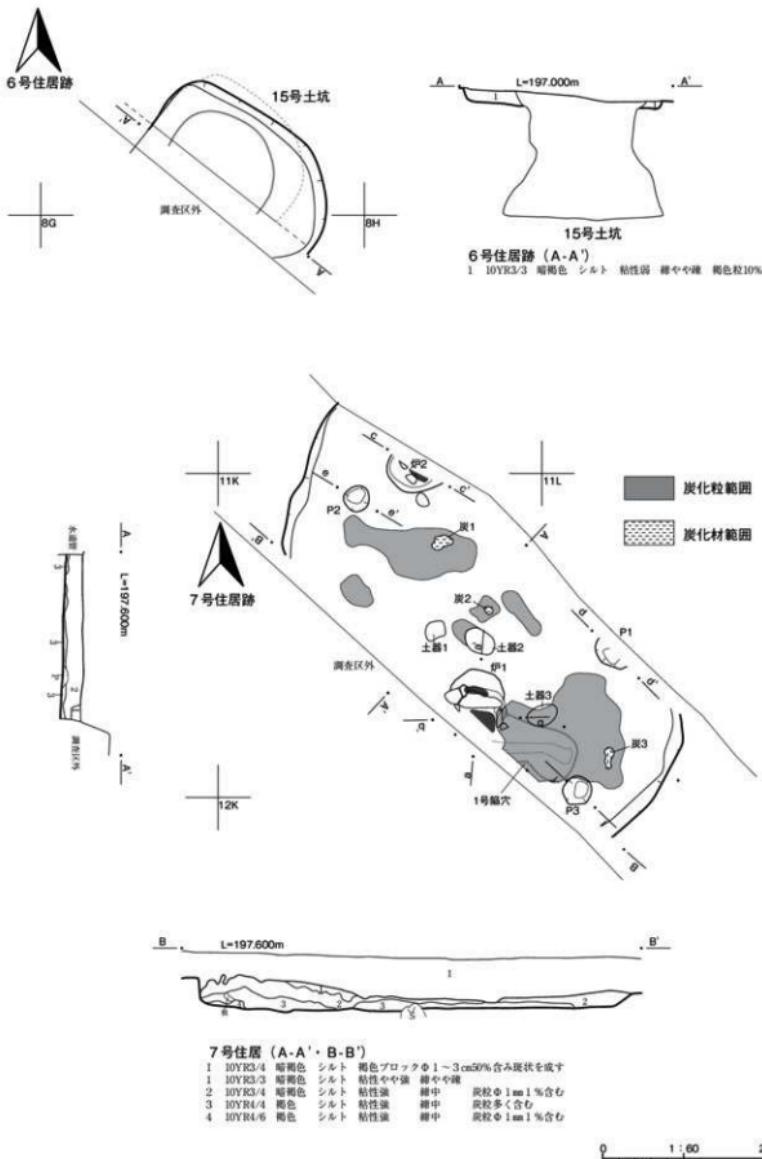


0 1 : 60 2m

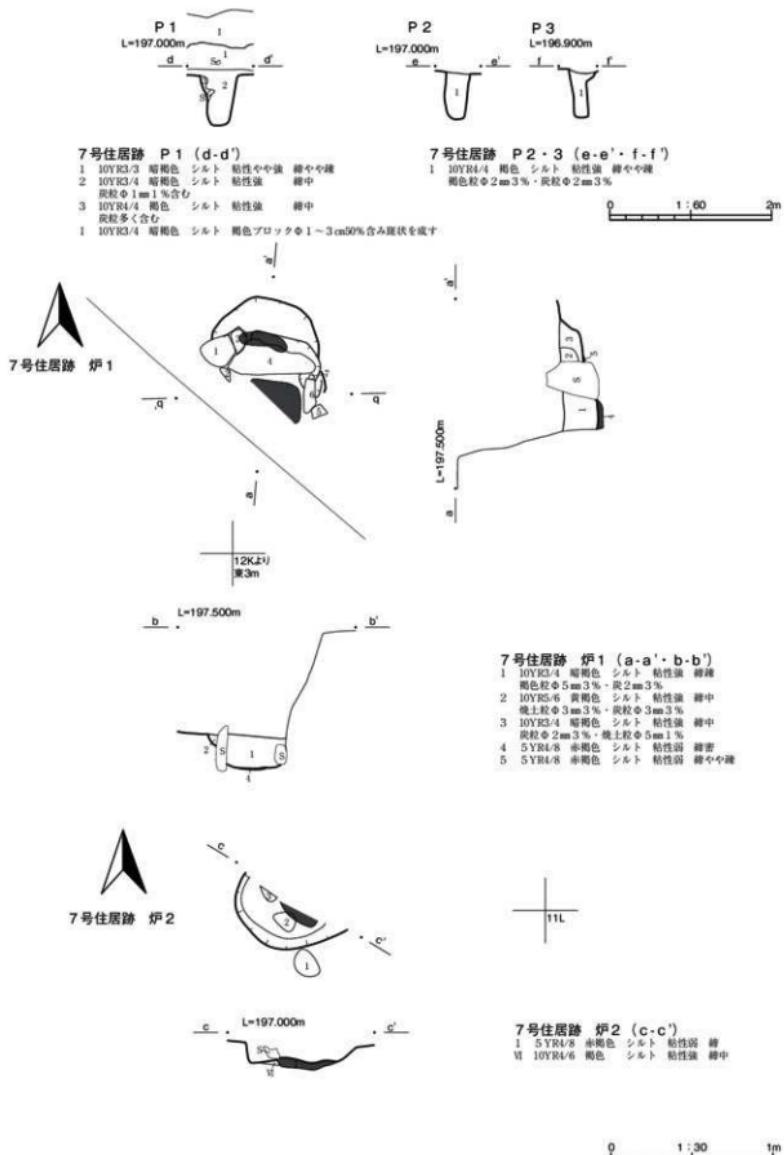
第10図 4号住居跡 (1)



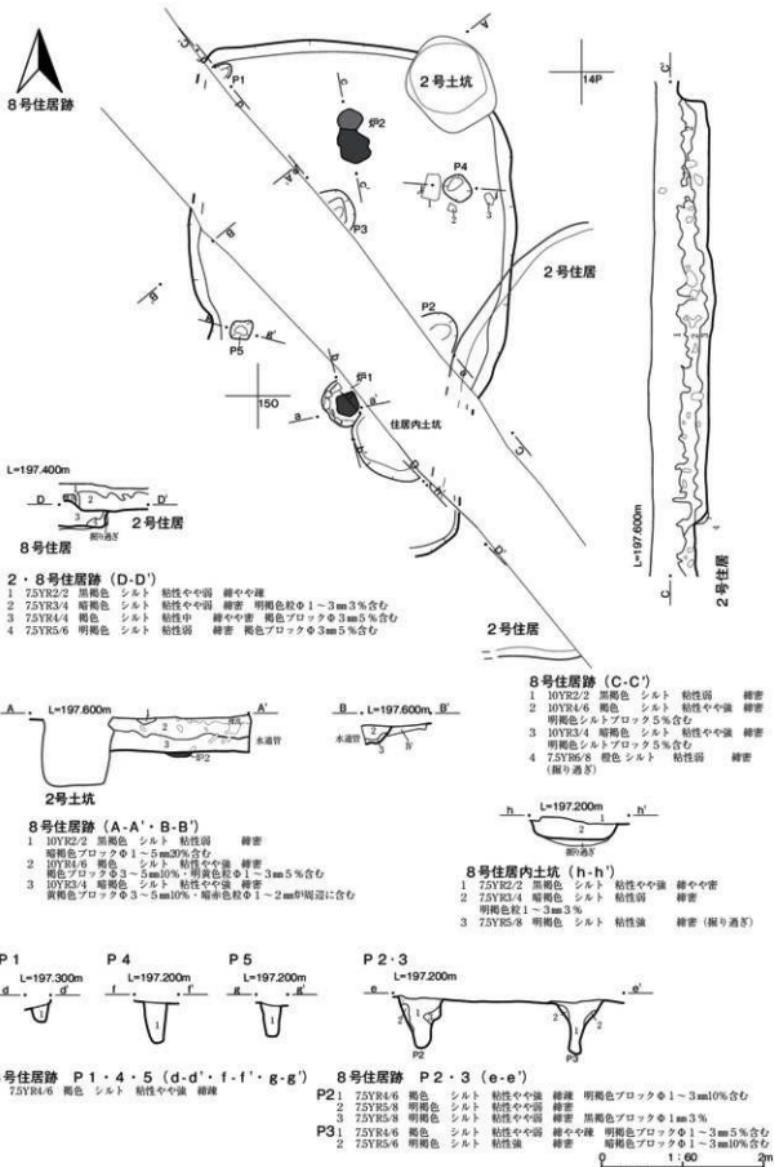
第11図 4号住居跡(2)・5号住居跡



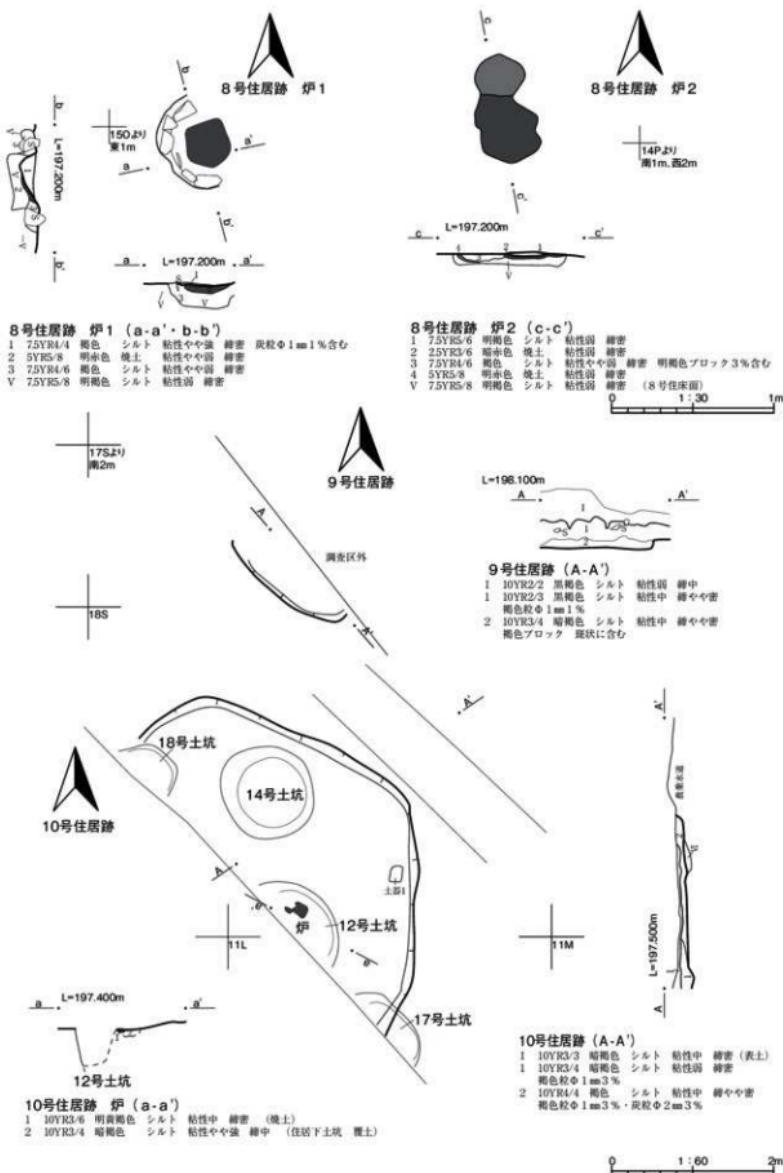
第12図 6号住居跡・7号住居跡 (1)



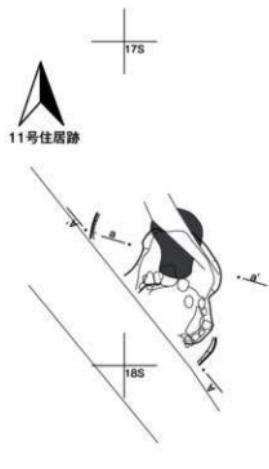
第13図 7号住居跡 (2)



第14図 8号住居跡 (1)



第15図 8号住居跡(2)・9・10号住居跡



**11号住居跡 (A-A')**

- 10YR3/4 黒褐色 シルト 粘性弱 細やや密  
10YR3/3 黑褐色 シルト 粘性強 細やや密  
10YR4/8 黑褐色 シルト 粘性強 細密  
10YR4/6 黄褐色 シルト 粘性強 細密



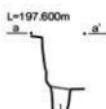
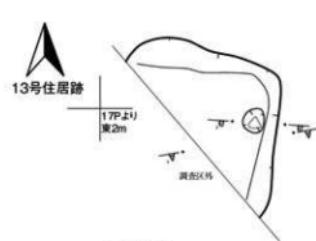
**12号住居跡 (A-A')**

- 107E2/2 黒褐色 シルト 粘性強 細密  
107E2/3 黑褐色 シルト 粘性強 細やや密  
107E2/4 黑褐色 シルト 粘性強 細やや密  
10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性強 細密  
10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 細やや密  
10YR2/4 黑褐色 シルト 粘性強 細密

0 1:60 2m

**11号住居跡 炉**

1 5YR4/8 赤褐色 シルト 粘性強 細中  
2 10YR3/4 黑褐色 シルト 粘性中 細中  
3 10YR4/6 黄褐色 シルト 粘性弱 細密

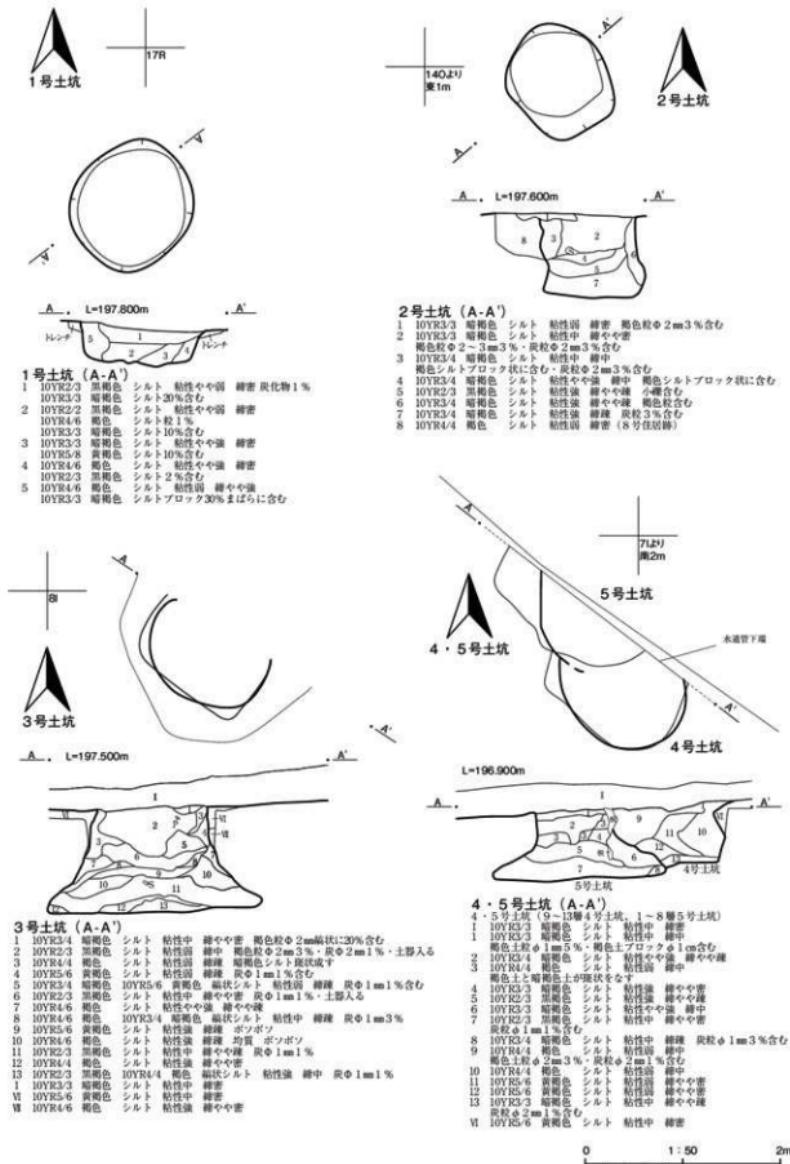


**13号住居跡 P-P' (a-a')**

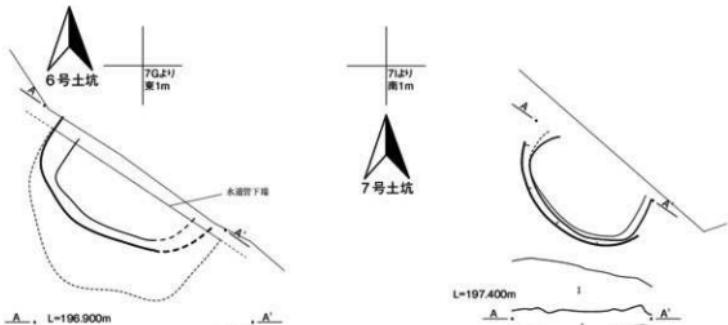
- 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性弱 細密  
10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 細やや密  
10YR2/4 黑褐色 シルト 粘性強 細密  
10YR3/6 黄褐色 シルト 粘性強 細密

0 1:60 2m

第16図 11～13号住居跡

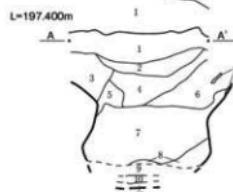


第17図 1～5号土坑



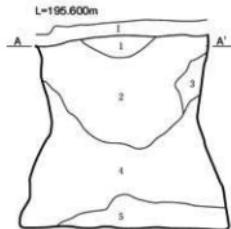
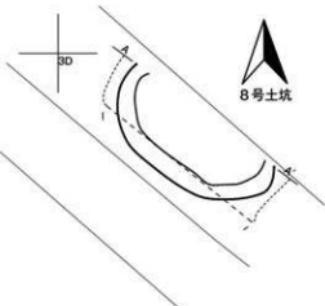
6号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/3 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色プロックΦ 0.5 - 3cm 1%、炭灰 1cm 1%
- 2 10YR2/4 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色やや密 10YR4/4褐色シルトを混入
- 3 10YR4/6 喀斯特色 シルト 粘性強 -3/3 喀斯特色 シルト 疏状
- 4 10YR2/3 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色 -3/3 喀斯特色 シルト 疏状
- 5 10YR4/6 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色 -3/3 喀斯特色 シルト 疏状
- 6 10YR2/3 喀斯特色 シルト 粘性強 -4/4 喀斯特色 シルト 疏状
- 7 10YR2/4 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色
- 8 10YR2/4 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色
- 9 10YR2/6 喀斯特色 シルト 粘性強 褐色
- 10 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 桶上潤じり
- 11 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性強 褐色
- 12 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 褐色
- 13 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 褐色
- 14 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性強 土部多



7号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性中 細やや密 褐色粒Φ 1 - 2mm 10%
- 2 10YR2/4 喀斯特色 シルト 粘性中 細やや密 褐色粒Φ 0.5 - 3cm 30%
- 3 10YR2/4 喀斯特色 シルト 粘性中 褐色粒Φ 0.5cm 50%
- 4 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 粘中 褐色プロックΦ 5cm 50%
- 5 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 粘中 褐色粒Φ 0.5 - 1cm 1%
- 6 10YR2/4 喀斯特色 シルト 粘性弱 粘中 褐色粒Φ 0.5 - 1cm 1%
- 7 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性中 細やや密 10YR4/4褐色シルトと互層をなす
- 8 10YR2/6 喀斯特色 シルト 粘性中 粘強
- 9 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性中 細やや密
- 10 10YR4/6 喀斯特色 シルト 粘性強 細やや密
- 11 10YR2/2 黑褐色 シルト 粘性強 細やや密 褐色粒Φ 1cm 1%

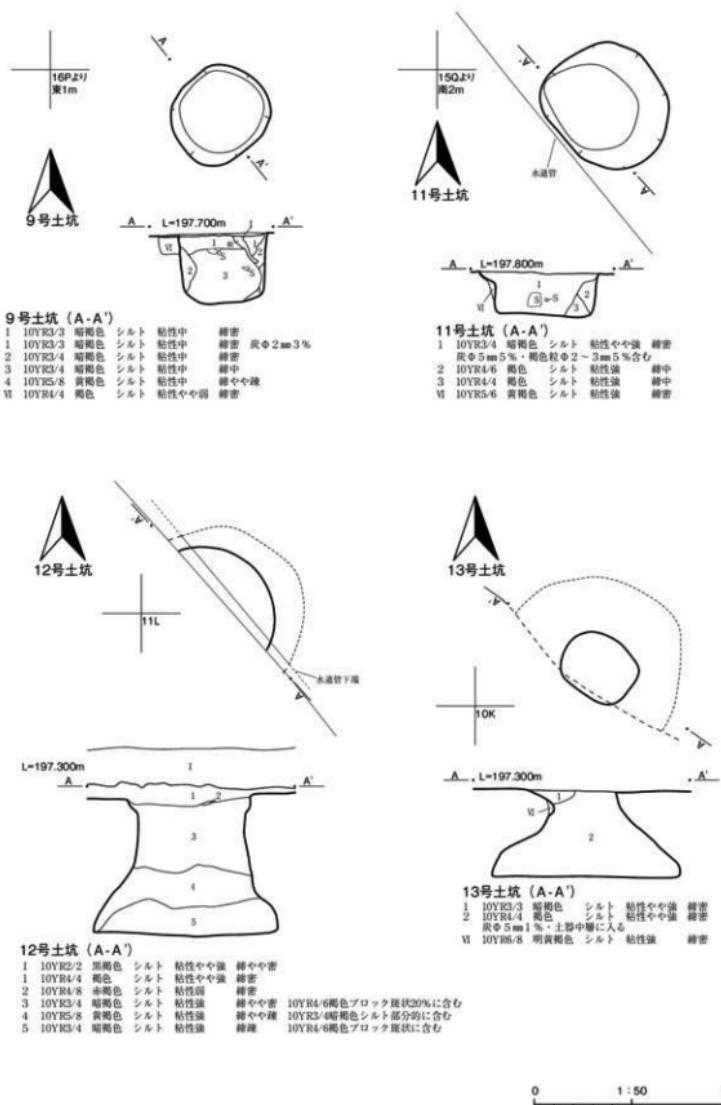


8号土坑 (A-A')

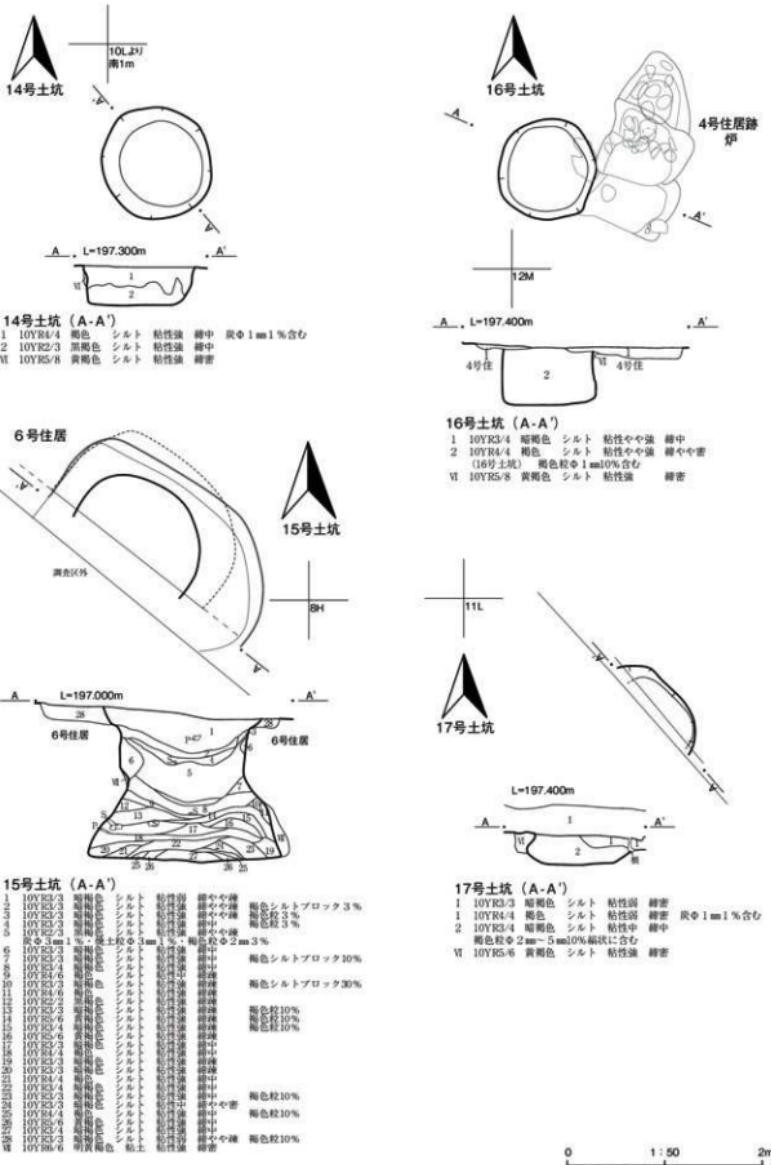
- 1 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性強 粘密 褐色シルトΦ 3mm 3%
- 2 10YR3/4 喀斯特色 シルト 粘性強 細やや密
- 3 10YR4/6 喀斯特色 シルト 粘性強 粘中 喀斯特強度をなす
- 4 10YR3/4 喀斯特色 シルト 粘性強 粘中
- 5 10YR3/4 喀斯特色 シルト 粘性強 細やや密

0 1 : 50 2m

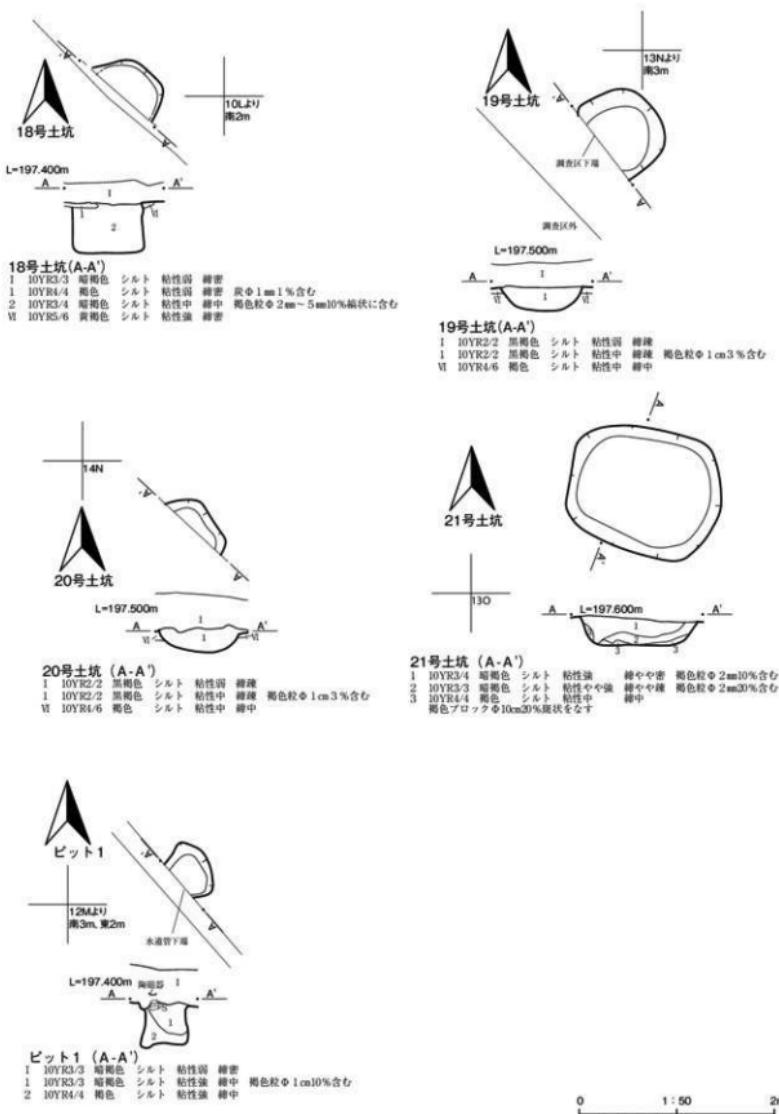
第18図 6~8号土坑



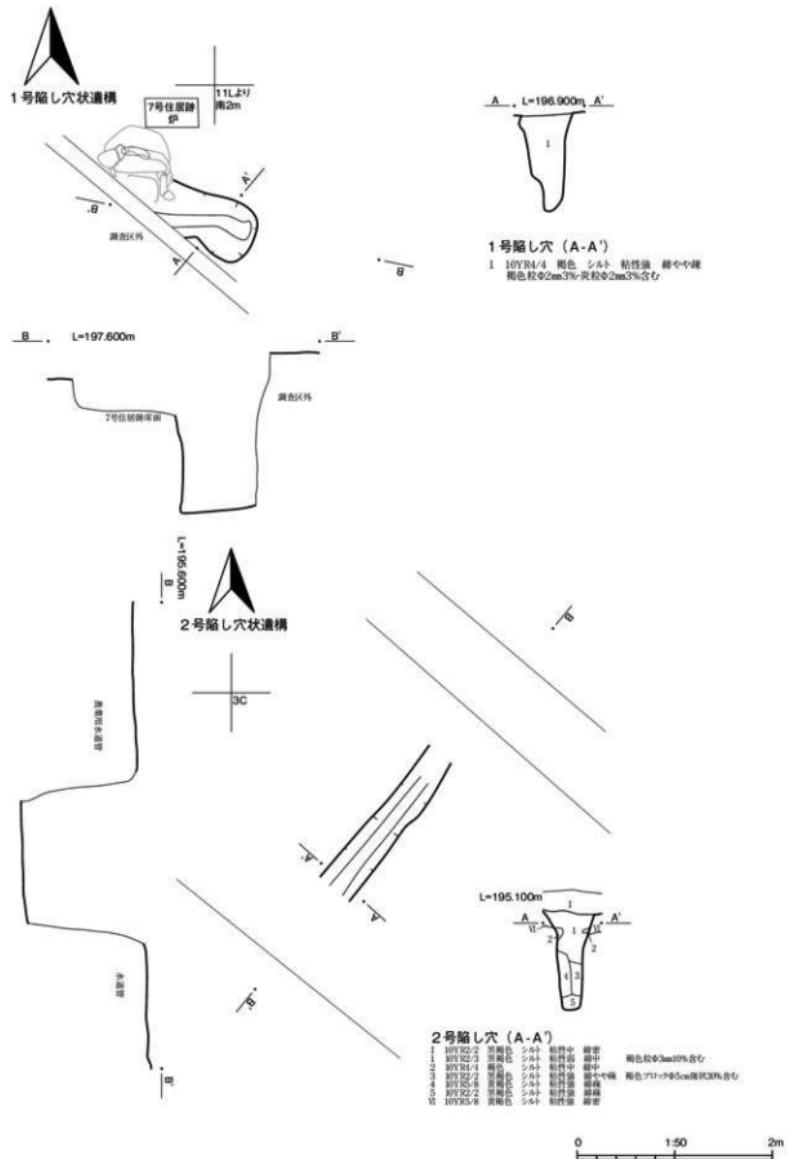
第19図 9・11~13号土坑



第20図 14~17号土坑



第21図 18~21号土坑・ビット1



第22図 1・2号陥し穴状遺構

## V 出土遺物

今回の調査で出土した遺物の総量は、土器大コンテナ（42×32×40cm）5箱、石器類中コンテナ（42×32×30cm）4箱、土製品5点、コハク片2点、骨碎片1点である。

### 1 土 器

縄文時代前期・中期の土器が出土している。

- I群 前期 胎土に纖維を多く含む斜縄文、尖底部などをまとめた。総数は多くないが、5・6号住居跡・3・7号土坑から磨滅した土器片が出土している。45・48・96・98～100・102・115・116・126・146・148が該当する。
- II群 中期 今回の調査で出土した土器の大部分を占める。分類基準は、宮城県七ヶ浜町大木開貝塚出土基準資料『考古学陳列館所蔵大木開貝塚出土基準資料－山内清男編年基準資料－東北大學総合學術博物館研究紀要第5号』・『柿ノ木平遺跡・閑根遺跡－浅岸地区区画整理事業関連発掘調査報告書IV-』等・青森県史編年に拠る。
- A類 大木8a式 1号住居跡から口縁部片1が出土している。口縁部文様帶は隆沈線による文様を描く。10・11・130等が該当する。
- B類 円筒上層式 8号住居跡で数片出土している。74・77が該当し、円筒上層c式と考えられる。
- C類 大木8b式・複林式 今回調査出土資料の大部分を占める。8・12号住居跡、6・7・13・15号土坑からまとめて出土している。67・72・75・86・87・105・108・111・114・135・140等が該当する。
- D類 大木9式 7号住居跡から極少量出土している。55～57が該当する。
- E類 大木10式・大木10式併行期 窓下部に最大径をもつ深鉢形土器が多く、下村遺跡では縄文施文の土器が主体を占める2号住居跡4～9、4号住居跡38・39、7号住居跡49～51・58が該当する。

### 2 土 製 品

2・4号住居跡及び13号土坑から粘土塊が5点出土している。指跡等の痕跡は認められない。

### 3 石 器

石器は、石鏃7点、石匙5点、石錐3点、二次加工剥片23点、石錘1点、磨製石斧・磨製石斧未成品14点、打製石斧28点、多面体敲石37点、磨石7点、敲石15点、凹石3点、石皿6点、特殊磨石7点、礫器13点、台石4点、砥石1点が出土している。掲載にあたっては、遺構内出土石器を優先し、86点掲載した。

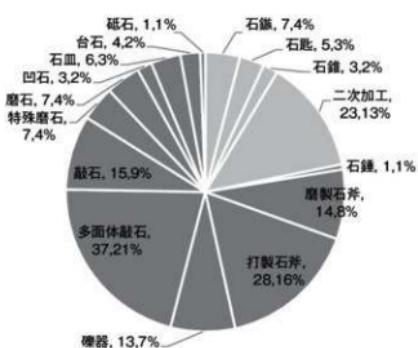
石器種構成及び器種別石材を第2・3表に示した。剥片石器20%、礫石器80%で、礫石器が多數を占める。器種組成はグラフのとおりで、多面体敲石21%、打製石斧16%、敲石9%、磨製石斧8%、礫器7%の順に多い。石材は、石鏃・石匙等剥片石器は頁岩、磨製石斧・打製石斧等はホルンフェルス・花崗岩類が主体で、磨製石斧製作に使用したと考えられる多面体敲石は37点全てチャートである。原産地は全て北上山地で、器種によって石材選別していることが考えられる。

第2表 出土地点別石器数

	石錐	石匙	石鏟	二次加工	剥片	石錐	磨製石斧	磨製石斧未成品	打製石斧	礫器	多面体敲石	敲石	特殊磨石	磨石	刮石	石面	台石	砾石
	総数	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則
1号住居跡						1 1				1 1 1 1 2 2 1 0 1 1 1 0								
2号住居跡	1 1 1 1 1 1 6 2						4 3 4 4 9 2 1 0 7 2 4 2 2 1									2 0		1 0
3号住居跡															1 1			
4号住居跡															1 1 1 0		3 2	
5号住居跡						1 1												
6号住居跡						1 1									1 1			
7号住居跡		1 1						1 1			1 1 9 1				1 1		1 1	
8号住居跡	2 2 1 1							2 1			1 1	2 1	1 0 1 0					
9号住居跡	1 1																	
10号住居跡																		
11号住居跡															3 2			
12号住居跡															1 1 1 1 1 1			
13号住居跡															1 1			
1号土坑																		
2号土坑						1 1									2 1			
3号土坑	1 1 1 1					1 0				4 1					2 1			1 0
4号土坑										1 1								
5号土坑																		
6号土坑										2 2					1 1			
7号土坑	1 1 1 1							1 1				1 1						
8号土坑																		
9号土坑						1 1												
11号土坑						1 1				1 1								
12号土坑																		
13号土坑						1 0				1 1 1 1								
14号土坑																		
15号土坑		1 1 1 1								2 1 2 2 1 1 1 1					1 1			1 0
16号土坑																		
17号土坑																		
18号土坑																		
19号土坑										1 1								
20号土坑																		
21号土坑																		
ピット1											1 1							
道端外	1 1		1 1 9 0				3 0 4 0 5 0 5 2 4 0 13 0 1 1				2 0 3 1 2 0							
器種別合計	石錐	石匙	石鏟	二次加工	剥片	石錐	磨製石斧	磨製石斧未成品	打製石斧	礫器	多面体敲石	敲石	特殊磨石	磨石	刮石	石面	台石	砾石
	総数	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則	規則
	7 7 5 5 3 3 23 8 1 1 1 1 10 5 4 4 28 14 13 8 36 9 16 10 8 5 6 2 3 1 6 3 4 0 1 0																	

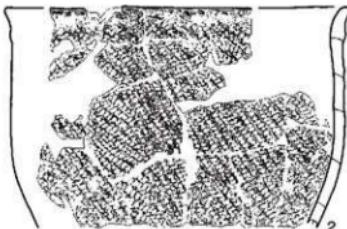
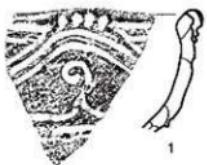
第3表 石器器種別石材

	ホルンブリューム	ゼンブリ	細粒花崗岩	粗粒花崗岩	斑状花崗岩	チャート	砂岩	礫岩	ディバイサイト	石英斑岩	石英岩	流紋岩	凝灰岩					
石錐	5 2																	
石匙	5																	
石鏟	3																	
二次加工剥片	16 3								1									
石錐										1								
磨製石斧	1 2 1 4 2									1								
磨製石斧未成品	1	5 1																
打製石斧	2 7 7 4 4								3									
礫器	7 1 1 1								1 1 1									
多面体敲石		36																
敲石	1 1	1 1 1 1 1 10																
特殊磨石		3 1								2 2								
磨石										2								
刮石	1										2							
石面	1 1									3								
台石		1 1								2								
砾石										1								

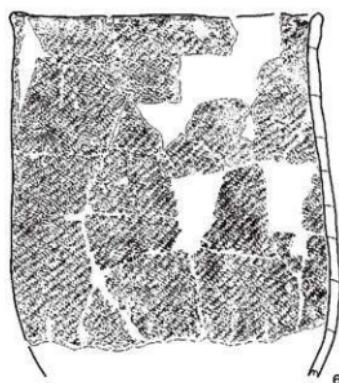
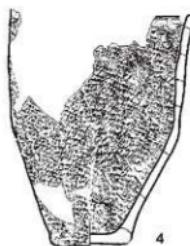
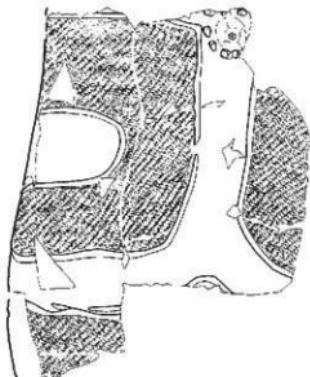


※二次加工剥片は2点石質鑑定を行っていない。

1号住居跡



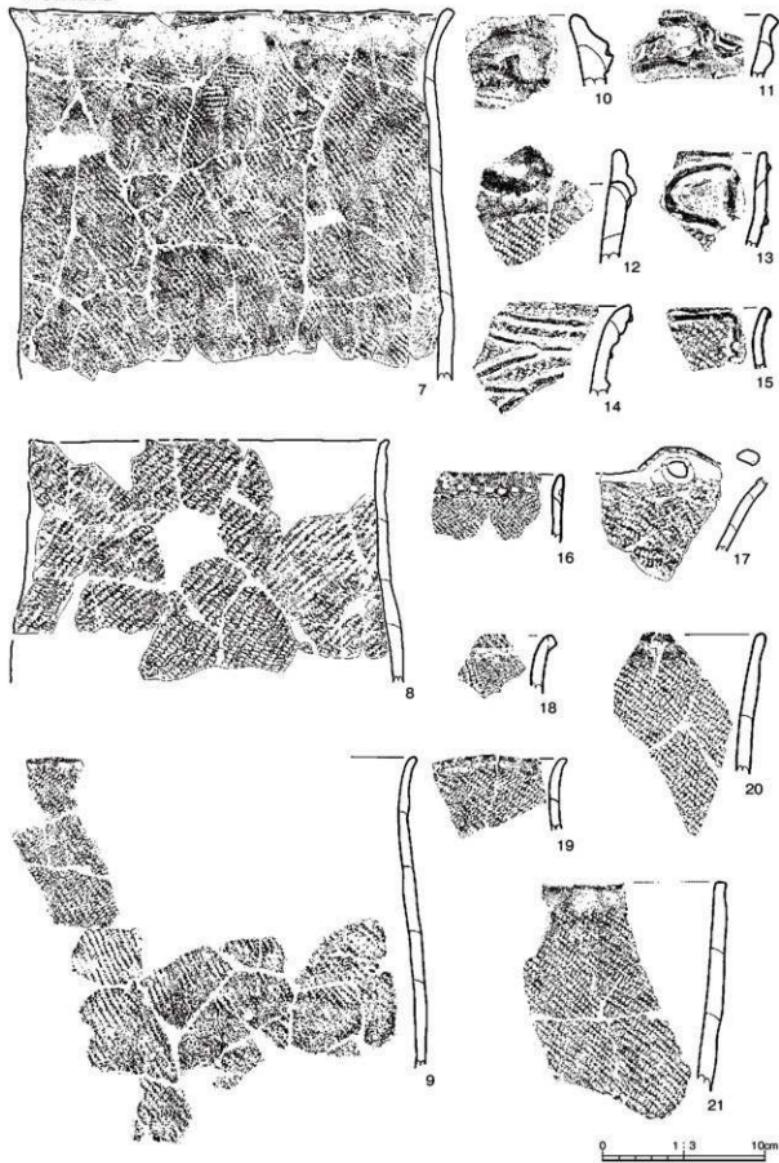
2号住居跡①



0 1:3 10cm

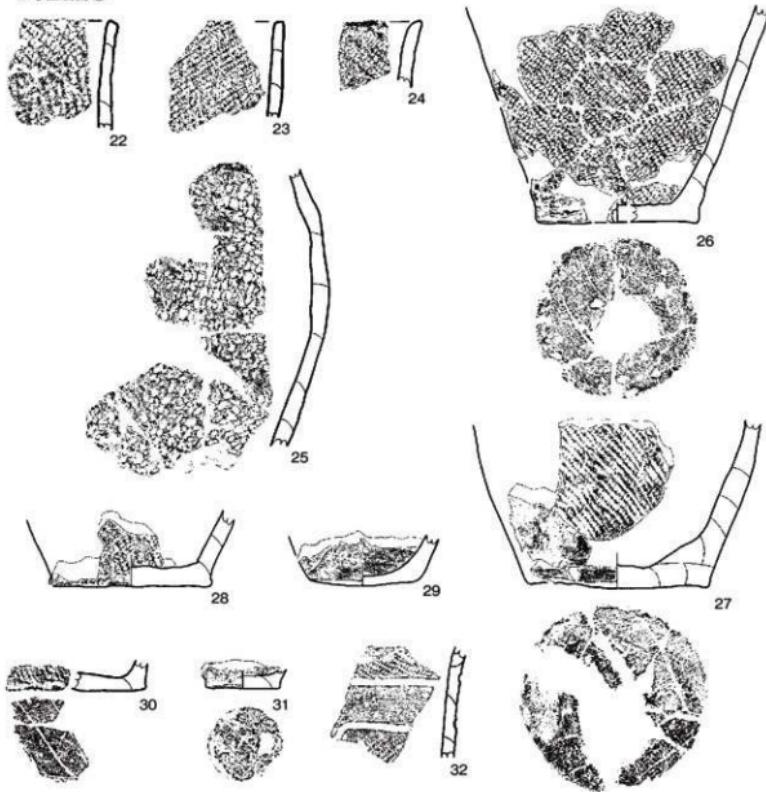
第23図 1・2号住居跡出土土器

2号住居跡②

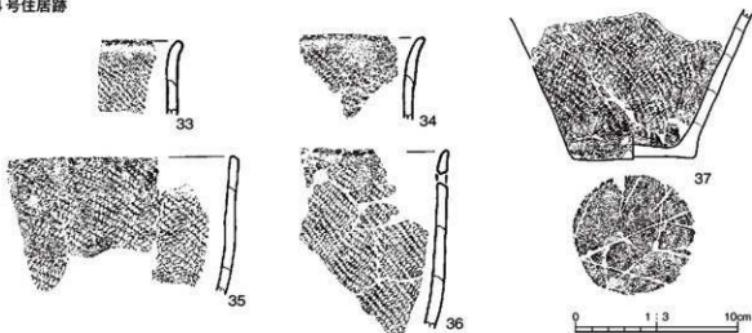


第24図 2号住居跡出土土器

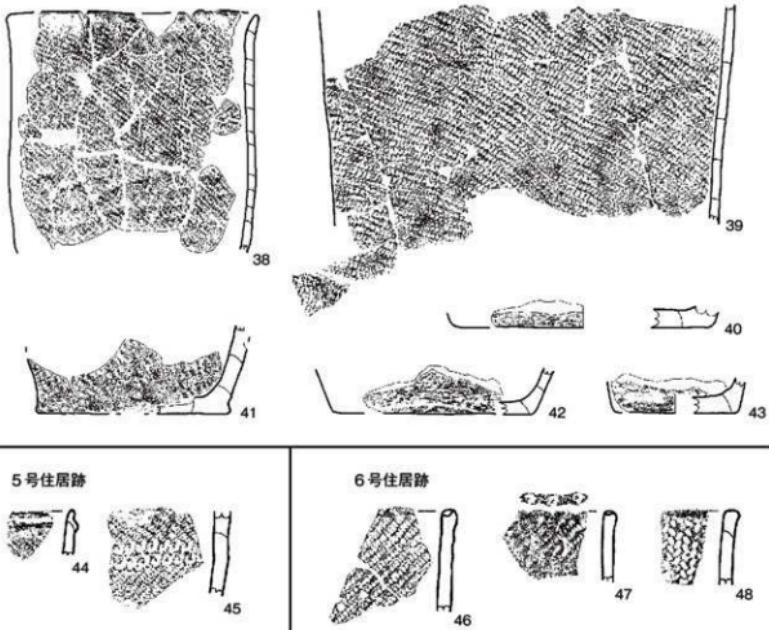
## 2号住居跡③



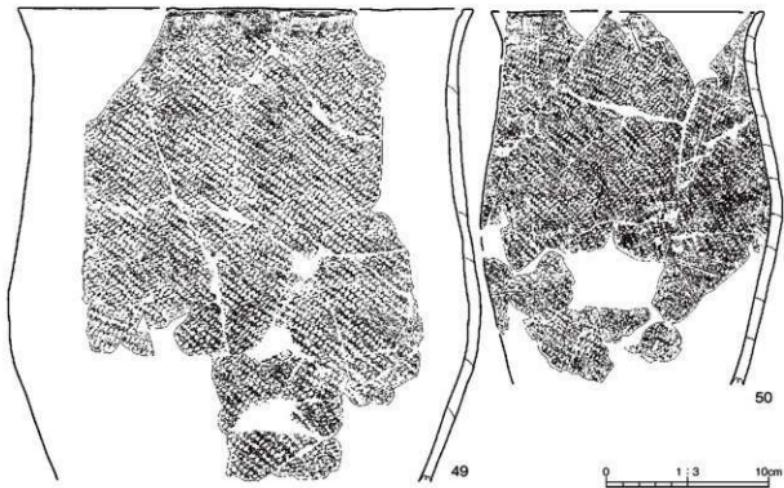
## 4号住居跡



第25図 2・4号住居跡出土土器

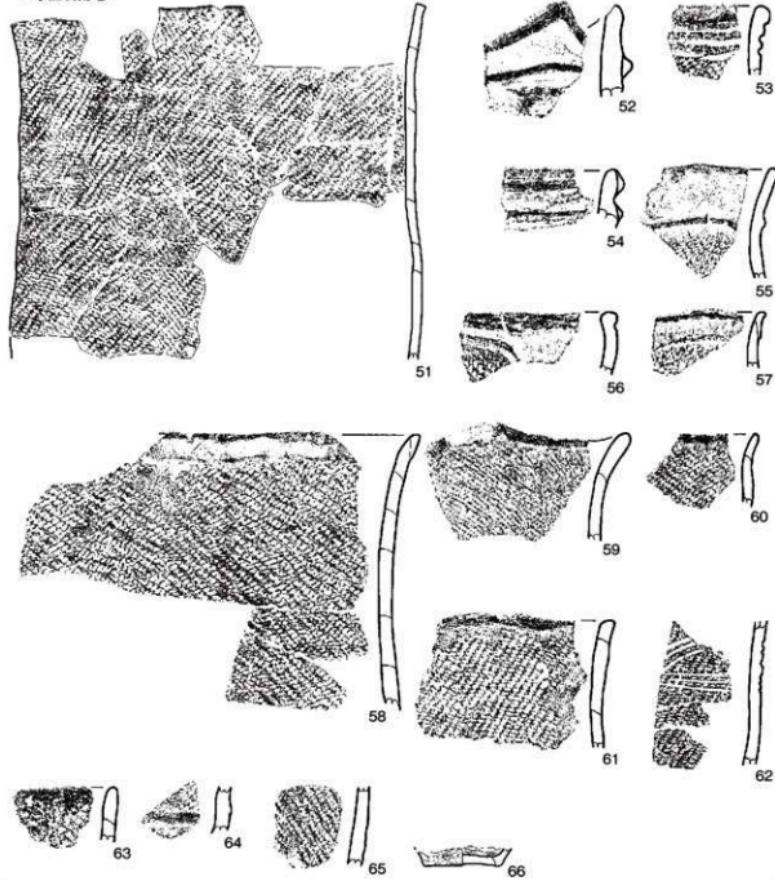


7号住居跡①

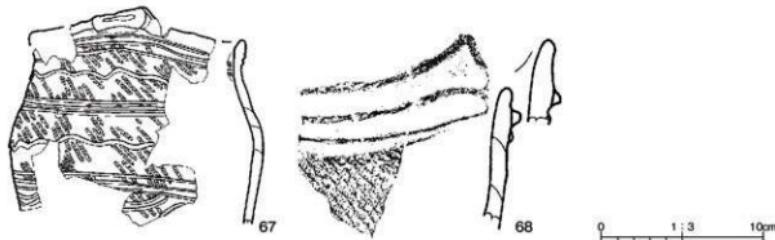


第26図 4~7号住居跡出土土器

## 7号住居跡②

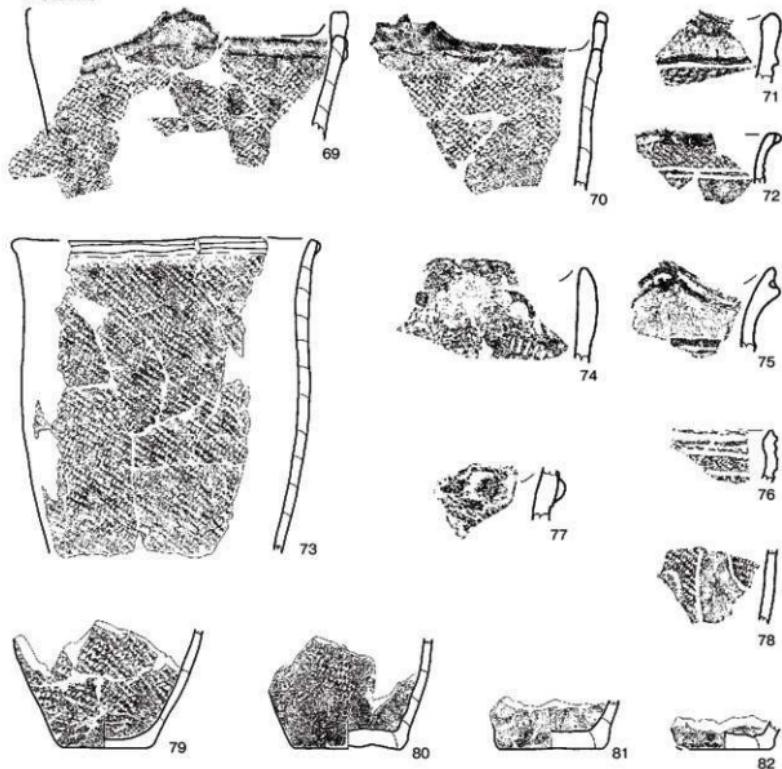


## 8号住居跡



第27図 7・8号住居跡出土土器

8号住居跡



10号住居跡



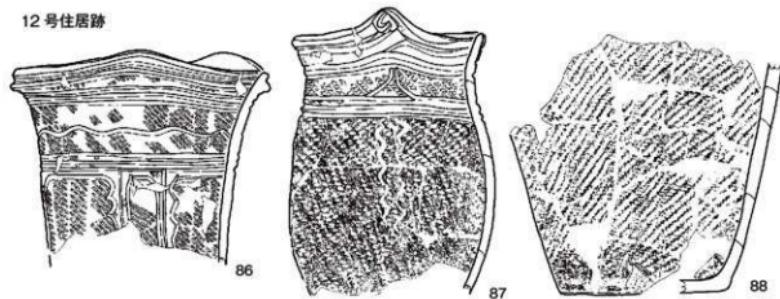
11号住居跡



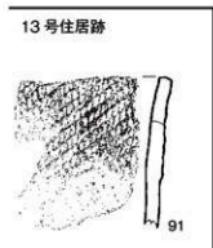
0 1 3 10cm

第28図 8・10・11号住居跡出土土器

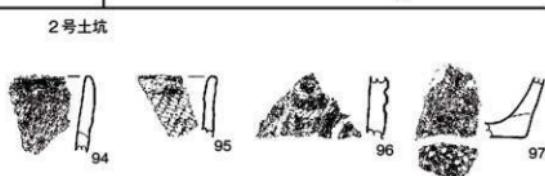
## 12号住居跡



## 13号住居跡



## 2号土坑



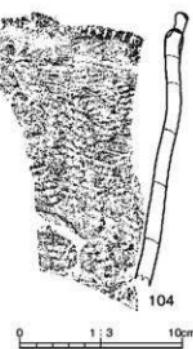
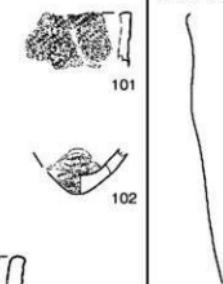
## 3号土坑



## 4号土坑



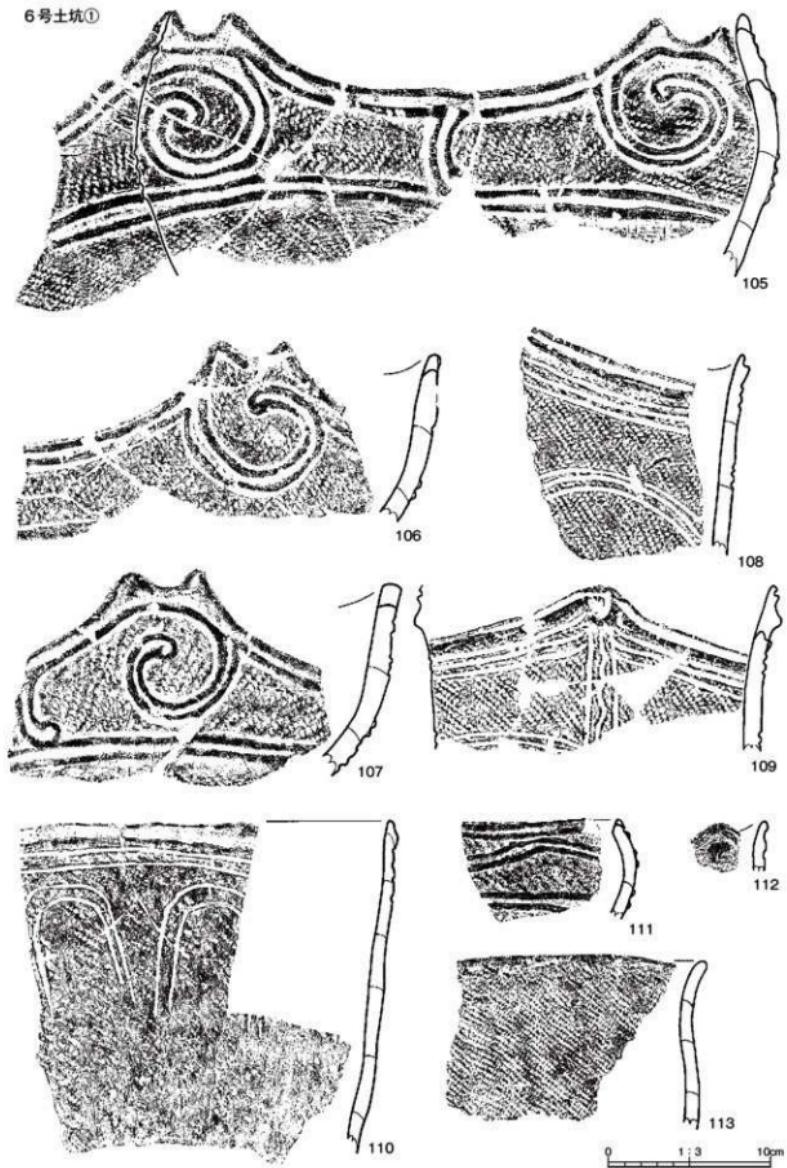
## 5号土坑



0 1:3 10cm

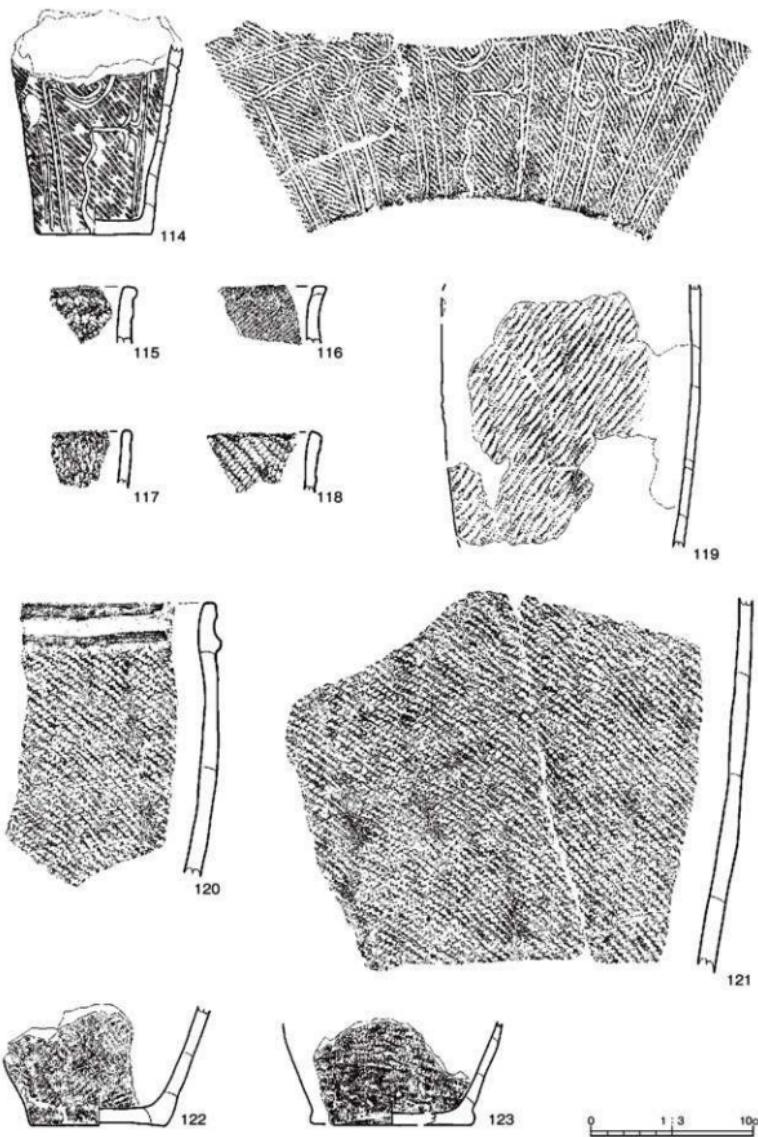
第29図 12・13号住居跡、1~5号土坑出土土器

6号土坑①



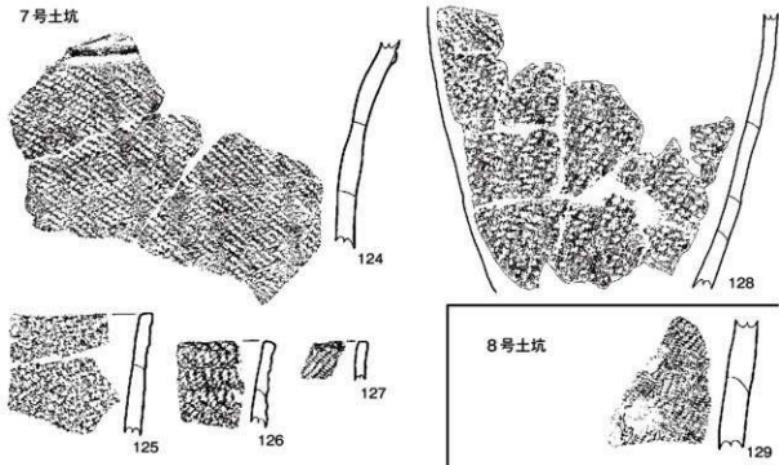
第30図 6号土坑出土土器 (1)

6号土坑②



第31図 6号土坑出土土器 (2)

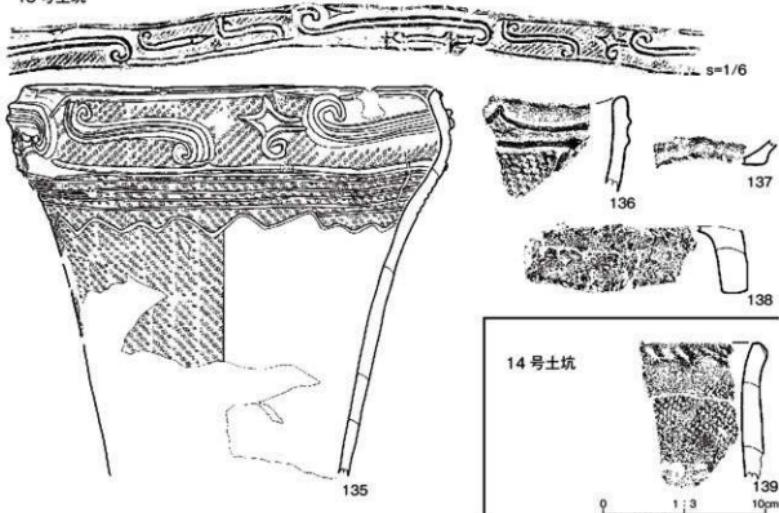
7号土坑



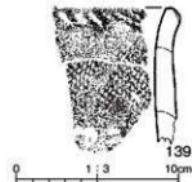
11号土坑



13号土坑

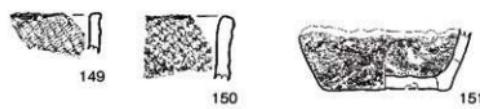
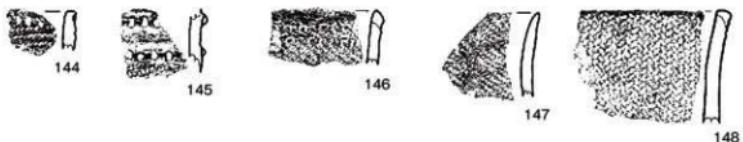
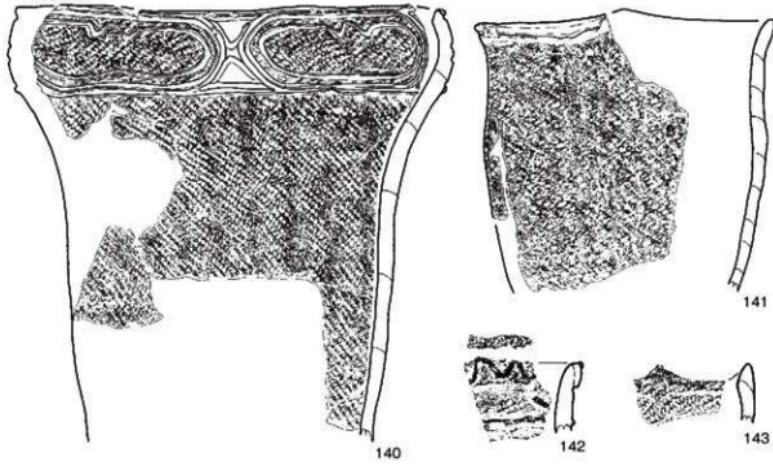


14号土坑

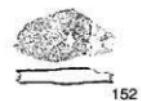


第32図 7・8・11・13・14号土坑出土土器

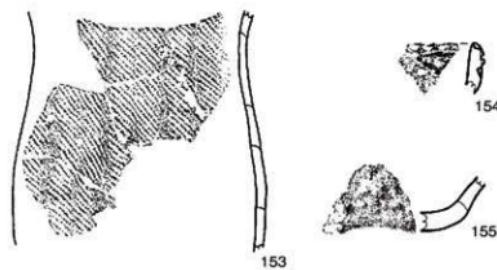
## 15号土坑



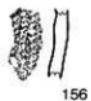
## 19号土坑



## 21号土坑



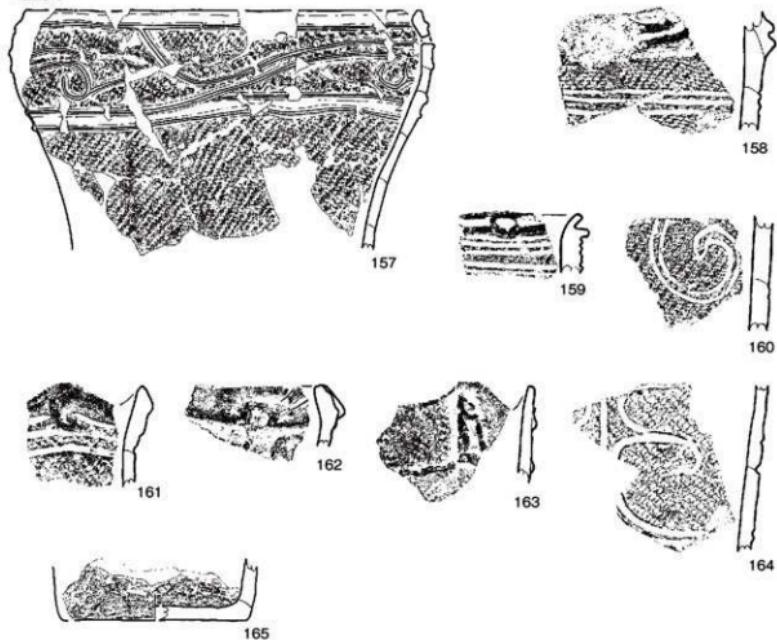
## 2号陥し穴



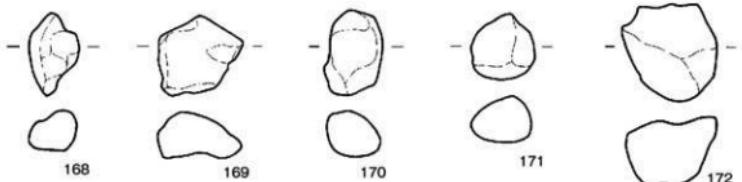
0 1 : 3 10cm

第33図 15・19・21号土坑、2号陥し穴状遺構出土土器

遺構外



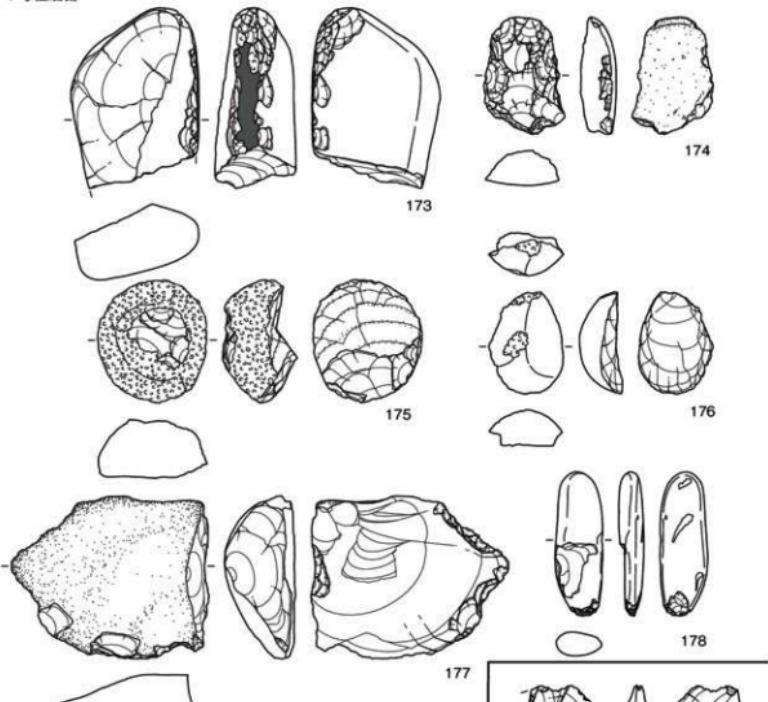
0 1 : 3 10cm



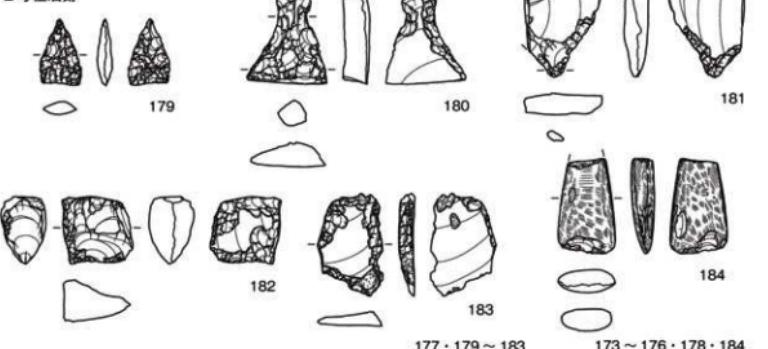
0 2 : 3 5cm

第34図 遺構出土土器・陶器・土製品

## 1号住居跡

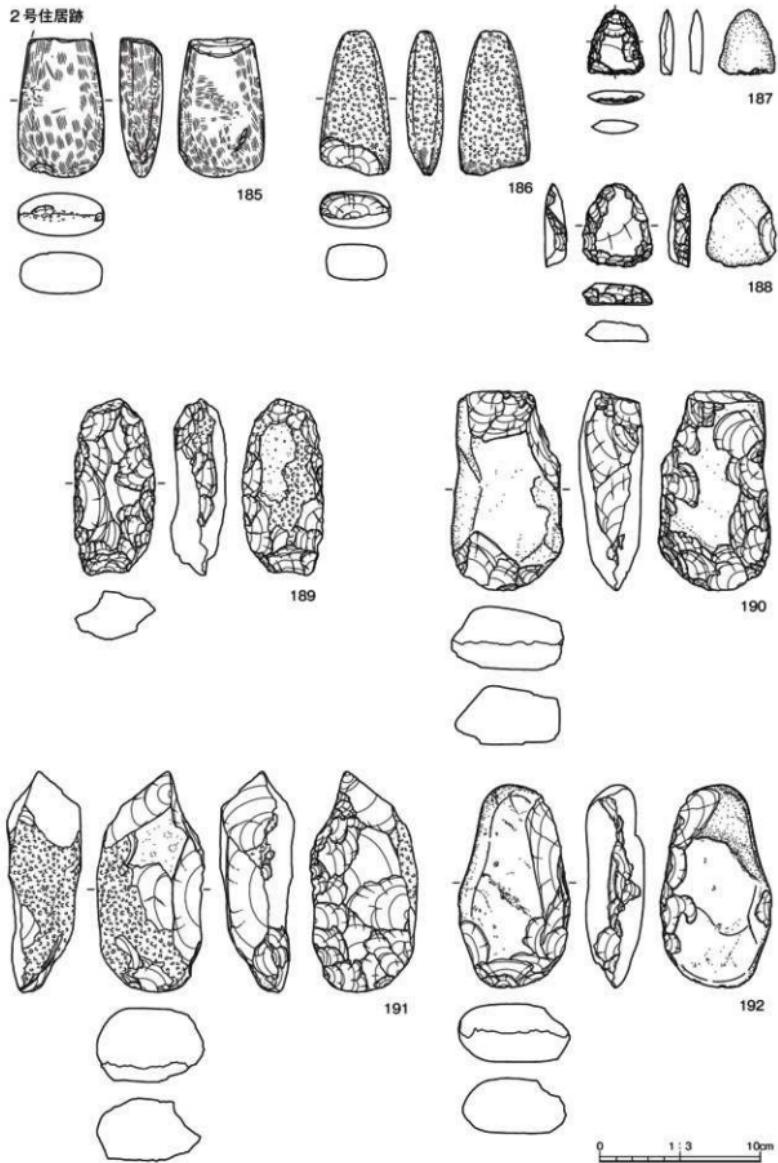


## 2号住居跡



177・179～183 2:3 173～176・178・184 1:3 0 5cm 0 10cm

第35図 1・2号住居跡出土石器

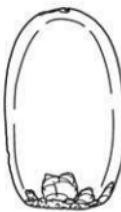


第36図 2号住居跡出土石器

## 2号住居跡



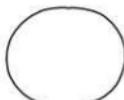
193



195



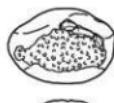
194



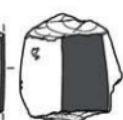
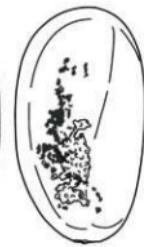
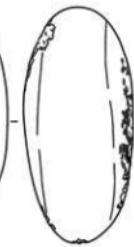
## 3号住居跡



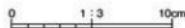
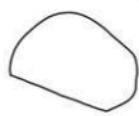
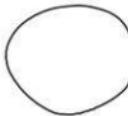
196



196

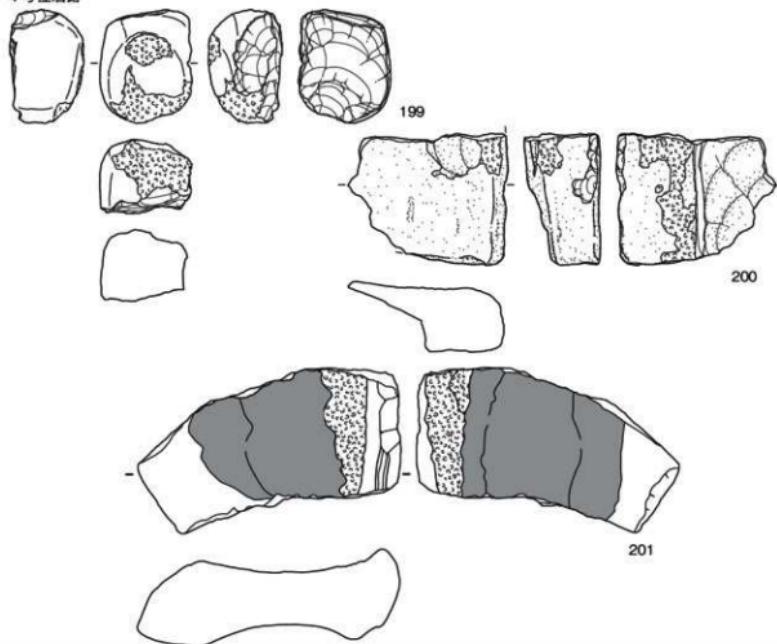


197

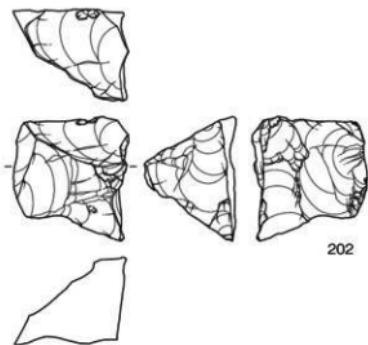


第37図 2・3号住居跡出土石器

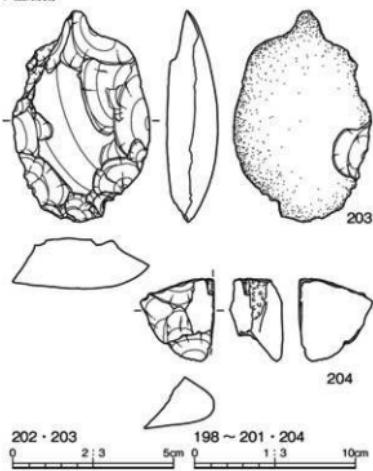
4号住居跡



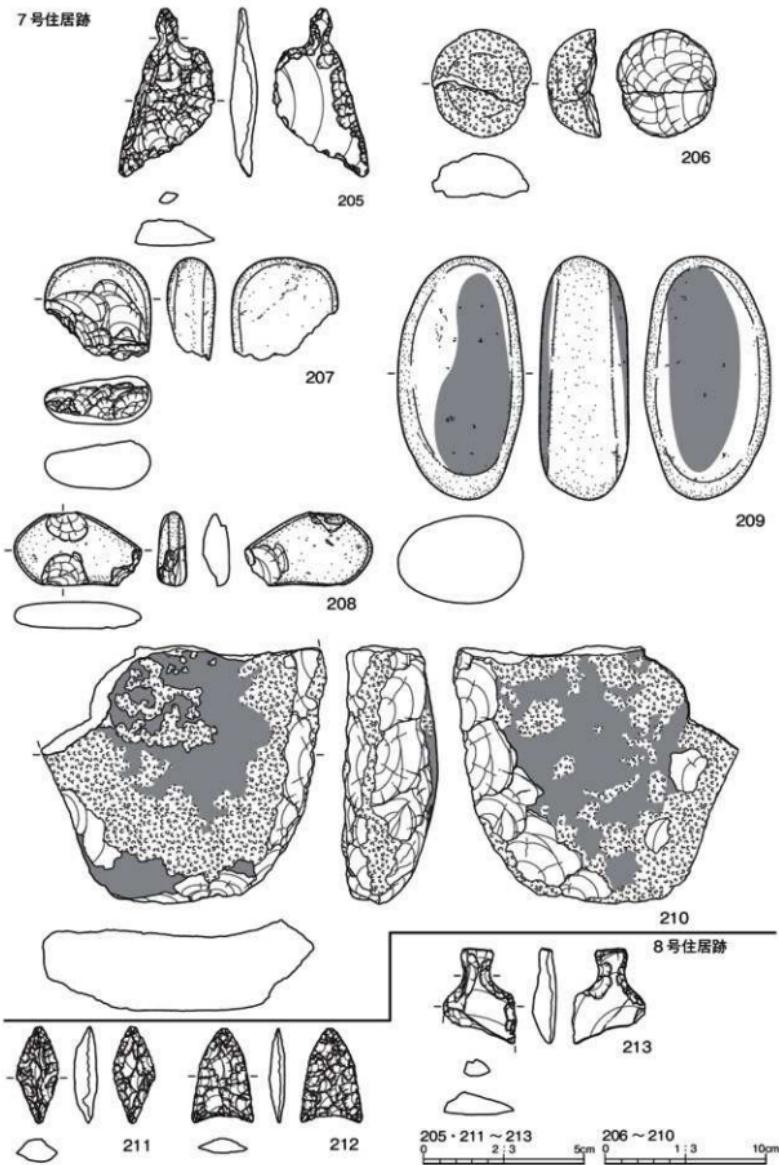
5号住居跡



6住居跡

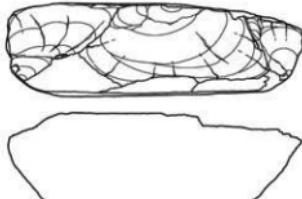
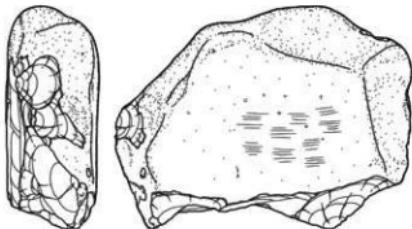
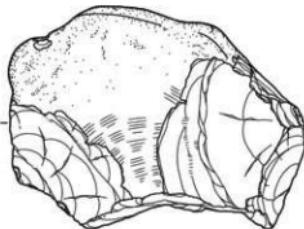
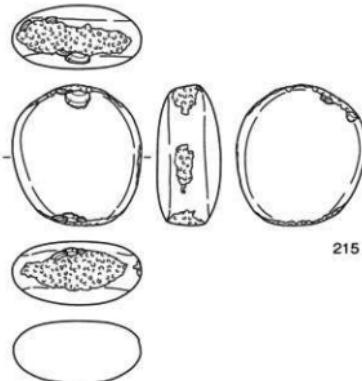
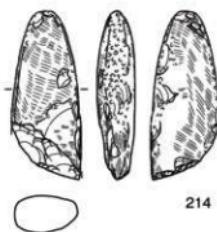


第38図 4～6号住居跡出土石器

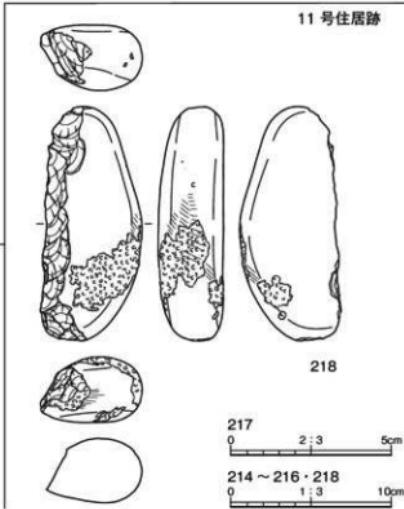
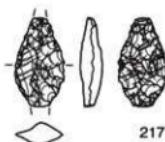


第39図 7・8号住居跡出土石器

8号住居跡

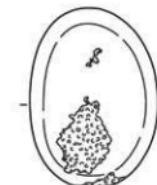


9号住居跡



第40図 8・9・11号住居跡出土石器

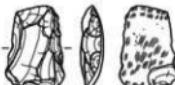
11号住居跡



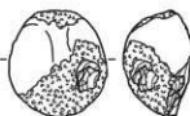
219



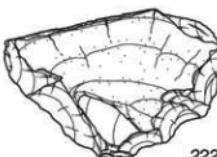
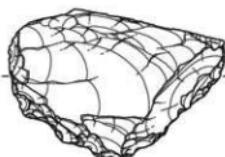
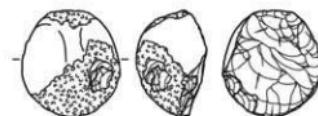
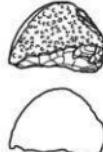
12号住居跡



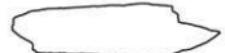
220



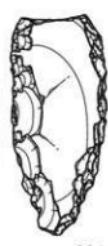
221



222

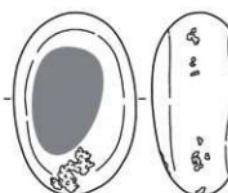


2号土坑



224

13号住居跡



223



224

2:3

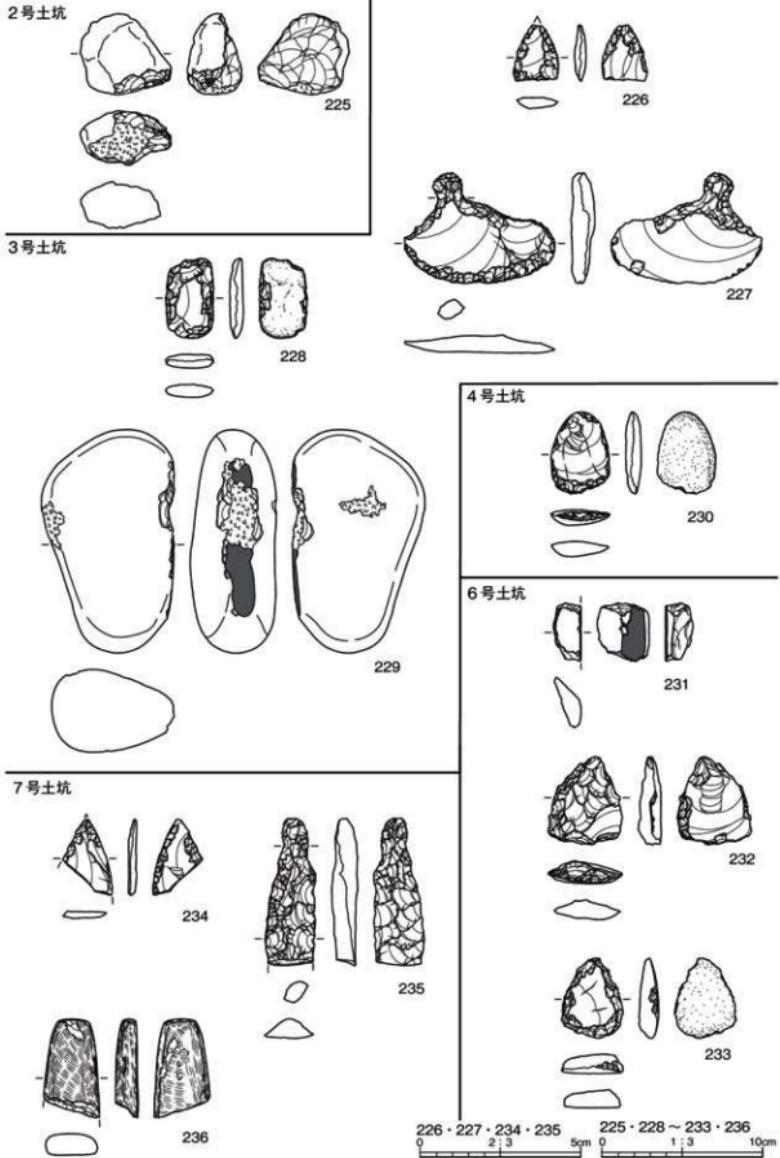
5cm

219~223

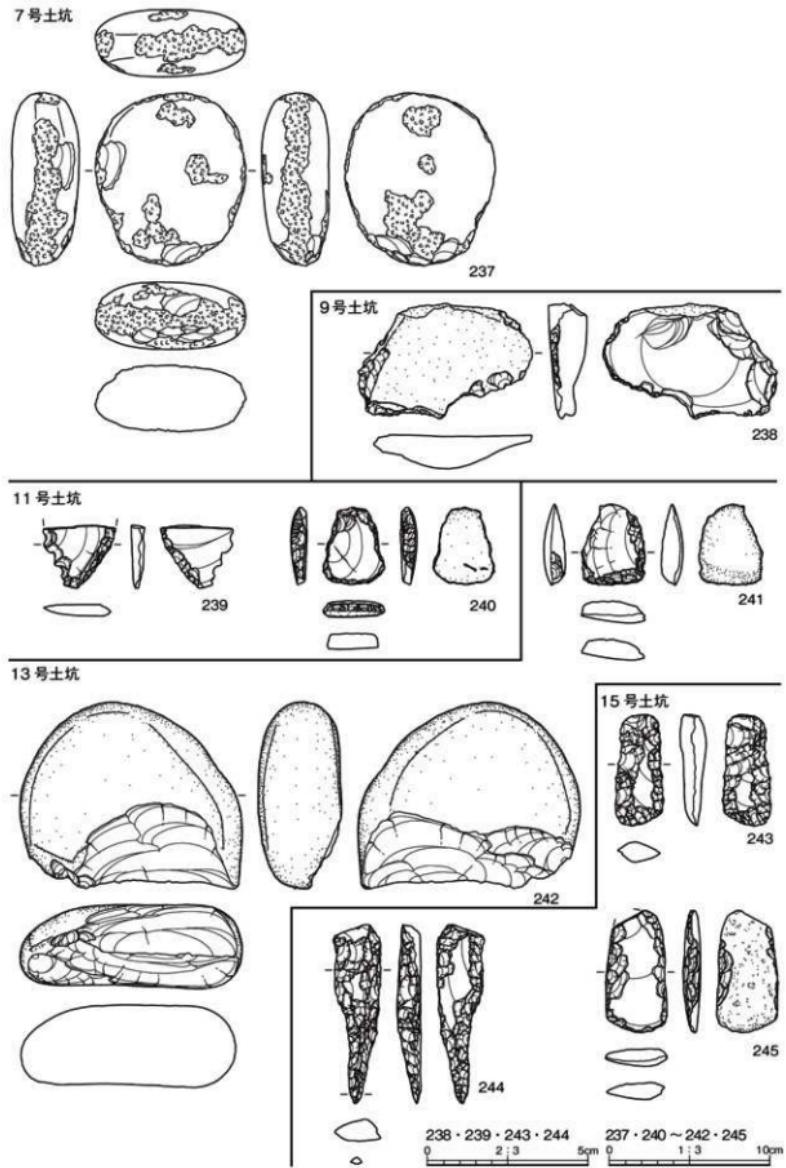
1:3

10cm

第41図 11~13号住居跡、2号土坑出土石器

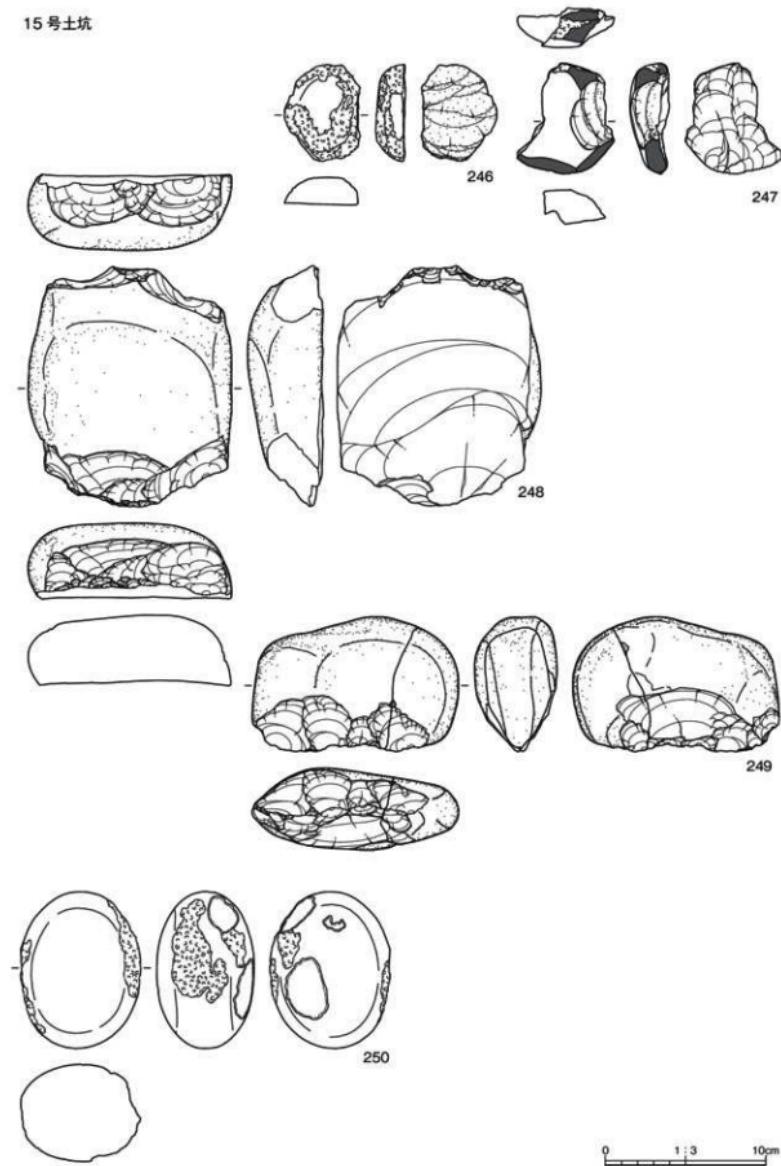


第42図 2~4・6・7号土坑出土石器

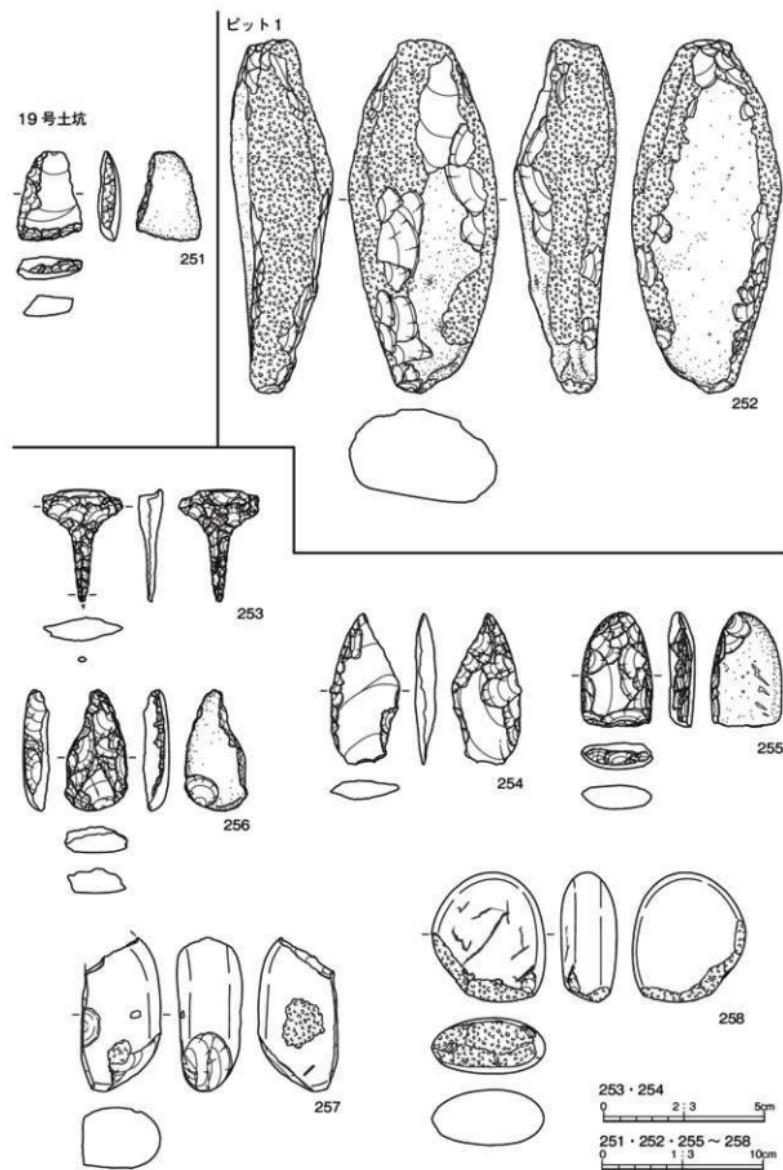


第43図 7・9・11・13・15号土坑出土石器

15号土坑



第44图 15号土坑出土石器



第45図 19号土坑、ピット1、遺構外出土石器

第4表 土器・陶器観察表

査号	図	写真	種別	出土地点	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	文様	分類
1	23	19	深鉢・口縁部	1号住居跡 P1	複土		(7.90)		LR, 陰沈線モチーフ、内面ヨコナデ、保付 蓋	II群A類
2	23	19	深鉢・口縁部	1号住居跡 室 側半分			21.1	(13.50)	LR	II群
3	23	19	深鉢・胴部	2号住居跡	土器 7-1 層・Q3-1 層、 Q4-1 層・Q4-下層		(22.60)		ボタル状突起、刺突、RL、沈線モチーフ、 蓋内面文	II群E類
4	23	19	深鉢	2号住居跡	土 器 6-1 層、5 層、 Q3-4-1 層	(11.1)	14.50	4.40	LR, 陰沈線モチーフ、内面ヨコナデ、保付 蓋	II群E類
5	23	19	深鉢・口縁・胴部	2号住居跡	Q2 複土上層、Q3 床 面上		24.0	(25.80)	LR	II群E類
6	23	19	深鉢・口縁・胴部	2号住居跡	Q3 - 1 層、Q4-1 層		19.1	(22.30)	RL	II群E類
7	24	20	深鉢・口縁・胴部	2号住居跡	土器 2・土器 4・土器 6、 1 層		27.3	(23.50)	LR	II群E類
8	24	20	深鉢・口縁・胴部	2号住居跡	土器 6・土器 7、Q3 層 土 1-2 層、Q4 層土 1・ 2 層		22.0	(14.80)	RL	II群E類
9	24	20	深鉢・口縁・胴部	2号住居跡	Q3 床面、Q3-2 層	(20.5)	(18.90)		LR	II群E類
10	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q1-2 層		(4.70)		陰帯による渦巻文、刻み	II群A類
11	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q4		(4.00)		陰帯による渦巻文	II群A類
12	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	2 層、P2 複土		(7.10)		陰帯文、RL ±	II群A類
13	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q3 複土上位		(5.70)		陰帯文、RL ±	II群A類
14	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q1 複土		(5.80)		陰帯文、LR	II群B類
15	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	2 層		(3.75)		陰帯文、LR	II群
16	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q3 複土 1 层		(4.10)		口縁部無文、刺突文、LR	II群E類・蓋花
17	24	20	口縫・胴部	2号住居跡	Q3		(8.10)			II群E類
18	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q1 複土上層		(3.65)		口縁部 LR 裏側往復、LR	I群
19	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q3-2 層		(4.30)		LR	II群
20	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	P2 複土		(8.60)		LR	II群
21	24	20	深鉢・口縁部	2号住居跡	土器 5-1 层		(12.80)		口縁部ナデ、RL、胴部上半保付蓋	II群
22	25	21	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q2 複土上層、Q3 床 面上		(6.60)		複位 RL、斜位 RL	II群
23	25	21	深鉢・口縁部	2号住居跡	Q2-4 層		(5.85)		LR	II群
24	25	21	深鉢・口縁部	2号住居跡	2 層		(4.10)		RL ±、保付蓋	II群
25	25	21	深鉢・胴部	2号住居跡	Q4 複土下層		(17.00)		RL ±、胴部上半保付蓋	II群
26	25	21	深鉢・底部	2号住居跡	土器 9-1 层、Q3-1 層		(13.10)	9.90	LR, 底面木葉痕	II群
27	25	21	深鉢・底部	2号住居跡	土器 3-1 层、土器 6-1 層		(10.30)	11.05	付加系 LRL, 底面木葉痕	II群
28	25	21	深鉢・底部	2号住居跡	Q4 複土上層・下層、 4号住居跡炉 2 層		(4.65)	9.40	RL	II群
29	25	21	深鉢・底部	2号住居跡	土器 1-1 层		(3.15)	6.65	無文	II群
30	25	21	深鉢・底部	2号住居跡	Q2 複土上層、Q3 床 面上		(1.90)		LR, 底面木葉痕	II群
31	25	21	深鉢・底部	2号住居跡	Q3 上層		(1.80)	4.50	無文、底面圧痕	II群
32	25	21	深鉢・胴部	2号住居跡	土器 2-1 层		(9.10)	7.30	優渦織文 LR	II群E類
33	25	21	深鉢・口縁部	4号住居跡	Q3 複土		(4.90)		LR	II群
34	25	21	深鉢・口縁部	4号住居跡	Q3 複土		(4.50)		RL、保付蓋	II群
35	25	21	深鉢・口縁部	4号住居跡	Q3 複土		(5.10)		LR	II群
36	25	21	深鉢・口縁部	4号住居跡	床から 5cm 土器 1		(8.40)		LR、修理孔	II群
37	25	21	深鉢・底部	4号住居跡	床から 5cm 土器 1		(10.90)		LR, 底面木葉痕	II群
38	26	22	深鉢・口縫・胴部	4号住居跡	伊 2 複土	15.3	(14.75)		付加系 LRL、結節圓板文	II群E類
39	26	22	深鉢・胴部	4号住居跡	土器 1、床から 5cm	(24.5)	(13.35)		付加系 LRL	II群E類
40	26	22	深鉢・底部	4号住居跡	Q3 複土		(1.60)	16.00	無文	II群
41	26	22	深鉢・底部	4号住居跡	床から 5 ~ 10cm、土器 2	(5.40)	11.30	L R		II群
42	26	22	深鉢・底部	4号住居跡	床から 5cm、土器 1	(2.65)	11.40	ケズリ		II群
43	26	22	深鉢・底部	4号住居跡	Q3 複土	(1.90)	8.60	無文		II群
44	26	22	深鉢・口縁部	5号住居跡	ペルト式複土	(2.80)		陰帯、RL ±、保付蓋多	II群C類	
45	26	22	深鉢・胴部	5号住居跡	ペルト式複土	(5.20)		LR, A-アーブ、織維多	II群	
46	26	22	深鉢・口縁部	6号住居跡	複土	(6.15)		口縁部刺突文、LR、保付蓋、織維多	II群	
47	26	22	深鉢・口縁部	6号住居跡	複土	(4.30)		口縁部刺突文、LR、織維	II群	
48	26	22	深鉢・口縁部	6号住居跡	複土	(4.50)		棘状状文	II群	
49	26	22	深鉢・口縫・胴部	7号住居跡	土器 3・床から 20cm	(27.8)	(28.90)		LR	II群E類
50	26	22	深鉢・口縫・胴部	7号住居跡	ペルト式複土上層	16.4	(22.80)		付加系 LRL	II群E類
51	27	23	深鉢・口縫・胴部	7号住居跡	土器 1・2	25.3	(21.60)		RL、口縫部内面保付蓋	II群E類
52	27	23	深鉢・口縫部	7号住居跡	ペルト式複土下位		(5.70)		陰帯	II群C類
53	27	23	深鉢・口縫部	7号住居跡	1 层		(4.20)		LR	II群B類
54	27	23	深鉢・口縫部	7号住居跡	P4		(3.50)		陰帯	II群C類

番号	国	出土地点	種別	出土地点	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	文様	分類
55	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	1号掘し穴上部2層		(6.70)		隨帯ナゾリ、LR	II群D類
56	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ペルト南上位		(3.90)		RL、保付縫	II群D類
57	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ペルト南下位		(3.50)		LR n.	II群D類
58	27	23	深鉢	7号住居跡	ペルト南覆土上位		(16.80)		口縁部オヤエ、LR	II群E類
59	27	23	深鉢	7号住居跡	ペルト南下位		(6.70)		LR n. 保付縫多	II群C類
60	27	23	深鉢	7号住居跡	ペルト南上位		(4.40)		LR、保付縫	II群
61	27	23	深鉢	7号住居跡	水道管理設土上位		(7.80)		RL	II群
62	27	23	深鉢・胸部	7号住居跡	ペルト南下位		(8.80)		RL、沈縞3条	II群B類
63	27	23	深鉢	7号住居跡	1層		(3.40)		LR n.	II群C類
64	27	23	深鉢・胸部	7号住居跡	伊1層		(2.80)		隨帯、LR	II群C類
65	27	23	深鉢	7号住居跡	炉1層		(4.80)		RL	II群
66	27	23	深鉢・底面	7号住居跡	ペルト南		(11.10)	47.0	無文	II群
67	27	23	深鉢・口縁部	8号住居跡	水道管理2層	12.9	(13.20)		口縁部隆等、沈縞モチーフ、LR、保付縫多	II群A類
68	27	23	深鉢	8号住居跡	ペルト北覆土		(8.70)		隨帯、RL	II群C類
69	28	23	深鉢	8号住居跡	水道管理2層		(7.90)		突起、口縁部無文、LR、70と同一個体	II群
70	28	23	深鉢	8号住居跡	水道管理2層		(10.90)		突起、口縁部無文、LR、69と同一個体	II群
71	28	23	深鉢	8号住居跡	G3-上層		(4.20)		隨帯、RL n.	II群C類
72	28	23	深鉢	8号住居跡	G1-上層		(3.00)		沈縞、LR n.	II群C類
73	28	24	深鉢・口縁部	9号住居跡	水道管理2層	18.9	(19.50)		口縁部隆等、RL	II群C類
74	28	24	深鉢	9号住居跡	Q3-1層		(5.80)		波渦部に貼り付け隆等、擬刺突文	II群B類
75	28	24	深鉢	9号住居跡	Q4-2層		(5.20)		口縁部に沈縞文、隆等	II群C類
76	28	24	深鉢	9号住居跡	Q4-2層		(3.20)		隨帯、沈縞、RL	II群C類
77	28	24	深鉢・胸部	9号住居跡	床面直上		(3.35)		隨帯貼付、RL	II群C類
78	28	24	深鉢・胸部	9号住居跡	-		(4.50)		變形圓文、LR	II群E類
79	28	24	深鉢	10号住居跡	床面直上		(7.50)	5.00	LR	II群
80	28	24	深鉢	10号住居跡	床面直上		(6.65)	6.60	LR n.	II群
81	28	24	深鉢	10号住居跡	Q4-2層		(2.90)		無文	II群
82	28	24	深鉢	10号住居跡	Q1-1層上位		(1.70)	5.60	無文	II群
83	28	24	深鉢	10号住居跡	塵土		(4.10)		LR	II群
84	28	24	深鉢	10号住居跡	土器1		(15.80)		RL、部分的に保付縫、内面削落多	II群
85	28	24	深鉢	11号住居跡	炉		(1.30)	(7.40)	RL	II群
86	29	24	深鉢・口縁部	12号住居跡	土器1・2	15.4	(13.10)		口縁部隆沈縞、波状文2本、沈縞文3本	II群C類
87	29	24	深鉢	12号住居跡	土器2	11.6	(17.50)		口縁部下に沈縞文、沈縞3本、下垂波状文2本、LR	II群C類
88	29	24	深鉢	12号住居跡	土器3		(13.80)	10.10	RL	II群C類
89	29	24	深鉢	12号住居跡	塵土		(2.40)		隨縞文、LR	II群C類
90	29	24	深鉢	12号住居跡	塵土		(4.30)		LR	II群
91	29	24	深鉢	13号住居跡	塵土		(9.10)		LR	II群
92	29	24	深鉢	1号土坑	塵土		(4.60)		RL	II群
93	29	24	深鉶	1号土坑	塵土		(1.90)		口縁部肥厚	II群
94	29	24	深鉶	2号土坑	塵土		(4.60)		複縞URL	II群
95	29	24	深鉶	2号土坑	塵土		(3.70)		口縁部ナゾリ、RL	II群
96	29	24	深鉶	2号土坑	塵土下位		(3.80)		熱条件斑	II群
97	29	24	深鉶	2号土坑	塵土下位		(3.70)		LR、底面直上	II群
98	29	25	深鉶	3号土坑	塵土		(18.40)		円形竹管状刺突、RL、99-100と同一個体	II群
99	29	25	深鉶	3号土坑	塵土下位		(5.50)		円形竹管状刺突、RL、98-100と同一個体	II群
100	29	25	深鉶	3号土坑	塵土		(3.55)		円形竹管状刺突、RL、98-99と同一個体	II群
101	29	25	深鉶	3号土坑	塵土		(3.30)		LR、内面削落	II群
102	29	25	深鉶	3号土坑	塵土		(2.80)		未底	II群
103	29	25	深鉶	4号土坑	底面		(2.30)		RL	I・II群
104	29	25	深鉶・口縁部	5号土坑	横出面から-70cm	(17.5)	(16.50)		口縁部剥込み、#	II群
105	30	25	深鉶	6号土坑	横出面から-30cm	(34.7)	(16.00)		口縁部三重巻きを、底部下端に沈縞文、RL、105-107と同一個体	II群C類
106	30	25	深鉶	6号土坑	横出面から-30cm		(10.30)		口縁部三重巻きを、底部下端に沈縞文、RL、105-106と同一個体	II群C類
107	30	25	深鉶	6号土坑	横出面から-30cm		(12.20)		口縁部三重巻きを、底部下端に沈縞文、RL、105-106と同一個体	II群C類
108	30	25	深鉶	6号土坑	6号土坑		(19.20)		隨帯、文縞3本、LR	II群C類
109	30	25	深鉶	6号土坑	6号土坑		(21.5)	(10.10)	口縁部下に沈縞文、隨帯、沈縞3本、LR	II群C類
110	30	25	深鉶	6号土坑	底面		(20.30)		口縁部隆等、沈縞2本、LR n. 内面下位保付縫	II群C類
111	30	25	深鉶	6号土坑	6号土坑		(6.10)		傾斜平行隆線、RL、保付縫	II群C類
112	30	25	深鉶	6号土坑	塵土上位		(3.00)		縞文突起、隨帯、保付縫	II群
113	30	25	深鉶	6号土坑	塵土下位		(10.20)		LR、保付縫	II群C類
114	31	26	深鉶	6号土坑	底面		(13.70)	7.00	沈縞文2本、LR	II群C類
115	31	26	深鉶	6号土坑	塵土下位		(3.40)		ループLR	II群
116	31	26	深鉶	6号土坑	塵土下位		(3.50)		LR ?	II群

査定番号	区画	写図	種別	出土地点	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	文様	分類
117 31 26	深鉢	口縁部	6号土坑	覆土上位		(3.50)			LR、保付箋	II群
118 31 26	深鉢	口縁部	6号土坑	底面		(3.70)			RL、織維多	II群
119 31 26	深鉢	胴部	6号土坑	覆土下位・底面		(16.00)			LR	II群
120 31 26	深鉢	口縁部	6号土坑	覆土下位		(16.70)			縞帶、LR、胴部保付箋	II群C類
121 31 26	深鉢	胴部	6号土坑	覆土下位		(22.75)			LR	II群C類
122 31 26	深鉢	底部	6号土坑	底面		(7.00)		8.20	LR	II群
123 31 26	深鉢	底部	6号土坑	覆土下位		(6.50)		9.00	LR	II群
124 32 26	深鉢	胴部	7号土坑	6層		(12.90)			縞帶、LR	II群C類
125 32 26	深鉢	口縁部	7号土坑	覆土上位		(7.40)			複数LR、全面保付箋、織維多	I群
126 32 26	深鉢	口縁部	7号土坑	覆土上位		(5.50)			ループ、保付箋	II群
127 32 26	深鉢	口縁部	7号土坑	覆土上位		(2.30)			RL	II群
128 32 26	深鉢	胴部	7号土坑	覆土上位		(17.40)			LR、複数RLR	II群
129 32 26	深鉢	胴部	8号土坑	覆土上位		(7.90)			RL、内面下保付箋	II群
130 32 26	深鉢	口縁部	9号土坑	覆土		(3.80)			口縁部隆起剝れ、LR	II群A類
131 32 26	深鉢	口縁部	11号土坑	覆土		(5.20)			口縁部正直側、LR	II群
132 32 26	深鉢	口縁部	11号土坑	覆土		(4.25)			複数RLR	II群
133 32 26	深鉢	口縁部	11号土坑	覆土		(2.05)			LR n	II群
134 32 26	深鉢	底部	11号土坑	覆土		(2.00)			LR、底面LR+	II群
135 32 27	深鉢	口縁～胴部	13号土坑	覆土中位	25.2	(23.90)			口縁部隆起、平行弦線5・6本、波線2本	II群C類
136 32 27	深鉢	口縁部	13号土坑	覆土南側		(5.80)			縞帶、LR、保付箋	II群C類
137 32 27	深鉢	底部	13号土坑	覆土北側		(1.50)			剝れ	II群
138 32 27	台形		13号土坑	覆土中位		(3.80)			縞帶著しい	II群
139 32 27	深鉢	口縁部	14号土坑	覆土上位		(2.20)			口縁部面部文丘頭n、RL	II群
140 33 27	深鉢	口縁～胴部	15号土坑	4層	26.3	(26.70)			波紋文、LR、口縁部文様条中位以下胴部保付箋	II群C類
141 33 27	深鉢	口縁～胴部	15号土坑	—	18.4	(16.50)			口縁部隆起、LR、口縁部～胴部保付箋、内面保付箋下部保付箋	II群C類
142 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(4.50)			縞帶、RL	II群B類
143 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(3.55)			LR、内面下半保付箋	II群C類
144 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(2.40)			1区帯	II群
145 33 27	深鉢	胴部	15号土坑	覆土		(3.90)			縞帶上部突起、LR、内面下半保付箋	II群
146 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(3.30)			ループ、LR	II群
147 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(5.10)			LR、保付箋	II群
148 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(6.90)			縞帶、保付箋、織維多	II群
149 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(2.40)			RL	II群
150 33 27	深鉢	口縁部	15号土坑	覆土		(3.90)			LR、織維少	II群
151 33 27	深鉢	底部	15号土坑	1層		(4.90)		7.60	無文	II群
152 33 28	深鉢	底部	19号土坑	覆土		(5.90)			底面破片	II群
153 33 28	深鉢	胴部	21号土坑	1層		(7.40)			LR、保付箋	II群C類
154 33 28	深鉢	口縁部	21号土坑	1層		(3.00)			縞帶、剝離	II群
155 33 28	深鉢	底部	21号土坑	1層		(3.30)			剥離少ない	I・II群
156 33 28	深鉢	胴部	2号施し穴	覆土中位		(4.20)			RL	II群
157 34 28	深鉢	口縁～胴部	4Eグリッド	—	24.0	(14.90)			複次程、RL	II群C類
158 34 28	深鉢	口縁部	複点1と4号住居跡	N層上面		(7.35)			縞帶、RL	II群C類
159 34 28	深鉢	口縁部	120グリッド	—		(3.65)			縞帶、次程、複節RLR、160と同一個体	II群C類
160 34 28	深鉢	胴部	複点	1層		(6.95)			複節2本、複節RLR、159と同一個体	II群C類
161 34 28	深鉢	口縁部	11Nグリッド	—		(6.20)			口縁部下部文、複節3本、RL、保付箋	II群C類
162 34 28	深鉢	口縁部	複点	1層		(3.70)			口縁部隆起	II群
163 34 28	深鉢	口縁部	複点	1層		(5.90)			縞帶文、E	II群C類
164 34 28	深鉢	胴部	1～2号住居跡	—		(10.05)			沈縫、LR、圓形の保付箋	II群C類
165 34 28	深鉢	底部	複点	1層		(3.80)		11.40	ケズリ	II群
166 34 28	底鉢	胴部	1～2号住居跡	1層		(6.30)				
167 34 28	底鉢	胴部	複点	1層		(7.70)				

第5表 石器観察表

規範 番号	回	図	出土地点	出土層位	石種	法量 (mm)			重量 (g)	石質
						長軸	短軸	厚さ		
173	35	29	1号住居跡	1層	特殊磨石	111.9	79.5	50.2	439.1	デイサイト (中生代白亜紀・北上山地)
174	35	29	1号住居跡 ピット1	覆土	打製石片	72.6	50.0	22.0	92.1	砂岩 (中生代・北上山地)
175	35	29	1号住居跡 伊石1	—	多面体敲石	76.4	67.6	46.1	255.3	チャート (中生代・北上山地)
176	35	29	1号住居跡	—	多面体敲石	63.2	46.2	26.6	75.6	チャート (中生代・北上山地)
177	35	29	1号住居跡 ピット1	覆土	二次加工	50.3	61.2	21.8	70.7	カルン・フルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
178	35	29	1号住居跡	1層	礫器	89.3	29.6	15.5	60.9	カルン・フルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
179	35	29	2号住居跡 Q4	床面直上	石錐	20.4	12.6	4.6	0.9	頁岩 (中生代・北上山地)
180	35	29	2号住居跡 Q1	上層	石錐	286	24.7	8.4	4.9	頁岩 (中生代・北上山地)
181	35	29	2号住居跡 Q1	1層	石錐	50.1	25.1	8.6	10.4	頁岩 (中生代・北上山地)
182	35	29	2号住居跡 Q4	1層	二次加工	20.8	22.0	13.9	6.5	頁岩 (中生代・北上山地)
183	35	29	2号住居跡 Q3	上層	二次加工	31.7	20.1	4.9	3.0	頁岩 (中生代・北上山地)
184	35	29	2号住居跡 Q3	上層	磨製石斧	58.9	35.3	14.2	46.9	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
185	36	29	2号住居跡	棱出面	磨製石斧	86.0	53.0	26.4	214.2	細粒閃緑岩 (中生代白亜紀・北上山地)
186	36	29	2号住居跡 Q4	2層	磨製石斧	89.4	43.7	22.5	136.1	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
187	36	29	2号住居跡	5層	打製石斧	40.1	34.5	8.2	14.0	頁岩 (中生代・北上山地)
188	36	29	2号住居跡 Q1	1層	打製石斧	51.6	43.1	13.6	43.2	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
189	36	29	2号住居跡 Q4	下層	磨製石斧未完成	109.2	50.1	34.2	230.0	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
190	36	29	2号住居跡 Q3	トレンチ	磨製石斧未完成	123.6	69.2	39.0	502.2	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
191	36	29	2号住居跡 Q4	下層	磨製石斧未完成	136.8	66.5	45.7	535.0	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
192	36	29	2号住居跡 Q3	下層	磨製石斧未完成	125.9	69.2	36.0	459.0	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
193	37	29	2号住居跡 Q3	上層	多面体敲石	57.5	52.8	49.9	120.3	チャート (中生代・北上山地)
194	37	29	2号住居跡 伊2	覆土	多面体敲石	67.8	51.9	38.5	131.5	チャート (中生代・北上山地)
195	37	30	2号住居跡 Q3 伊村近	2層	敲石	124.7	74.4	61.5	995.3	砂岩 (中生代・北上山地)
196	37	30	2号住居跡 Q4	下層	敲石	146.6	80.8	66.1	1124.8	砂岩 (中生代・北上山地)
197	37	30	2号住居跡 Q4	上層	特殊磨石	66.6	79.3	63.3	356.6	砂岩 (中生代・北上山地)
198	37	30	3号住居跡 Q2	1層	敲石	73.2	66.3	46.6	324.1	チャート (中生代・北上山地)
199	38	30	4号住居跡 炉石23	—	多面体敲石	70.5	57.3	45.9	263.6	チャート (中生代・北上山地)
200	38	30	4号住居跡 土器2	床から5~10cm上	石皿	81.5	99.2	47.3	364.5	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
201	38	30	4号住居跡 炉石3	—	石皿	(10.4)	(16.5)	(6.1)	872.8	頁岩 (中生代白亜紀~新生代古第三紀・久慈層群・野田層群)
202	38	30	5号住居跡 ベルト以北	覆土	削片	38.5	35.8	28.3	28.8	頁岩 (中生代・北上山地)
203	38	30	6号住居跡	覆土	二次加工削片	65.5	42.8	15.8	45.1	頁岩 (中生代・北上山地)
204	38	30	6号住居跡	覆土	特殊磨石	51.1	45.4	32.6	57.6	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
205	39	30	7号住居跡 ベルト以北	覆土下位	石錐	52.1	29.5	8.4	8.6	頁岩 (中生代・北上山地)
206	39	30	7号住居跡 土器3・ベルト以南	床から5~30cm、複 下位	多面体敲石	66.8	61.6	33.1	142.5	チャート (中生代・北上山地)
207	39	30	7号住居跡 水道管壁	下層・ピット2上	礫器	63.6	66.1	29.9	157.7	カルン・フルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
208	39	30	7号住居跡 ベルト以南	複土下位	石錐	45.6	79.0	17.9	97.3	細粒花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
209	39	30	7号住居跡 ベルト以南	複土上位	石錐	150.9	78.0	55.3	1098.6	細粒閃緑岩 (中生代白亜紀・北上山地)
210	39	31	7号住居跡 ベルト以南	複土上位	石錐	160.0	176.8	59.1	1619.0	砂岩 (中生代白亜紀~新生代古第三紀・久慈層群・野田層群)
211	39	31	8号住居跡 Q3	複土上層	石錐	29.8	12.8	7.2	2.2	頁岩 (中生代・北上山地)
212	39	31	8号住居跡 Q1	複土上層	石錐	29.1	18.9	4.6	2.1	頁岩 (中生代・北上山地)
213	39	31	8号住居跡 Q1	複土下層	石錐	29.5	22.5	7.3	3.5	頁岩 (中生代・北上山地)
214	40	31	8号住居跡 Q3	2層	磨製石斧	105.1	42.8	23.2	148.3	細粒閃緑岩 (中生代白亜紀・北上山地)
215	40	31	8号住居跡 G1	上層	敲石	87.1	80.0	39.2	406.2	砂岩 (中生代・北上山地)
216	40	31	8号住居跡 伊1・伊石5	—	礫器	138.2	184.2	57.8	2078.4	砂岩 (中生代・北上山地)
217	40	31	9号住居跡	複土	石錐	27.4	15.2	6.8	2.3	頁岩 (中生代・北上山地)

掲載番号	図	写真	出土地点	出土層位	岩種	法量 (mm)			重量 [g]	石質
						長軸	短軸	厚さ		
218	40	31	11 号住居跡 伊石 3	-	敲石	145.2	63.0	40.4	502.9	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
219	41	31	11 号住居跡 伊石 4	-	敲石	111.0	79.4	52.4	673.7	砂岩 (中生代・北上山地)
220	41	31	12 号住居跡	層土	打製石斧	51.2	36.5	14.2	33.1	ヒン岩 (中生代・北上山地)
221	41	31	12 号住居跡	層土	多面体敲石	66.2	61.0	43.4	198.4	チャート (中生代・北上山地)
222	41	31	12 号住居跡	層土	柳苔	92.9	134.6	42.2	548.3	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
223	41	31	13 号住居跡	層土	敲石	113.6	75.8	56.1	664.2	砂岩 (中生代・北上山地)
224	41	32	2 号土坑	層土下位	二次加工削片	68.2	29.9	7.6	17.6	頁岩 (中生代・北上山地)
225	42	32	2 号土坑	層土下位	多面体敲石	50.2	56.6	33.9	97.9	チャート (中生代・北上山地)
226	42	32	3 号土坑	層土下位	石錐	17.4	14.0	3.4	0.9	頁岩 (中生代・北上山地)
227	42	32	3 号土坑	層土下位	石錐	34.1	46.8	7.4	8.4	頁岩 (中生代・北上山地)
228	42	32	3 号土坑	層土	打製石斧	49.6	29.7	8.5	20.7	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
229	42	32	3 号土坑	層土	特殊磨石	138.6	82.5	53.4	809.4	デイサイト (中生代白亜紀・北上山地)
230	42	32	4 号土坑	層土	打製石斧	50.7	36.3	9.5	23.4	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
231	42	32	6 号土坑	層土上位	特殊磨石	36.4	34.5	12.4	18.6	繩粒花崗閃綠岩 (中生代白亜紀・北上山地)
232	42	32	6 号土坑	層土下位	打製石斧	54.5	45.9	14.2	35.6	頁岩 (中生代・北上山地)
233	42	32	6 号土坑	層土下位	打製石斧	49.5	38.2	12.0	29.3	繩粒花崗閃綠岩 (中生代白亜紀・北上山地)
234	42	32	7 号土坑	層土上位	石錐	23.4	15.3	2.5	0.8	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
235	42	32	7 号土坑	層土上位	石錐	45.6	15.8	7.9	5.2	頁岩 (中生代・北上山地)
236	42	32	7 号土坑	層土上位	磨製石斧	61.0	34.5	13.9	45.0	頁岩 (中生代・北上山地)
237	43	32	7 号土坑	層土上位	敲石	107.2	93.5	41.6	634.8	花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
238	43	32	9 号土坑	南側壁出面	二次加工	35.7	54.1	11.9	20.8	頁岩 (中生代・北上山地)
239	43	32	11 号土坑	層土	二次加工	19.4	22.3	4.0	1.7	波紋岩 (中生代白亜紀・北上山地)
240	43	32	11 号土坑	層土	打製石斧	48.0	38.0	10.1	24.5	砂岩 (中生代・北上山地)
241	43	32	13 号土坑	層土北側	打製石斧	50.1	39.5	13.4	33.4	繩粒花崗閃綠岩 (中生代白亜紀・北上山地)
242	43	32	13 号土坑	層土中位	柳苔	115.8	138.0	51.9	1274.4	繩粒花崗閃綠岩 (中生代白亜紀・北上山地)
243	43	32	15 号土坑	層土	二次加工削片	34.5	15.0	8.1	4.1	頁岩 (中生代・北上山地)
244	43	32	15 号土坑	層土下位	石錐	55.4	14.7	7.4	5.5	頁岩 (中生代・北上山地)
245	43	33	15 号土坑	層土	打製石斧	75.9	38.2	10.8	43.7	繩粒閃綠岩 (中生代白亜紀・北上山地)
246	44	33	15 号土坑	層土	多面体敲石	59.7	46.7	18.3	66.6	チャート (中生代・北上山地)
247	44	33	15 号土坑	層土	敲石	68.4	59.8	24.3	101.1	頁岩 (中生代・北上山地)
248	44	33	15 号土坑	層土	柳苔	148.9	126.4	47.1	1234.6	チャート (中生代・北上山地)
249	44	33	15 号土坑	6 号住居跡床面から 110cm	柳苔	83.5	128.2	51.0	727.1	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
250	44	33	15 号土坑	層土	磨石	97.1	74.6	60.3	605.6	花崗岩 (中生代白亜紀・北上山地)
251	45	33	19 号土坑	層土	打製石斧	55.4	40.2	13.9	37.0	繩粒閃綠岩 (中生代白亜紀・北上山地)
252	45	33	ビット 1	層土中位	柳苔	219.2	92.9	63.1	1554.2	ヒン岩 (中生代白亜紀・北上山地)
253	45	33	14M グリッド 2 号住居跡付近	V 層	石錐	34.7	24.7	7.4	2.6	頁岩 (中生代・北上山地)
254	45	33	13P グリッド	-	石錐未成品	46.7	21.4	6.3	6.1	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
255	45	33	2 号住居跡隣接東側	I 層	打製石斧	70.9	44.1	16.2	69.1	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
256	45	33	5D グリッド	-	打製石斧	74.9	38.4	15.8	48.9	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
257	45	33	10K グリッド	-	凹石	95.2	49.2	40.5	295.6	カルンフェルス (中生代 (変成は中生代白亜紀)・北上山地)
258	45	33	貴尋	I 層	敲石	80.3	70.2	34.4	275.7	砂岩 (中生代・北上山地)

第6表 土製品観察表

測量番号	団	写団	種別	出土地点	層位	幅(cm)	幅±(cm)	奥行き(cm)	重量(g)
168	34	28	粘土塊	2号住居跡	伊2層土	2.5	1.5	1.3	27
169	34	28	粘土塊	2号住居跡	Q3 粘土上層	2.4	2.6	1.4	6.3
170	34	28	粘土塊	2号住居跡	Q41層	2.6	1.8	1.4	4.6
171	34	28	粘土塊	4号住居跡	伊2層土	2	1.96	1.4	2.9
172	34	28	粘土塊	13号土坑	覆土中位	3	2.9	2.1	13.1

第7表 コハク・骨観察表

測量番号	団	写団	種別	出土地点	層位
259	—	33	コハク	4号土坑	1層
260	—	33	コハク	6号土坑	株地面から-155cm
261	—	33	骨	6号土坑	株地面から-120cm

## VI 自然科学分析 放射性炭素年代（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

下村遺跡は、岩手県下閉伊郡普代村第3地割字黒崎18番地1ほか（北緯40°00'3"、東経141°55'42.8")に所在する。測定対象試料は、7号住居の床面から出土した木炭3点である（表1）。

この住居跡は焼失住居で、測定対象とした木炭は屋根構築材が炭化したものと捉えられている。時期は繩文時代中期中葉から後葉頃と推定されている。

### 2 測定の意義

試料が出土した住居跡の年代を検討する。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA : Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塗酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時に「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>13</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{14}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である（表1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として測る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代は  $\delta^{14}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C 年代と誤

差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい (<sup>14</sup>Cが少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modernとする。この値も $\delta^{14}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{14}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の<sup>14</sup>C年代は、 $4080 \pm 30\text{yrBP}$  (炭化物・1) から  $4000 \pm 30\text{yrBP}$  (炭化物・3) の狭い範囲にまとまる。历年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、最も古い炭化物・1が $4783 \sim 4523\text{cal BP}$ の間に3つの範囲、最も新しい炭化物・3が $4515 \sim 4427\text{cal BP}$ の間に2つの範囲で示される。3点の年代値はおおむね近いが、若干幅がある。推定される縄文時代中期中葉から後葉におおむね含まれるが、炭化物・3はやや新しい値となっている (小林2017、小林編2008)。

なお、今回の試料はすべて木炭であるため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された試料にはいずれも樹皮が確認されていないことから、試料となった木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

試料の炭素含有率はいずれも約70%の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{14}\text{C}$ 補正値)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{14}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{14}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181680	炭化物・1	7号住居 床面	木炭	AAA	-26.10 $\pm$ 0.21	$4,080 \pm 30$	$60.17 \pm 0.20$
IAAA-181681	炭化物・2	7号住居 床面	木炭	AAA	-25.95 $\pm$ 0.21	$4,050 \pm 30$	$60.38 \pm 0.20$
IAAA-181682	炭化物・3	7号住居 床面	木炭	AAA	-26.38 $\pm$ 0.19	$4,000 \pm 30$	$60.78 \pm 0.21$

[IAA登録番号:#9355]

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正値、曆年較正用  $^{14}\text{C}$  年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 曆年年代範囲	2 $\sigma$ 曆年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181680	$4,100 \pm 30$	$60.03 \pm 0.20$	$4,081 \pm 27$	4783calBP - 4767calBP (10.2%) 4612calBP - 4596calBP ( 8.3%) 4586calBP - 4523calBP (49.6%)	4805calBP - 4761calBP (15.8%) 4696calBP - 4674calBP ( 3.0%) 4647calBP - 4515calBP (70.6%) 4472calBP - 4446calBP ( 6.0%)
IAAA-181681	$4,070 \pm 30$	$60.26 \pm 0.20$	$4,052 \pm 26$	4570calBP - 4514calBP (43.4%) 4474calBP - 4445calBP (24.8%)	4783calBP - 4767calBP ( 4.0%) 4611calBP - 4596calBP ( 2.4%) 4585calBP - 4436calBP (89.0%)
IAAA-181682	$4,020 \pm 30$	$60.60 \pm 0.21$	$4,000 \pm 27$	4515calBP - 4472calBP (48.2%) 4446calBP - 4427calBP (20.0%)	4522calBP - 4420calBP (95.4%)

[参考値]

## 文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
 小林謙一 2017 繩文時代の実年代 - 土器型式編年と炭素 14 年代 -, 同成社  
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション  
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887  
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19(3), 355-363

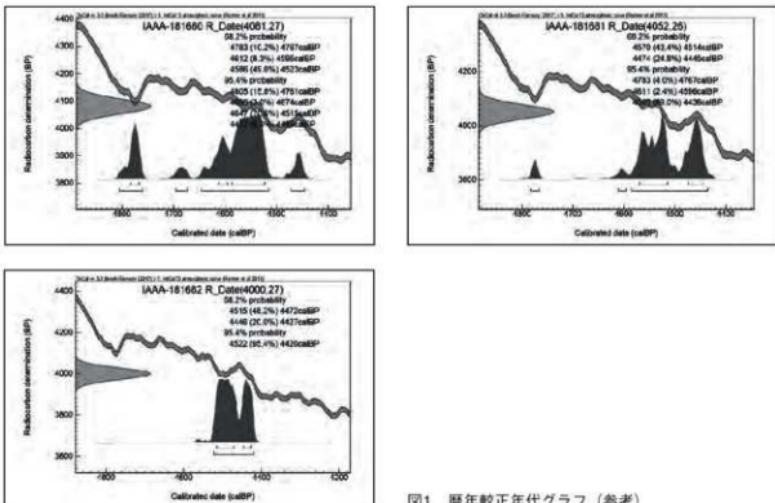


図1 曆年較正年代グラフ（参考）

## VII 総括

今回の下村遺跡発掘調査によって検出した遺構は、住居跡13棟、土坑20基、陥し穴状遺構2基、柱穴状小土坑1個である。

本章では、下村遺跡住居跡・土坑・出土土器・放射性炭素年代測定結果から考えられる遺構の時期と集落構造について若干の考察を加える。

### 1 住居跡

今回検出した住居跡13棟を第46図に示した。住居跡は3種の大きさに分類することができる。

大型住居と考えられるのは、2・3・7・8・13号住居跡である。13号住居跡は一部しか調査できなかつたが、直線に近い壁が検出されたため大型住居跡の可能性が高いと考えられる。2・3・7・8号住居跡に共通するのは、炉が2基作られていること、そして深い柱穴が作られていることである。炉2基は、石開炉1基+地床炉1基で構成されていることも共通している。大型住居跡は、調査区内でも標高の高い地点にまとまりがあり、さらに2・3・8号住居跡には重複が認められることから、大型住居跡が検出された地点は集落の中心部或いは中心部に近いことが推測できる。

中型住居跡と考えられるのは1・4・10号住居跡である。1号住居跡には石開炉1基、地床炉が1基検出された。4号住居跡からは複式炉が検出された。1号住居跡のピットからは大木8a式土器片、4号住居跡から出土した土器は大部分が大木10式期であるため、炉形態の違いは時期の違いと考えられる。中型住居跡は、調査区内では大型住居跡域の外側のやや低い地点に位置している。なお、11号住居跡は複式炉周辺しか検出できなかつたため第46図に掲載しなかつたが、炉形態が4号住居跡に類似するため中型住居跡の可能性が考えられる。

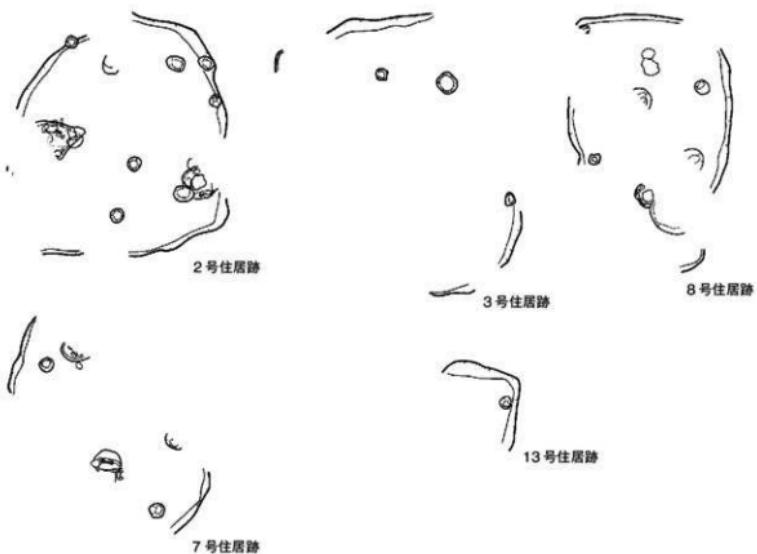
小型住居跡と考えられるのは、5・6・12号住居跡である。共通する特徴は、柱穴がないことである。21号土坑に近い12号住居跡からは土器3個体が出土している。うち2点は地床炉上面から出土している。調査区内では、大型住居跡の外側に配置されている状況が覗える。

### 2 土坑

土坑は20基検出した。第47図土坑集成図にまとめたとおり、大型フラスコ状土坑・小型フラスコ状土坑・ビーカー状土坑・楕円形土坑の4種に分類することができる。

大型フラスコ状土坑は3・6・7・8・12・15号土坑が該当する。開口部径2m弱、深さ・底部径2m強のフラスコ状を呈し、このような大型フラスコ状土坑は住居域から離れた北側傾斜地点にまとまっている。3・6・15号土坑からは遺物が多量に出土している。特に6・15号土坑の出土量は多い。8・12号土坑からは遺物はほとんど出土していない。堆積状況を観察すると、遺物が多い3・6・15号土坑は黒褐色土と褐色土が互層をなすなど、土坑使用後に開口していたと考えられる。一方、遺物がほとんど出土していない8・12号土坑は堆積単位が大きく、使用後に長く開口していたとは考え難い。12号土坑は10号住居跡構築に伴って埋められた可能性が考えられるが、8号土坑の近くにあるのは2号陥し穴状遺構のみである。8号土坑の堆積には、さらに別遺構の構築が関わっている可能性もある。

大型住居



中型住居



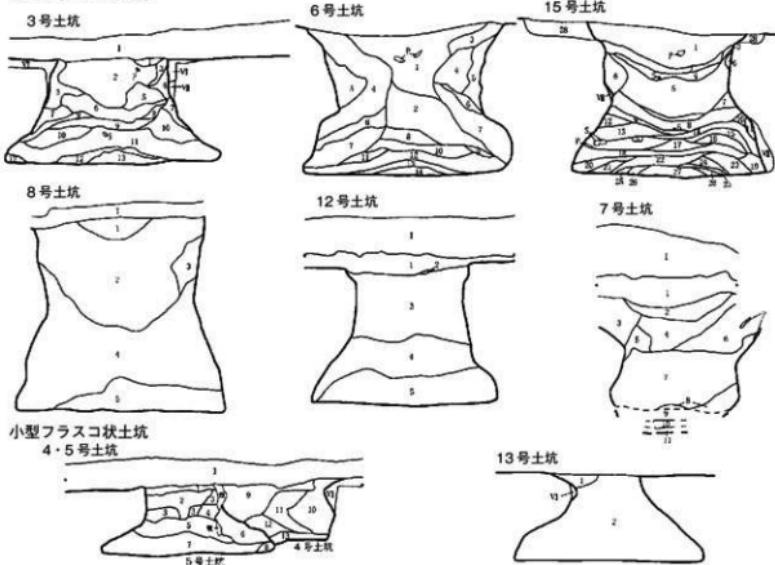
小型住居



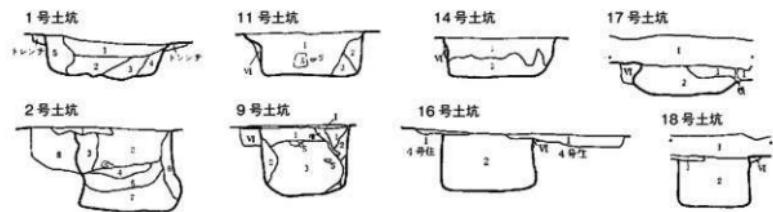
1/100

第46図 住居跡集成図

## 大型フラスコ状土坑



## ビーカー状土坑



## 橢円形土坑



第47図 土坑集成図

小型のフ拉斯コ状土坑は4・5・13号土坑である。大型と比較すると圧倒的に小さい。遺物は比較的多く出土している。検出される位置は中型住居跡域から大型フ拉斯コ状土坑域にかけてまとまる傾向が認められる。

ビーカー状土坑は1・2・9・11・14・16・17・18号土坑が該当する。1・11・14・17号土坑は浅く、2・9・16・18号土坑は寸胴形である。遺物は少ない。検出位置は、大型・中型住居跡域に限定される。検出位置及び規模の観点から、住居域で日常的に使用する貯蔵穴である可能性が考えられる。

楕円形土坑は21号土坑のみである。大型住居跡よりも若干高い地点に位置し、近くに貯蔵穴は認められない。堆積状況から、人為的に埋め戻した可能性がある。また、他の土坑と形状・規模・検出位置が明らかに異なり、墓の可能性が考えられる。

### 3 土 器

今回の調査で出土した土器は、大部分が遺構内資料である。第48・49図に全体の形状が分かる土器を集成した。土器から考えられる遺構の時期は以下のとおりである。

大木8a式期…1号住居跡（中型）

大木8b式・榎林式期…8号住居跡（大型）・12号住居跡（小型）、

6号土坑（大型フ拉斯コ）・7号土坑（大型フ拉斯コ）・15号土坑（大型フ拉斯コ）、

13号土坑（小型フ拉斯コ）、

21号土坑（墓）

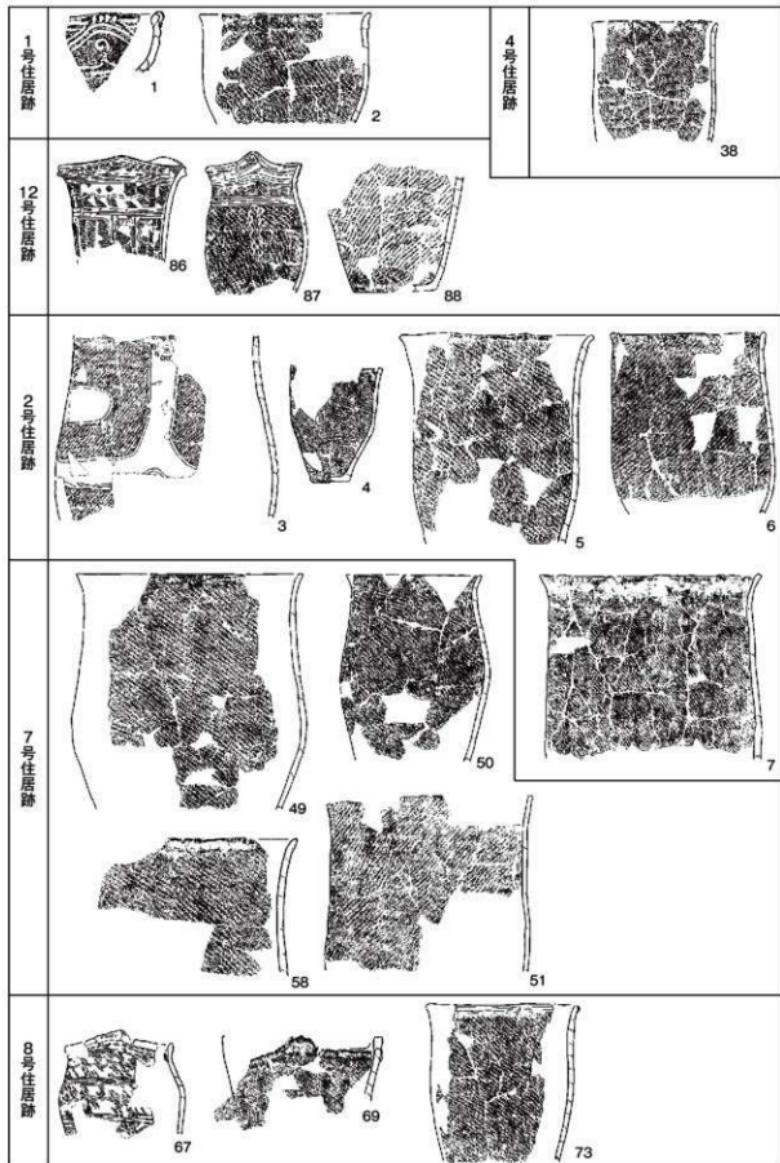
大木10式・大木10式併行期…2号住居跡（大型）・7号住居跡（大型・ $4,000 \sim 4,080 \pm 30$ yrBP）・

4号住居跡（中型）

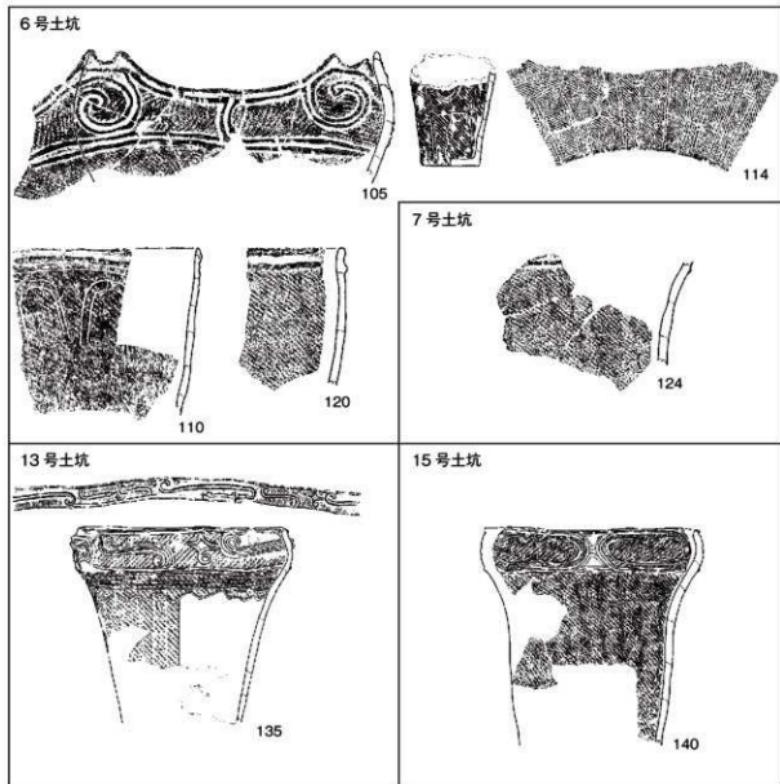
### 4 ま と め

第50図に遺構配置概念図を示した。21号土坑を墓と考えると、墓の外側に大型・中型住居跡とビーカー状土坑、さらに外側に小型住居跡と小型フ拉斯コ状土坑、離れた北側緩斜面に大型フ拉斯コ状土坑が配置される環状形態を呈する可能性が考えられる。現地形で、調査区東側には平坦面が約40m広がっており、集落域の東への広がりを推測できる。また、住居域はさらに西側へも広がる可能性がある。地元の方々から、土器や石器が多く出土するのは西側の斜面地だと伺った。調査区位置図（第3図）を見ると、本調査区から西に約35mの地点に斜面地が認められる。この地点が下村遺跡集落の捨て場と仮定した場合、本調査区から西35mの範囲には集落域が広がっている可能性がある。以上のことから、今回の発掘調査区及び検出遺構分布状況と周辺地形を踏まえると、下村遺跡集落範囲は東西約80mの広がりを推定することができる。

下村遺跡で検出した遺構は、主に縄文時代中期後半である。狭い調査区内の状況に限られるが、大木8a式期に中型住居跡が構築された後、大木8b式・榎林式期には大型・小型住居跡、大型フ拉斯コ状土坑・小型フ拉斯コ状土坑、墓で構成されるようになり、大木10式期には大型・中型住居跡で構成され、それ以降の遺物・遺構は検出されていない。大木8a式期以前では、前期土器片が5号住居跡周辺から出土しており、下村集落はさらに古い時期の遺構が検出される可能性がある。本調査区周辺で工事を行う際には、広範囲に注意が必要である。



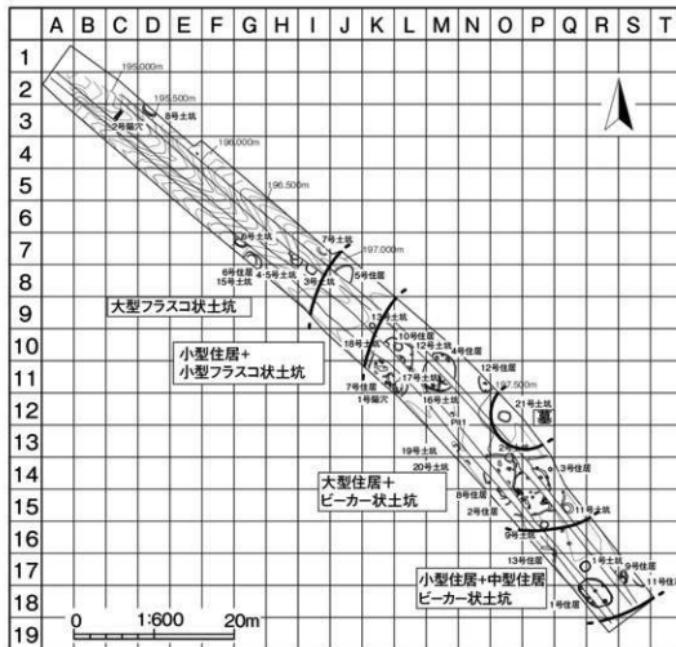
第46図 遺構出土土器集成図（1）



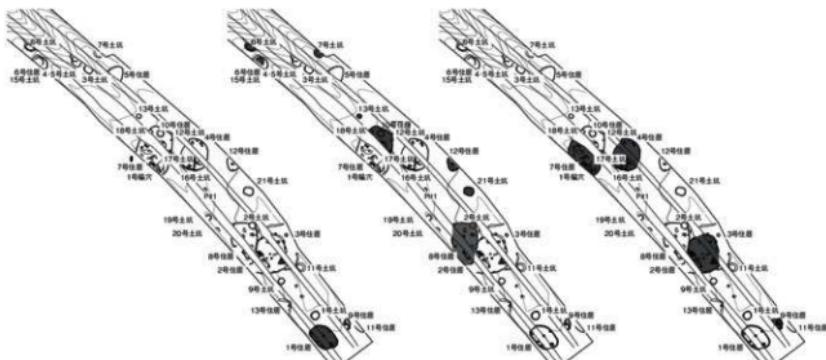
第49図 遺構出土土器集成図 (2)

#### 引用・参考文献

- |          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 興野義一     | 1968 「大木式土器理解のために(Ⅲ)」『考古学ジャーナル』18号 |
| 村越潔      | 1976 「円筒土器に伴う特殊な石器」『東北考古学の諸問題』     |
| 宮古市教育委員会 | 1979 「大付遺跡発掘調査報告書」                 |



第50図 遺構配置概念図



- 熊谷常正 1989「北上川中流域における大木8a式土器」『岩手県立博物館研究報告』第7号
- 八戸市教育委員会 1995「八戸市内遺跡発掘調査報告7」八戸市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 鈴木克彦 1997「注口土器の研究－主として東北地方の注口土器集成－」『研究紀要』第2号青森県埋蔵文化財調査センター
- 鈴木克彦 1998「東北地方北部の縄文中期後半の土器－大木系土器層位の共伴関係土器集成－」『研究紀要』第3号青森県埋蔵文化財調査センター
- 成田滋彦 2003「最花式土器－在地式土器群の様相－」『研究紀要』第8号青森県埋蔵文化財調査センター
- 小保内裕之 2004「八戸市松ヶ崎遺跡出土の縄文時代中期後半の土器について」『第2回東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題』海峽土器編年研究会
- 星雅之 2005「岩手県内におけるTo-Cu 降下期前後の土器群」『特別史跡三内丸山遺跡年報』8青森県教育委員会
- 青森県教育委員会 2005「三内丸山遺跡」年報8
- 星雅之 2006「円筒式土器と大木式土器の境界を探って－三陸沿岸北部北緯40°付近の様相」『JR岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター記要』XXV
- 阿部昭典 2008「縄文時代の社会変動」小林達夫監修未完成考古学叢書6
- 小林達雄編 2008「絶観 縄文土器」株式会社アム・プロモーション
- 青森県史編さん友の会 2017「青森県史 資料編 考古1」
- 盛岡市遺跡の学び館 2018「繁道路」図録
- 〔報告書〕
- 盛岡市教育委員会 1982「柿ノ木平遺跡－昭和50・51年度発掘調査報告－」
- 宮古市教育委員会 1989「千鶴遺跡発掘調査報告書」宮古市埋蔵文化財調査報告書16
- 青森市教育委員会 1993「小三内遺跡発掘調査報告書」青森市埋蔵文化財調査報告書第222集
- 一戸町教育委員会 1993「御所野遺跡I」一戸町文化財調査報告書第32集
- 普代村教育委員会 1998「太田名部遺跡 平成9年度緊急発掘調査報告書」普代村埋蔵文化財調査報告書第1集
- 八戸市教育委員会 1999「西長根遺跡－平成9年度発掘調査－」八戸市埋蔵文化財調査報告書第80集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000「沢田I遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集
- 朝日村教育委員会 2002「元屋敷遺跡II－奥三面ダム開削遺跡発掘調査報告書XIV－」朝日村文化財報告書第22集
- 青森県埋蔵文化財調査センター 2002「畠内遺跡発掘調査報告書Ⅷ」青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004「和野I遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第452集
- 青森県埋蔵文化財調査センター 2005「近野遺跡発掘調査報告書Ⅸ」青森県埋蔵文化財調査報告書第394集
- 一戸町教育委員会 2006「御所野遺跡III」一戸町文化財調査報告書第53集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008「力持遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
- 盛岡市遺跡の学び館 2008「柿ノ木平遺跡 塙根遺跡－浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書IV－」
- 一戸町教育委員会 2015「御所野遺跡V－総括報告書－」一戸町文化財調査報告書第70集
- 青森県埋蔵文化財調査センター 2018「沢部（2）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第594集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019「力持遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第694集

# 写 真 図 版



遺跡遠景



遺跡近影

写真図版 1 航空写真



2号住居跡出土土器



敲石及び石斧



1号住居跡 全景（北東から）



1号住居跡 断面（南から）

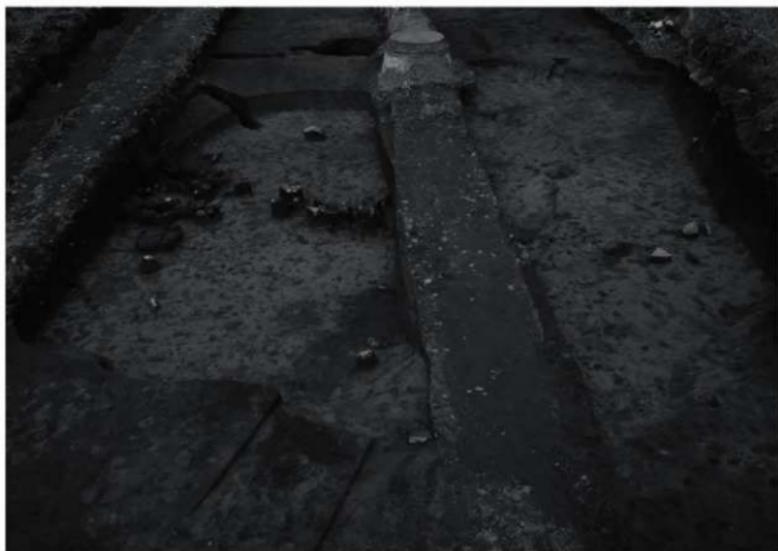


1号住居跡炉1 断面（南から）



1号住居跡炉2 断面（南西から）

写真図版3 1号住居跡



2・3号住居跡 全景（南東から）



2号住居跡 断面（西から）



2・3号住居跡 断面（北から）



2号住居跡 炉1 NS断面（西から）



2号住居跡 炉1 EW断面（北から）



2号住居跡 炉1 全景



2・3号住居跡全景



2号住居跡 出土状況

写真図版5 2・3号住居跡（2）



4号住居跡 全景（南から）



4号住居跡 断面（北東から）



4号住居跡 断面（南東から）



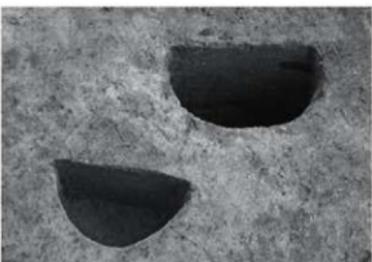
炉 全景 (南から)



炉 断面 (南から)



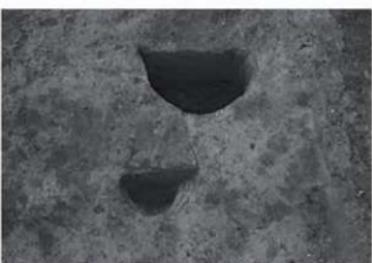
ピット1 (南西から)



ピット2・3 (西から)



ピット4・5 (南から)



ピット6・7 (南から)



1遺物出土状況 (西から)



4号住居跡 全景

写真図版7 4号住居跡 (2)



5号住居跡（南東から）



6号住居跡（北東から）



7号住居跡 全景（北東から）



7号住居跡 断面（北東から）



7号住居跡 断面（北西から）

写真図版9 7号住居跡（1）



炉1 棟出（北から）



炉1 断面（東から）



炉1 断面（北から）



炉2 棟出（西から）



ピット1（西から）



炉2 断面（西から）



ピット2（西から）



ピット3（東から）



8号住居跡 全景（南から）



8号住居跡 断面（東から）



8号住居跡 断面（北から）

写真図版11 8号住居跡（1）



8号住居跡炉1 断面（西から）



8号住居跡炉1 断面（南から）



8号住居跡炉2 断面（西から）



8号住居跡往住内土坑 断面（西から）



9号住居跡（南西から）



10号住居跡 全景（南から）



10号住居跡 積出（東から）



10号住居跡 断面（東から）



10号住居跡 断面（南から）



11号住居跡 断面（北東から）



12号住居跡 全景（西から）

写真図版13 10号住居跡（2）、11号住居跡、12号住居跡（1）



12号住居跡 突面（西から）



12号住居跡 出土状況（西から）



13号住居跡 全景（北から）



13号住居跡 断面（北から）



1号陥し穴状遺構 全景（西から）



2号陥し穴状遺構 断面（東から）



1号陥し穴状遺構 断面（南から）



ピット1（東から）

写真図版14 12号住居跡（2）、13号住居跡、陥し穴状遺構、ピット1



1号土坑 全景（北から）



1号土坑 断面（北から）



2号土坑 全景（南から）



2号土坑 断面（南から）



3号土坑 断面（西から）



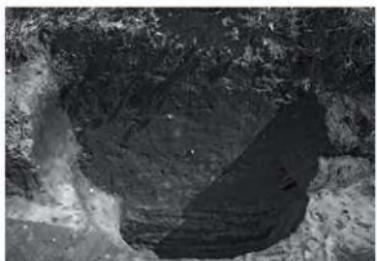
4・5号土坑 断面（南西から）



5号土坑 遺物出土状況（西から）



6号土坑 断面（西から）



7号土坑 断面（西から）



8号土坑 断面（西から）



9号土坑 全景（西から）



9号土坑 断面（西から）



11号土坑 全景（東から）



11号土坑 断面（東から）



12号土坑 断面（東から）



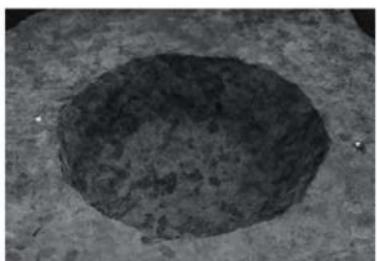
13号土坑 断面（東から）



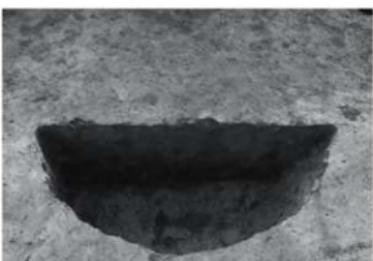
13号土坑 全景（西から）



13号土坑 賽物出土状況（南から）



14号土坑 全景（東から）



14号土坑 断面（東から）



16号土坑 全景（西から）



16号土坑 断面（西から）



17号土坑 断面（東から）



18号土坑 断面（東から）

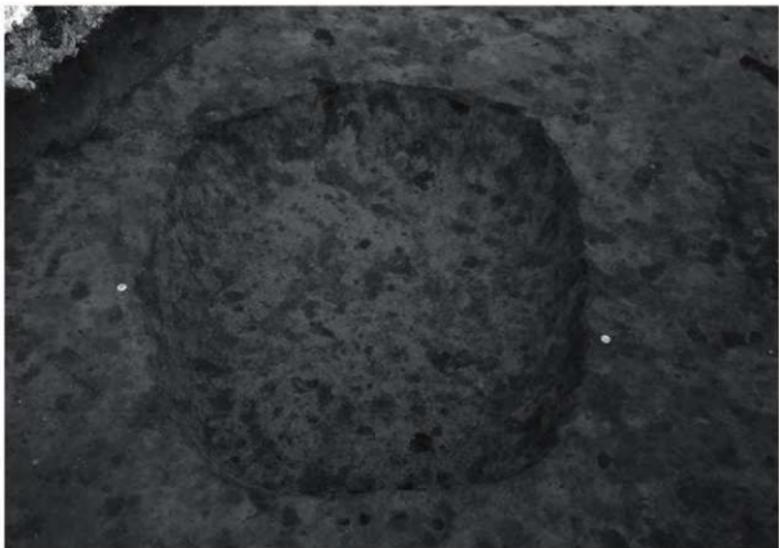
写真図版17 13・14・16~18号土坑



19号土坑 断面（東から）



20号土坑 断面（東から）



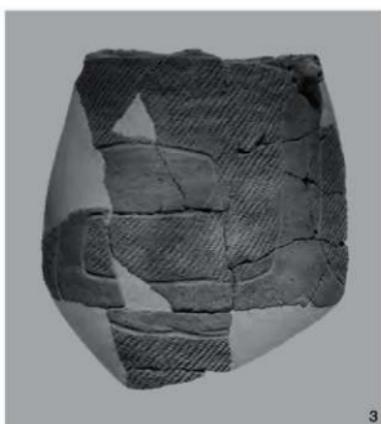
21号土坑 全景（北から）



21号土坑 断面（西から）



基本土層



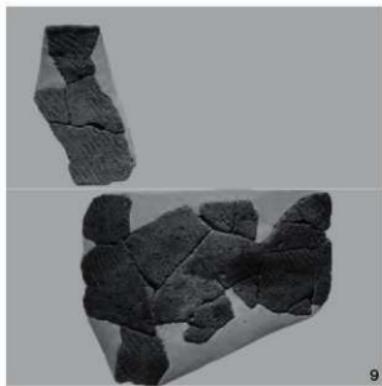
写真図版19 1・2号住居跡出土土器



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19

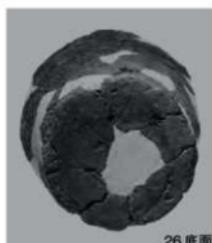


20

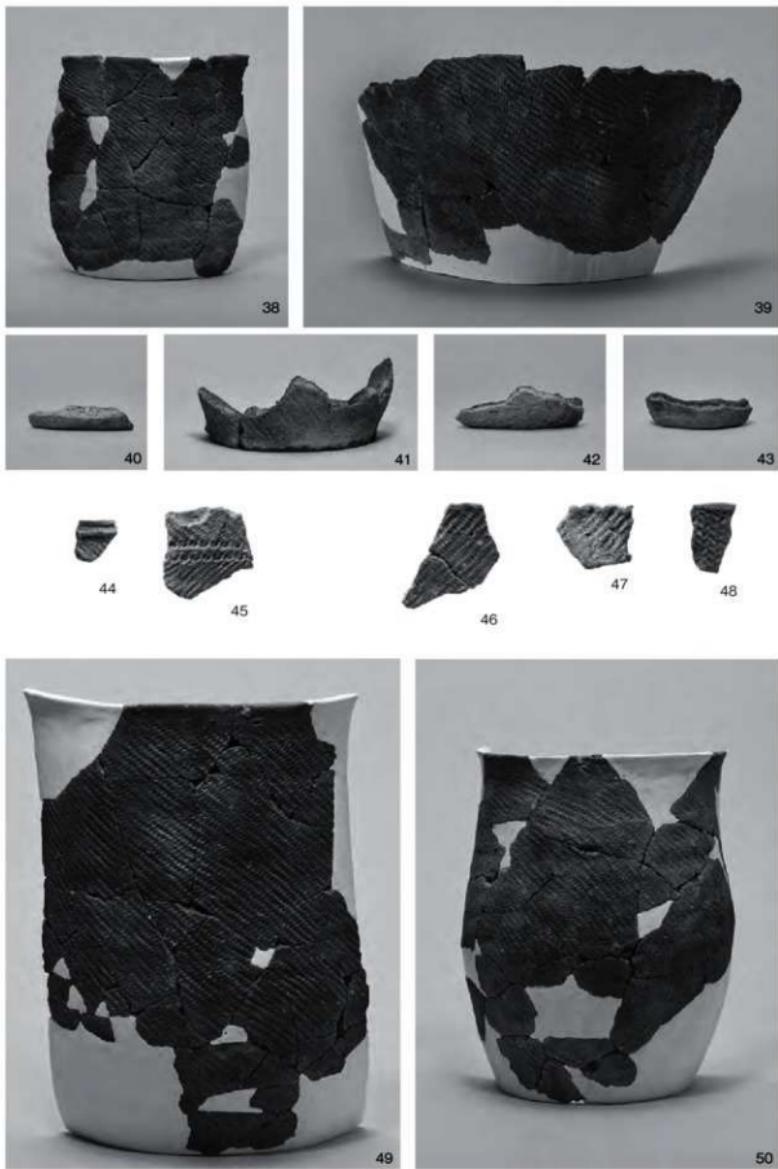


21

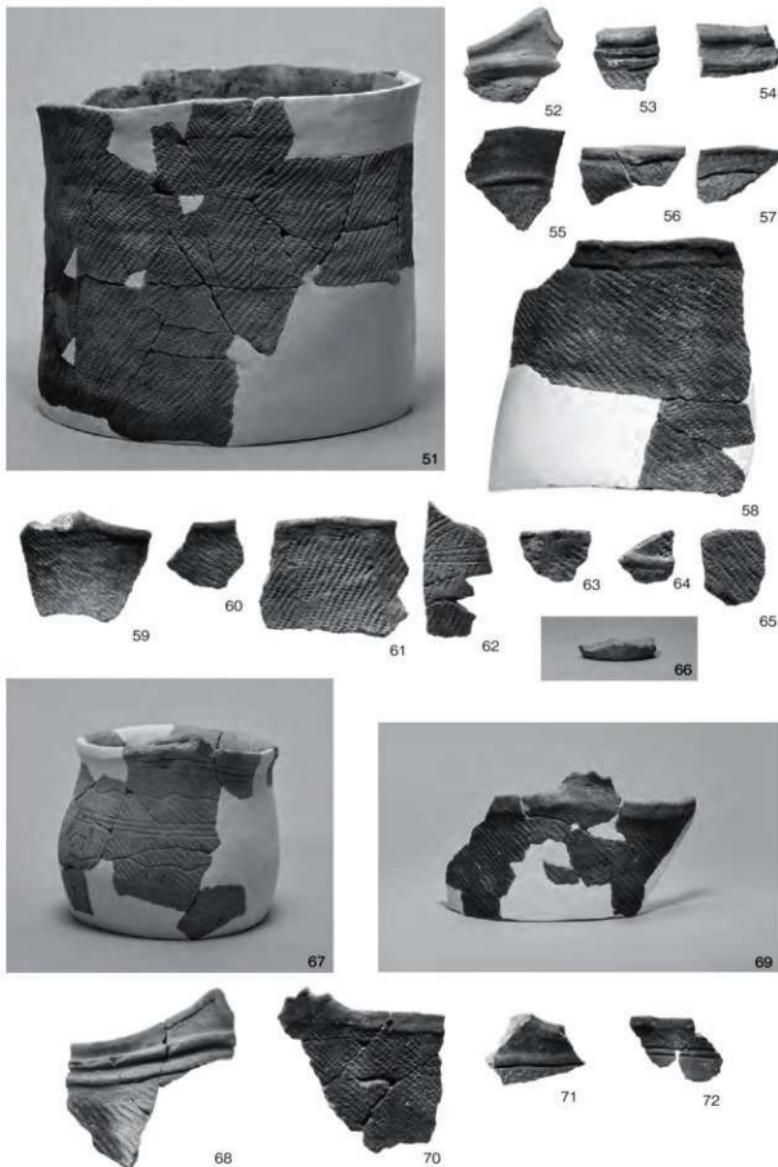
写真図版20 2号住居跡出土土器



写真図版21 2・4号住居跡出土土器



写真図版22 4~7号住居跡出土土器



写真図版23 7・8号住居跡出土土器



写真図版24 8・10～13号住居跡、1・2号土坑出土土器



104



106



108



110



107



109



111



113



写真図版25 3~6号土坑出土土器



114



119



115



116



117



118



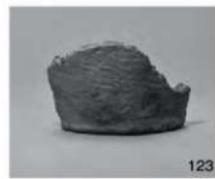
120



121



122



123



124



125



126



127



128



130



131



132



133



134

写真図版26 6~8・11号土坑出土土器



135



136

137

138

139



140



141



142

143

144

145

149

150



151

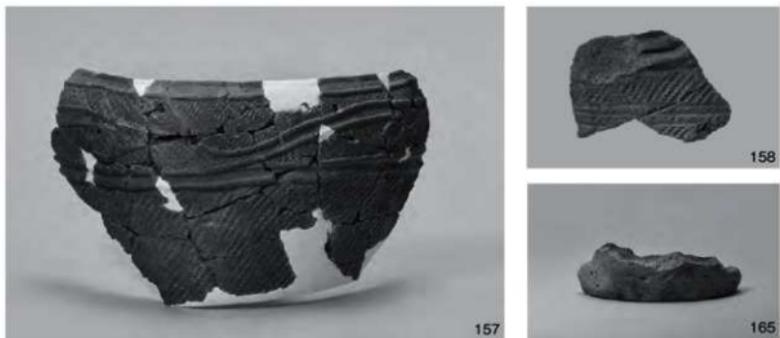


146

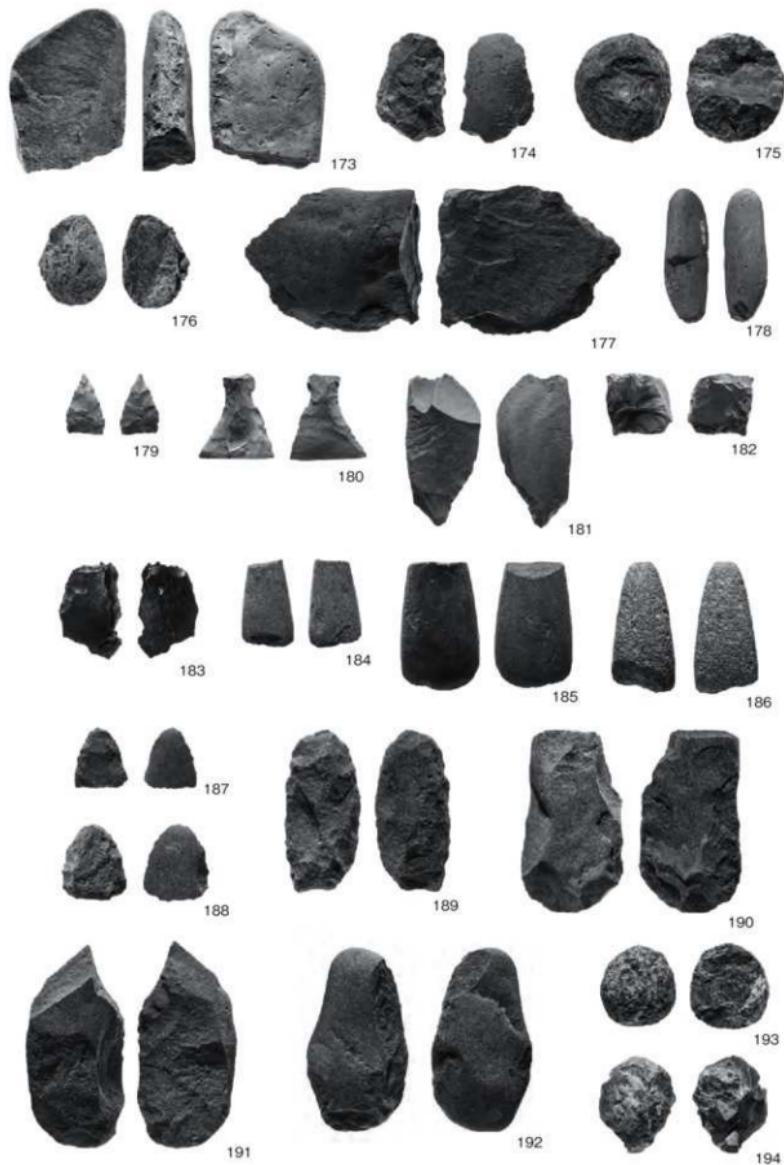


147

写真図版27 13~15号土坑出土土器



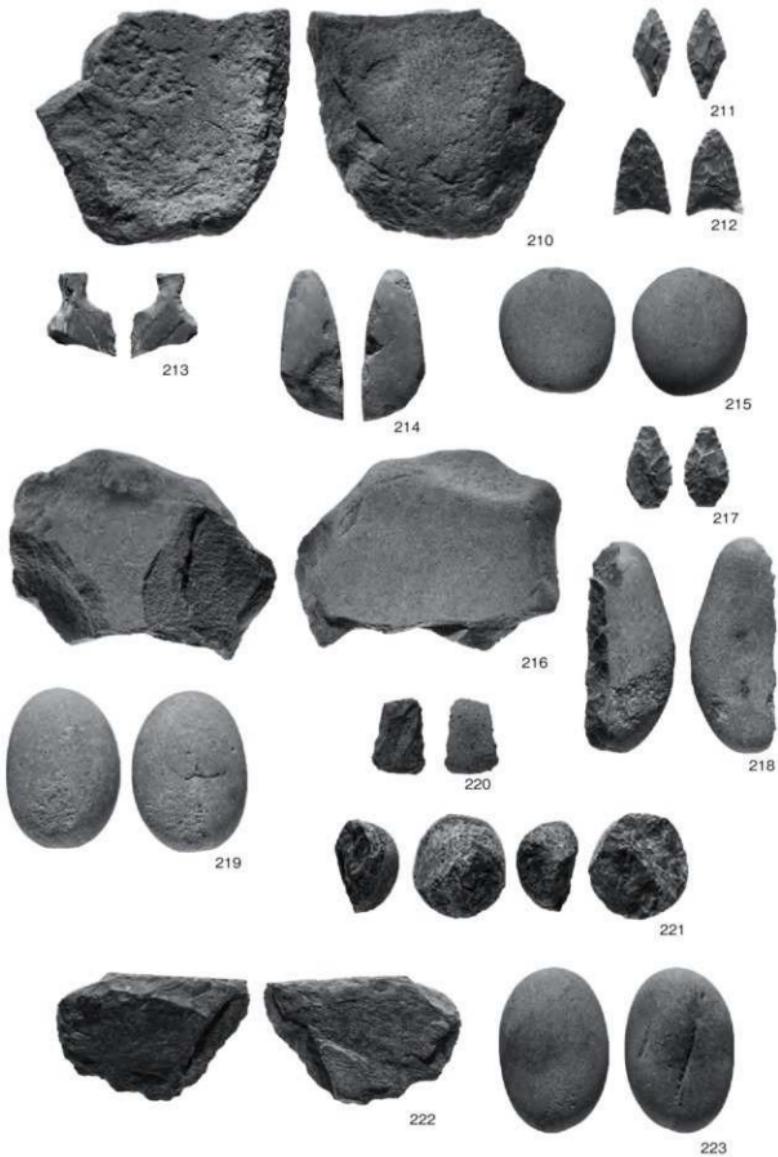
写真図版28 19・21号土坑、2号陥し穴状遺構、遺構外出土土器・陶磁器・土製品



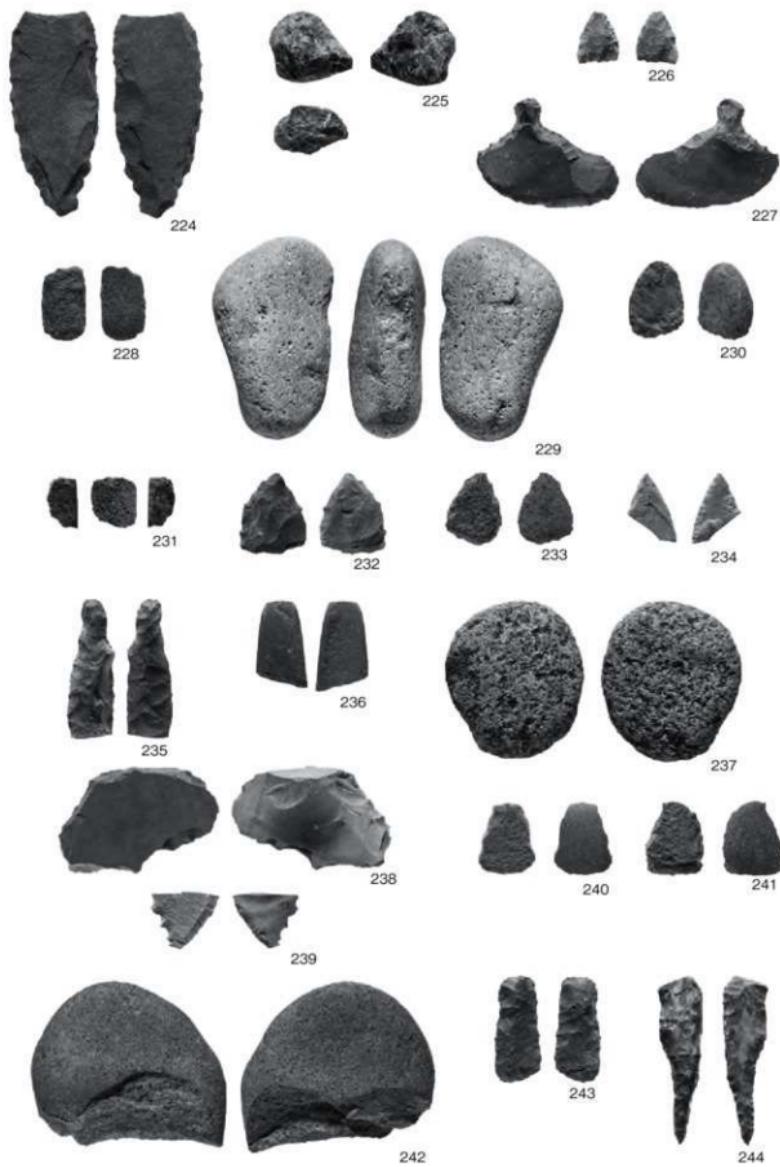
写真図版29 1・2号住居跡出土石器



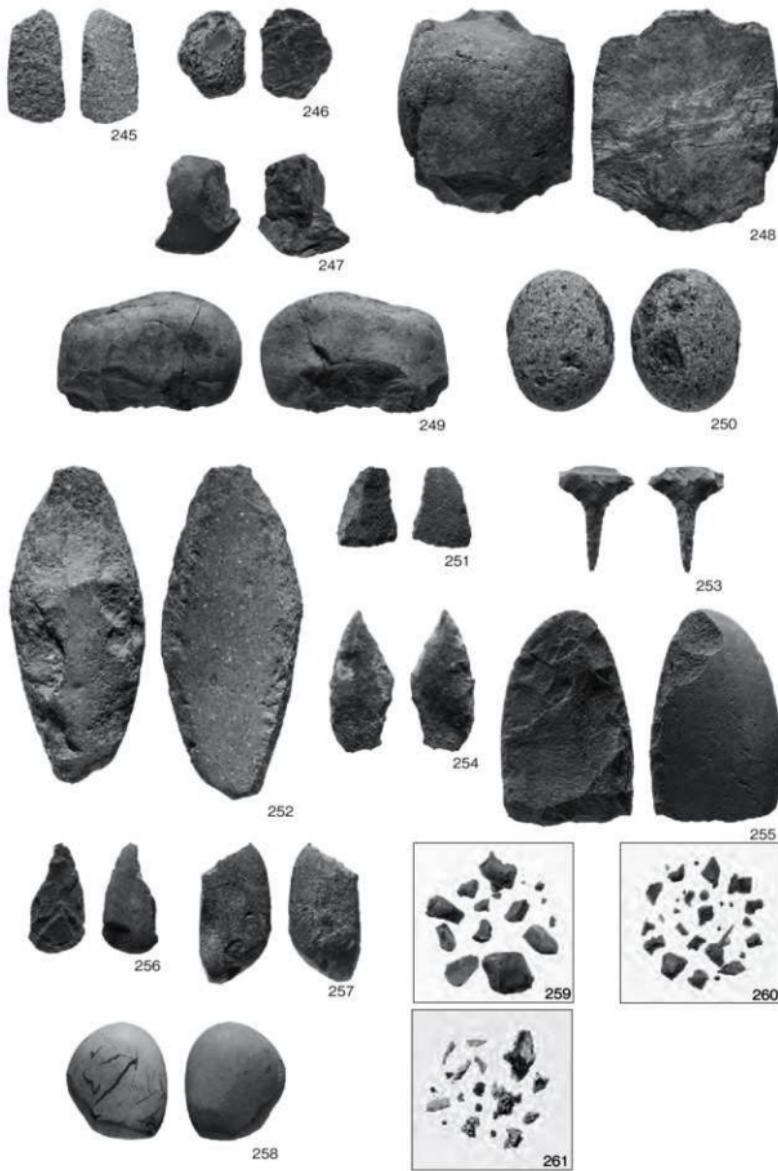
写真図版30 2~7号住居跡出土石器



写真図版31 7~9・11~13号住居跡出土石器



写真図版32 2~4・6・7・9・11・13・15号土坑出土石器



写真図版33 15・19号土坑、ピット1、遺構外出土石器・コハク・骨

## 報告書抄録

ふりがな	しもむらいせきはつくつちょうさほうこくしょ								
書名	下村遺跡発掘調査報告書								
副書名	村道拡幅（黒崎地区）事業関連遺跡発掘調査								
卷次									
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第720集								
編著者名	八木勝枝・戦場由裕								
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター								
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地								
発行年月日	令和2年3月13日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積	調査原因	
下村遺跡	岩手県下閉伊郡普代村第3地割字黒崎18番地1ほか	市町村	遺跡番号	03485	JG93-2158	40° 05' 05"	141° 55' 43"	2018.08.01 ~ 2018.10.05	869 m <sup>2</sup> 村道拡幅（黒崎地区）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
下村遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡 13棟 土坑 20基 縮穴状遺構 2基 ピット 1個	縄文土器、石器					
要約	縄文時代中期後半の集落遺跡を調査した。住居跡は大型・中型・小型の3種がある。土坑は、プラスコ状土坑9基、土坑10基がある。この他、土坑1基は梢円形を呈するもので、大型住居跡が位置する区域の中央で検出した。各遺構の配置から、中央に墓、大型住居跡・小型貯蔵穴、中型住居跡・小型プラスコ状土坑、小型住居跡、大型プラスコ状土坑が計画的に配置された環状形態を構成する可能性が考えられる。								

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第720集

## 下村遺跡発掘調査報告書

村道拡幅（黒崎地区）事業関連発掘調査

印刷 令和2年3月10日

発行 令和2年3月13日

編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電 話 (019) 638-9001

發 行 普代村  
〒028-8392 岩手県下閉伊郡普代村第9地割字銅  
屋13番地2  
電 話 (0194) 35-2111  
(公財) 岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電 話 (019) 654-2235

印 刷 株式会社 阿部印刷  
〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町2-2  
電 話 (019) 624-2242

---